
神奈川県立近代美術館

年2013報

ANNUAL REPORT



神奈川県立近代美術館

年2013報

ANNUAL REPORT

目次

あいさつ	3
展覧会活動	
会期・観覧者数一覧	4
葉山館	5
鎌倉館	13
鎌倉別館	17
教育普及活動	
受講・参加プログラム(講演会・ギャラリートーク・学校連携プログラム等)	21
研修等受入プログラム(実習・研修・団体来館等)	23
視察状況	23
美術図書室 [藤代知子]	24
美術館紹介・広報掲載実績等	25
刊行物	26
2013年度の教育普及活動 [橋秀文]	27
作品蒐集管理活動	
購入・寄贈状況	28
寄託状況	28
新収蔵作品一覧	28
館外貸出作品一覧	42
修復報告	44
修復作品一覧	47
調査研究活動	
研究・調査報告	
野中ユリの現在 [橋秀文]	48
グラヴリートの検閲番号等から特定されるポスター発行時期とその考察の展開 ——旧ソヴィエト連邦における宣伝印刷物の文化学的研究(2) [靱山昌夫]	50
調査研究・執筆等の発表	53
外部資金の活用	53
講師派遣・外部委員等就任	53
運営・管理報告	
概況(沿革・所掌事務・施設の状況)	55
収入・支出の状況	55
関係法規	56
組織	57
職員一覧	58

あいさつ

神奈川県立近代美術館2013年度年報を刊行いたします。当該年度は、葉山館の開館10周年を迎えました。鎌倉館、鎌倉別館とともに三館体制での運営が開始されてからの10年というひとつの節目の年となったわけです。

葉山館では、展示替えのたびに手入れをしているとはいえ、10年の歳月で展示室の白い壁に無数の展示の傷跡が残りました。そこで2013年度最初の「レーピン展」のあとの展示替え期間を一ヶ月に延長し、こうした10年間に傷んだ箇所や、点検整備などを重点的に行いました。葉山館はそれほど大規模な施設ではありませんが、一ヶ月という期間は充分ではなく、いくつかの宿題が残されました。しかし、きれいに蘇った壁に開館10周年を記念する「戦争／美術 1940-1950」展の、丸木位里・俊夫妻の代表作《原爆の図》の第1部から第4部を前後期に分けて並べるなど、1940年代の重要作品を紹介することができました。また、葉山館ではそのあとに松本瑠樹コレクションによるロシアとソヴィエトのポスターを並べ（「ユートピアを求めて ポスターに見るロシア・アヴァンギャルドとソヴィエト・モダニズム」）、「柳瀬正夢」展を開催しました。

鎌倉館と鎌倉別館においても、当館の豊富な所蔵品に寄託作品などを加えて、本館で片岡球子のスケッチブックと本画を比較し、同時に、鎌倉別館では戦後の日本画の特徴をしめす優れた作品を選んで展示しました。また、鎌倉館では、松田正平、加納光於の個展を開催することができました。「光のある場所」と題して、空気の澄む冬に、彫刻室も含めて主題展としてコレクションを並べる機会もありました。2009年度に鎌倉館で個展をした内藤礼の《精霊(わたしのそばにいてください)》を、それに合わせて特別に再展示しました。別館では、野中ユリの個展、西洋の銅版画の歴史を一望する展示にジゼル・ツェラン＝レトランジュの特別展示、また、近代彫刻のコレクション紹介に加えてズビネック・セカールの彫刻をまとめて展示することができました。

収集活動については、限られた予算のなかで、加納光於、ジゼル・ツェラン＝レトランジュの代表的な作品、桑山忠明の葉山館のスペースのために制作された作品の一部を購入することができ、600点を越す作品が寄贈されました。

さらに各展覧会には、講演会、ワークショップ、ギャラリートーク、イベントなどの教育普及的プログラムが多彩に用意され、平行して、そのほかに地域の教育機関との連携によるプログラムも継続的に展開されました。

美術館は、実に多くの人々の協力と理解があって成立する存在です。常日頃よりご理解ご協力を頂いている関係各位に、最後になりましたが、改めて深く謝意を表したいと思います。

2015年3月

神奈川県立近代美術館
館長 水沢 勉

展覧会活動

2013年度展覧会 会期・観覧者数一覧

	展覧会名	会期	日数	観覧料	観覧者数(人)				他館との 開催協力 など
					有料観 覧者数	無料観 覧者数	うち 中学生 以下	観覧者 数合計	
葉 山 館	ロシア近代絵画の頂点 国立トレチャコフ美術館所蔵 レービン展	4/6～5/26	46日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生 1,100円 950円 550円 100円	5,862	2,838	231	8,700	巡回： Bunkamura ザ・ミュージアム 浜松市美術館 姫路市立美術館
	戦争／美術 1940-1950 モダニズムの連鎖と変容	7/6～10/14	90日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生 1,000円 850円 500円 100円	6,580	3,024	722	9,604	
	松本瑠樹コレクション ユートピアを求めて ポスターに見るロシア・アヴァン ギャルドとソヴィエト・モダニズム	10/26～1/26	78日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生 1,100円 950円 550円 100円	5,070	2,215	254	7,285	巡回： 世田谷美術館
	柳瀬正夢 1900-1945 時代の光と影を描く	2/11～3/23	35日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生 1,000円 850円 500円 100円	2,290	1,611	184	3,901	巡回： 北九州市立美術館 愛媛県美術館
	小計		249日		19,802	9,688	1,391	29,490	
鎌 倉 館	片岡球子 創造の秘密 日本画家のスケッチブックから	4/6～5/26	46日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生 700円 550円 350円 100円	6,558	2,911	743	9,469	
	生誕100年 松田正平展 陽だまりの色とかたち	6/8～9/1	75日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生 900円 750円 450円 100円	12,661	3,968	1,680	16,629	巡回： 山口県立美術館
	加納光於 色身—未だ視ぬ波頭よ 2013	9/14～12/1	72日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生 700円 550円 350円 100円	4,758	3,063	752	7,821	
	光のある場所 コレクションにみる 近現代美術の現実感	12/14～3/23	81日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生 700円 550円 350円 100円	5,455	1,839	736	7,294	
	小計		274日		29,432	11,781	3,911	41,213	
鎌 倉 別 館	日本画の伝統と革新 併陳：新収蔵作品展	4/6～5/26	46日	一般 20歳未満・学生 65歳以上・高校生 250円 150円 100円	2,798	996	126	3,794	
	野中ユリ展 美しい本とともに	6/8～9/1	75日	一般 20歳未満・学生 65歳以上・高校生 250円 150円 100円	5,952	1,700	724	7,652	
	西洋版画の流れ ブリュッゲルからピカソまで 特別展示： ジゼル・ツェラン＝レトランジュ	9/14～12/1	72日	一般 20歳未満・学生 65歳以上・高校生 250円 150円 100円	2,488	1,486	270	3,974	
	ロダンからはじまる 彫刻の近代 特集展示：ズビネック・セカール	12/14～3/23	81日	一般 20歳未満・学生 65歳以上・高校生 250円 150円 100円	2,655	733	162	3,388	
	小計		274日		13,893	4,915	1,282	18,808	
	合 計	12展覧会			63,127	26,384	6,584	89,511	

689

ロシア近代絵画の頂点 国立トレチャコフ美術館所蔵 レーピン展

The Zenith of Modern Russian Painting — Ilya Repin: Master Works from The State Tretyakov Gallery

19世紀後半から20世紀初頭の帝政ロシアで活躍したリアリズム絵画の巨匠イリヤ・レーピン(1884-1930)。当時の社会を洞察した《思いがけなく》や母国の歴史に取材した《皇女ソフィヤ》などを描いたのみならず、作曲家モデスト・ムソルグスキーや作家レフ・トルストイなど華麗なるロシア文化を代表する人々、そして、身近な家族の肖像画も数多く残した。ロシア美術の殿堂、モスクワの国立トレチャコフ美術館のコレクションから79点の油彩画、水彩画、デッサンを出品し、近代ロシア・リアリズム絵画の最高峰とされるレーピンの画業の初期から晩年までを辿った。

主催：神奈川県立近代美術館

後援：ロシア連邦外務省、ロシア連邦文化省、在日ロシア連邦大使館、ロシア連邦文化協力庁、ロシア文化フェスティバル組織委員会

協力：日本航空

企画協力：アートインプレッション

会期：2013年4月6日(土)～5月26日(日)

休館日：月曜日(ただし4月29日、5月6日は開館)

開催日数：46日

出品総点数：78点(巡回展99点)

総観覧者数：8,700人

担当学芸員：榎山昌夫、李美那

企画・構成：ガリーナ・チュラク(国立トレチャコフ美術館 19世紀後半・20世紀初頭ロシア絵画部長)、榎山昌夫

タチャーナ・グバノワ(国立トレチャコフ美術館 国際渉外・展覧会部長)、リーディヤ・トルステンセン(国立トレチャコフ美術館 18世紀-20世紀初期グラフィック部上級研究員)、宮澤政男(Bunkamura ザ・ミュージアム チーフキュレーター)、川西亜紀子(浜松市美術館 学芸員)、高瀬晴之(姫路市立美術館 学芸課係長)、水沢勉、市川飛砂(アートインプレッション)

カタログ

サイズ：30.4×23.0cm、224ページ、販売価格：2,360円(税込)

多色117図、単色29図

編集：宮澤政男、橋爪優子(Bunkamura ザ・ミュージアム)、三谷知子(Bunkamura ザ・ミュージアム)、川西亜紀子、高瀬晴之、榎山昌夫、市川飛砂、近藤あや(アートインプレッション)、木村はるか(アートインプレッション)

翻訳：(露和) 鴻野わか菜、榎山昌夫、(露英) マリーナ・ヴォーチンツェワ、(和英) スタン・アンダソン、榎山昌夫

表紙デザイン：若林伸重、花岡文子

制作：印象社

発行：アートインプレッション

目次 Contents

イリヤ・レーピン 「爆発する無限のエネルギー」を持った画家(ガリーナ・チュラク)

1890年代から1920年代のレーピンと作品(ガリーナ・チュラク)

国立トレチャコフ美術館のコレクションに見るイリヤ・レーピンの素描と水彩画(リーディヤ・トルステンセン)

関連企画

- 1) 担当学芸員によるギャラリー・トーク 4月9日(火)、5月19日(日)
- 2) オープニング・トーク 4月6日(土) 講師：タチャーナ・カルボワ氏(国立トレチャコフ美術館キュレーター)
- 3) 記念講演会「甦るレーピン—移動派の現代性」 4月21日(日) 講師：鴻野わか菜氏(千葉大学准教授/ロシア文学・文化)
- 4) 講演会「イリヤ・レーピンの絵画の特質について」 5月18日(土) 講師：榎山昌夫
- 5) 先生のための特別鑑賞の時間 5月25日(土)



ポスター



カタログ表紙

カタログ Catalogue

- I 美術アカデミーと《ヴォルガの船曳き》
Academy of Arts and Barge Haulers on the Volga
 - II パリ留学：西欧美術との出会い
Study in Paris: Encounter with Western European Art
 - III 故郷チュグーエフとモスクワ
Hometown Chuguev and Moscow
 - IV 「移動派」の旗手として：サンクト・ペテルブルク
Standard-bearer of Itinerants: St. Petersburg
 - V 次世代の導き手として：美術アカデミーのレーピン
Guide for Next Generation: Repin in Academy of Arts
- イリヤ・レーピンの留学：1873-1876 交錯するアカデミズム、リアリズム、モダニズム (榎山 昌夫)

イリヤ・レーピン年譜

イリヤ・レーピン日本語文献

イリヤ・レーピン主要外国語文献

Selected Bibliography of Ilya Repin

イリヤ・レーピン関連地図

英文

Ilya Efimovich Repin:

A Painter of "Volcanic, Ever-burning Energy" [Galina Churak]

Ilya Repin's Creative Work in the 1890s to the 1920s [Galina Churak]

Рисunki и акварели И.Е. Репина

из собрания Государственной Третьяковской галереи

Лидия Александровна Торстенсен

Ilya Repin's Study Abroad from 1873 to 1876:

Mixing Academism, Realism, and Modernism [Masao Momiyama]

List of Works

関連記事

▼展覧会紹介：2紙 (3回)

▼情報掲載：18紙 (36回) / 7誌 (13回)

690

戦争／美術 1940-1950 —モダニズムの連鎖と変容—

WAR/ART 1940-1950 –Sequences and Transformations of Modernism–

戦前から戦後の時代を1940年代という時間の経過で捉え、これまで分断されてきた戦前、戦後の日本の美術史を新たな文脈でとらえ直そうとした展覧会。当館のコレクションの根幹を形成する松本竣介、朝井閑右衛門、麻生三郎、鳥海青児、山口蓬春などの戦前戦後をつなぐ作品に加え、青木文庫から同時代の資料・書籍なども多数展示し、丸木位里、俊夫妻の《原爆の図》に結実するまでの画業や同時代の広がりを中心に紹介した。

主催：神奈川県立近代美術館

会期：2013年7月6日(土)～10月14日(月・祝)【前期：7月6日(土)～8月25日(日) / 後期：8月27日(火)～10月14日(月・祝)】

休館日：月曜日(ただし7月15日、9月16日、9月23日、10月14日は開館)

開催日数：90日

出品総点数：198点

総観覧者数：9,604人

担当学芸員：長門佐季、西澤晴美

カタログ

25.8×19.3cm、152ページ、販売価格：2,050円(税込)

多色149図

編集・発行：神奈川県立近代美術館

翻訳：小川紀久子

制作：株式会社東京美術

目次

あいさつ

謝辞

空虚と充滿—1940年代美術への一視座として(水沢勉)

作戦記録画をめぐる思惑のあれこれ(河田明久)

ふたつの芳名録と「原爆の図」(岡村幸宣)

図版(解説：西澤晴美)

On the Exhibition WAR/ART 1940-1950 [MIZUSAWA Tsutomu]

戦争／美術 関連年表 1936-1953(編：長門佐季)

主要参考文献(編：藤代知子)

作品リスト

資料リスト

関連企画

- 1) 担当学芸員によるギャラリー・トーク 8月11日(日)、9月8日(日)
- 2) 県立機関活用講座 葉山館開館10周年「戦争／美術 1940-1950 モダニズムの連鎖と変容」開催記念連続講演会(全5回)
 - 第1回 7月27日(土) 講師：榎本野衣氏(美術批評家、多摩美術大学教授)
 - 第2回 8月10日(土) 講師：古川隆久氏(日本大学文理学部教授)
 - 第3回 8月24日(土) 講師：小沢節子氏(近現代史研究者)
 - 第4回 8月31日(土) 講師：光田由里氏(美術評論家)
 - 第5回 9月7日(土) 講師：坪井秀人氏(名古屋大学大学院文学研究科教授)
- 3) 中高生のための鑑賞ワークショップ 7月28日(日)、8月1日(木)、8月22日(木)
- 4) ワークショップ「ポータブル・アートミュージアム」9月1日(日)
- 5) 葉山館開館10周年記念座談会「これからの美術館」10月13日(日) 講師：福原義春氏(東京都写真美術館長)、草薙奈津子氏(平塚市美術館長)、聞き手：水沢勉
- 6) 先生のための特別鑑賞の時間 7月13日(土)



ポスター



カタログ表紙

関連記事

▼展評・解説など：

- ・水沢勉「戦争／美術 1940-1950 モダニズムの連鎖と変容 新しい視点のために」『新美術新聞』No.1316、2013年7月1日、pp.1-2
- ・窪田直子「モニュメントとは？ 問う イサム・ノグチの幻の慰霊碑に脚光」『日経新聞』2013年8月6日夕刊、14面
- ・窪田直子「戦時を生きた芸術家に迫る 「戦争／美術 1940-1950」展」『日経新聞』2013年8月7日夕刊、40面
- ・小沢節子「戦争の記憶をつなぐ2 何が変わり変わらないか 戦中戦後の画家の表現」『日本海新聞』2013年8月10日、1面（同記事は『岐阜新聞』『熊本日日新聞』8月10日、『高知新聞』8月12日、『四国新聞』8月13日、『山陽新聞』、『神戸新聞』8月15日に転載あり）
- ・岸桂子「評 美術 「戦争／美術」展／MOTコレクション「わたしたちの90年」 「戦争」表現の揺れ」『毎日新聞』2013年8月14日夕刊、4面
- ・下野綾「創作からあの時代を考える 近美葉山10周年記念「戦争／美術」展」『神奈川新聞』2013年8月19日、22面
- ・石川健次「石川健次Art Scene 「戦争／美術 1940-1950」」『サンデー毎日』2013年8月25日、p.141
- ・藤田一人「美術 「戦争／美術 1940-1950」展 機能性追求の落とし穴」『公明新聞』2013年9月11日、6面
- ・西岡一正「戦前・戦後の連続性に着目 「戦争／美術 1940-1950」展」『朝日新聞』2013年9月11日夕刊、3面
- ・村田真「ウエーブ美術 「戦争／美術 1940-1950」展 日常的な絵に込めた意志」『北海道新聞』2013年9月16日、15面
- ・森田睦「絵画創作 戦後にも連続性 展開と変容問う企画展」『読売新聞』2013年9月19日、14面
- ・池上善彦「絵画のみで1940年代を一貫して語ろうとした大胆不敵な試み 神奈川県立近代美術館葉山館「戦争／美術 1940-1950」展」『図書新聞』2013年9月21日、8面
- ・奥間政作「時代を貫くもの 「戦争／美術 1940-1950 モダニズムの連鎖と変容」展」『美術手帖』Vol.65. No.995、2013年11月1日、pp.202-203
- ・「神奈川県立近代美術館葉山 戦争／美術 1940-1950 モダニズムの連鎖と変容 7/6-10/14 小沢節子さん講演抄録」『原爆の図 丸木美術館ニュース』第115号、2013年10月10日、pp.6-7

▼展覧会紹介：2紙（2回）／5誌（7回）

▼情報掲載：17紙（77回）／6誌（12回）

691

松本瑠樹コレクション ユートピアを求めて ポスターに見るロシア・アヴァンギャルドとソヴィエト・モダニズム

Ruki Matsumoto Collection — Seeking for Utopia: Russian Avant-garde and Soviet Modernism Seen in Posters

「BA-TSU」のデザイナー松本瑠樹(1946-2012)の世界的なポスターコレクションから、ワシーリー・カンディンスキー、カジミール・マレーヴィチ、ウラジーミル・マヤコフスキー、アレクサンドル・ロトチェンコ、ウラジーミルとゲオルギーのステンベルク兄弟、グスタフ・クルーツィスなどの多くの未公開作品を含むポスター約180点によって、ロシア革命前から1930年代前半までのソヴィエト連邦初期のモダニズム・デザインの歴史的展開を3つの章によって紹介した。

主催：神奈川県立近代美術館、東京新聞
後援：ロシア連邦外務省、ロシア連邦文化省、在日ロシア連邦大使館、ロシア連邦文化協力庁、ロシア文化フェスティバル組織委員会
特別協力：Ruki Matsumoto Collection Board
協力：株式会社studio仕組
会期：2013年10月26日(土)～2014年1月26日(日)
休館日：月曜日(ただし11月4日、12月23日、1月13日は開館)、12月29日(日)～1月3日(金)
開催日数：78日
出品総点数：222点
総観覧者数：5,070人
担当学芸員：靱山昌夫、是枝潤

関連企画

- 1) 担当学芸員によるギャラリー・トーク 12月7日(土)、1月19日(日)
- 2) オープニング・トーク 10月26日(土) 講師：靱山昌夫
- 3) 記念講演会「幸福工場としてのソヴィエト・アヴァンギャルド」 11月3日(日) 講師：靱山昌夫氏(名古屋外国語大学長)
- 4) 講演会「ロシア/ソヴィエトのポスターの展開 1900-1933」 11月17日(日) 講師：靱山昌夫
- 5) ワークショップ「ロシア・アヴァンギャルド風—楽しいコラージュ/モンタージュ教室」 11月23日(土) 講師：飯沢耕太郎氏(写真評論家、コラージュ作家)
- 6) 「セルゲイ・エイゼンシュテイン/アレクサンドル・ドヴジェンコ」映画上映会
「十月」 10月26日(土)～11月17日(日)
「全線〜古きものと新しきもの」 11月19日(火)～12月8日(日)
「戦艦ポチョムキン」 12月10日(火)～1月5日(日)
「大地」 1月7日(火)～1月26日(日)
- 7) 展示室内工作スペース「リッツキー先生のアヴァンギャルド入門」
- 8) エントランスホール撮影スペース「ろしあな(ロシア)」
- 9) 先生のための特別鑑賞の時間 11月9日(土)

カタログ

29.7×22.8cm、ページ数194、販売価格価格：2,050円(税込)
多色217図、単色7図
編集：神奈川県立近代美術館、世田谷美術館、東京新聞
編集協力：株式会社studio仕組
翻訳：マーサ・マクリントック、靱山昌夫、松枝佳奈
デザイン：栗原幸治(クリ・ラボ)
制作：印象社
発行：東京新聞

ごあいさつ(松本ルキ)

目次 Contents

ポスターがもっとも輝いたとき—松本瑠樹コレクションをめぐる(水沢勉)

When Posters Shone the Brightest: The Ruki Matsumoto Collection [Tsumotom Mizusawa]

図版 Catalogue

I 帝政ロシアの黄昏から十月革命まで

From the Twilight Years of Imperial Russia to October Revolution

II ネット(新経済政策)とロシア・アヴァンギャルドの映画ポスター

NEP (New Economic Policy) and Film Posters of the Russian Avant-garde

III 第一次五ヵ年計画と政治ポスター

The First Five-Year Plan and Political Posters

グラヴリートの検閲番号等から特定されるポスター発行時期とその考察

—旧ソヴィエト連邦における宣伝印刷物の文化的研究の一端緒—(靱山昌夫)

年譜

主要参考文献

作品リスト List of Works

Seeking for Utopia: Russian Avant-garde and Soviet Modernism Seen in Posters [Masao Momiyama]

A Cultural Studies Approach to Printed Advertising/Propaganda Materials in the Former Soviet Union: The Use of Glavlit (Главлит) Sensor Numbers and Other Factors to Determine the Dates of Posters [Masao Momiyama]



ポスター



カタログ表紙

関連記事

▼展評・解説など：

- ・松本ルキ「ポスターは時代映す鏡 「松本瑠樹コレクション ユートピアを求めて」展」『東京新聞』2013年11月4日、17面
 - ・増田愛子「荒廃ゆえの強さにじむ 20世紀初期のロシアポスター展」『朝日新聞』2013年11月13日夕刊、3面
 - ・古川タク「ユートピアを求めて」展 ロシア・アヴァンギャルドとモダニズムのポスター④ カジミール・マレーヴィチ「今日のルポーク」社のポスター 「コサックがプルト川を越えて…」 ユーモラスで残酷に」『東京新聞』2013年11月26日夕刊、8面
 - ・宮沢章夫「ユートピアを求めて」展 ロシア・アヴァンギャルドとモダニズムのポスター④ グスタフ・クルーツィス「男女の労働者よ、皆ソヴィエトの改選へ」 教条的薄れた革命」『東京新聞』2013年11月27日夕刊、6面
 - ・唐沢俊一「ユートピアを求めて」展 ロシア・アヴァンギャルドとモダニズムのポスター⑥ アレクサンドル・ナウーモフ「ベラ・ドンナ」 伝統排除、一瞬の輝き」『東京新聞』2013年11月28日夕刊、8面
 - ・C.B.Liddell, 'The noisy posters of the silent 1920s', *The Japan Times*, December 12, 2013, p.13
 - ・下野綾「ポスターで見る20世紀初頭のロシア 約8割が初公開の215点」『神奈川新聞』2013年12月18日、15面
 - ・榎山昌夫, 'Япония и Россия', *МИР МУЗЕЯ*, 316, December, 2013, pp.52-54
 - ・木谷節子「今月のアート 世界が驚嘆!日本人デザイナーが集めた、ロシア・アヴァンギャルドのポスター群 「ユートピアを求めて」」『Men's JOKER』Vol.118, 2013年12月10日、p.100
 - ・太田治子「松本瑠樹のコレクションが竜宮城に誘ってくれた」『Como le va?』Vol.18 (Winter 2014), 2014年1月1日、p.47
 - ・箭内道彦「箭内道彦と見る躍動するロシアのポスター手と汗と希望でつくられた叫びたち」『芸術新潮』第65巻第1号通巻769号、2014年1月、pp.100-105
 - ・鴻野わか菜「松本瑠樹コレクション ユートピアを求めて ポスターに見るロシア・アヴァンギャルドとソヴィエト・モダニズム」『日本ロシア文学会誌「ロシア語ロシア文学研究」』第46号、2014年10月、pp.164-170
- ▼展覧会紹介：2紙(3回)／4誌(4回)
- ▼情報掲載：12紙(78回)／11誌(17回)

692

柳瀬正夢 1900-1945 時代の光と影を描く

YANASE Masamu: A Retrospective

柳瀬正夢(1900-1945)は、15歳で再興第2回院展に入選した後、未来派美術協会やマヴォといったグループに参加し、最先端の芸術思潮を次々と吸収しながら、その才能を開花させた。戦時中の苦境を乗り越え、新たな展開が期待された1945年、空襲により命を落とした。本展では、45年の生涯の中で絵画のみならず漫画、装丁、舞台美術、写真、俳句など、幅広い活動を展開した柳瀬の全貌を、代表作の絵画作品や関連資料約650点で振り返った。

主催：神奈川県立近代美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会

特別協力：柳瀬正夢研究会

協力：漫画資料室MORI、武蔵野美術大学 美術館・図書館、柳瀬正夢全集刊行委員会

協賛：ライオン、清水建設、大日本印刷、損保ジャパン、日本テレビ放送網

会期：2014年2月11日(火・祝)～3月23日(日)

休館日：月曜日

開催日数：35日

出品総点数：629点

総観覧者数：3,901人

担当学芸員：西澤晴美、是枝潤

カタログ

サイズ：26.5×20.5cm、451ページ、販売価格2,570円(税込)

多色726図、単色59図

編集：北九州市立美術館(落合朋子、河村朱音、那須孝幸)

校正協力：河村弘枝

翻訳：岩本史緒

レイアウト：三木俊一+吉良伊都子(文京図案室)

制作：瞬報社写真印刷株式会社

発行：読売新聞社、美術館連絡協議会

目次

開催にあたり(西村勇晴)

柳瀬正夢の歩み[略年譜]

地図[松山、北九州、東京]

図版

柳瀬正夢のこと(柳瀬信明)

柳瀬正夢を伝える—まつやまふみおの視点から(武居利史)

柳瀬正夢の槐多体験—1915年、大正期の特異な大作を背景にした愛(村松和明)

柳瀬正夢と北九州(落合朋子)

柳瀬正夢と演劇(西澤晴美)

柳瀬正夢と俳句—画家として、俳人として—(長井健)

1916年、伊予の旅—旅と「生命」、美術と文学の間の漂泊をめぐる(鴨原悠)

柳瀬正夢年譜

再録 自叙伝(柳瀬正夢)

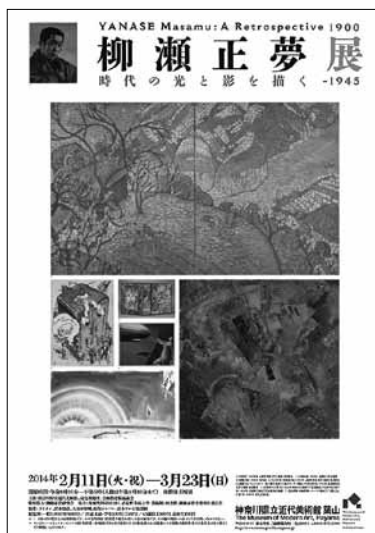
再録 柳瀬正夢のこと—「ねじ釘の画家」補稿(冬青小林勇)

作品リスト

柳瀬正夢 これまで開催された主な展覧会

関連企画

- 1) 担当学芸員によるギャラリー・トーク 2月22日(土)、3月22日(土)
- 2) 記念講演会「〈無産階級の画家〉柳瀬正夢と〈日本のアヴァンギャルド〉」 2月11日(火・祝) 講師：長田謙一氏(名古屋芸術大学大学院教授)
- 3) ワークショップ「うつくしさを探る」 3月2日(日) 講師：セセンシトカ(佐々木光氏・佐々木真由子氏)(デザイナー)
- 4) 先生のための特別鑑賞の時間 2月22日(土)



ポスター



カタログ表紙

関連記事

▼展評・解説など：

- ・白石知子「柳瀬正夢の回顧展 文化人と交流表現多彩に」『読売新聞』2014年1月9日、21面
- ・安齋耕一「美の履歴書340 ゴチャゴチャなわけ 「無題Ⅲ」 柳瀬正夢」『朝日新聞』2014年1月29日夕刊、3面
- ・井手孫六「今日の視角 続・柳瀬正夢45年の軌跡」『信濃毎日新聞』2014年2月13日夕刊、1面
- ・渋谷和彦「美の扉 永遠の尖端 「柳瀬正夢展」 神奈川県立近代美術館葉山 多才な顔…常に化する画風」『産経新聞』2014年2月23日、12-13面
- ・アライ=ヒロユキ「柳瀬正夢1900-1945 時代の光と影を描く」展 資本主義見つめ、乗り越える」『しんぶん赤旗』2014年3月4日、10面
- ・水沢勉「柳瀬正夢」展から① 過激さ過去と未来の共演」『読売新聞』2014年3月6日、32面
- ・植草学「社会の「ねじ釘」思いにじむ プロレタリア運動 信州人の親友多く 柳瀬正夢 1900-1945 時代の光と影を描く 神奈川県立近代美術館 葉山 23日まで」『信濃毎日新聞』2014年3月7日、13面
- ・是枝開「柳瀬正夢」展から④ ダイナミックに曲線描く」『神奈川新聞』2014年3月8日、32面
- ・西澤晴美「柳瀬正夢」展から⑤ 小説の世界観絶妙に表現」『読売新聞』2014年3月9日、32面
- ・高階秀爾「日は語る3月 多能の人柳瀬正夢 時代の荒波と対決」『毎日新聞』2014年3月12日夕刊、4面
- ・宮川匡司「多彩な活動と確かな造形 「柳瀬正夢」展」『日経新聞』2014年3月19日、40面
- ・日夏露彦「美術＝「柳瀬正夢1900-1945 時代の光と影を描く」 美術と社会変革のリンクを求めて―柳瀬正夢の全仕事30年」『思想運動』No.931、2014年3月1日、p.8
- ・Jeff Michael Hammond, 'The many reinventions of Masamu Yanase', *The Japan Times*, March 13, 2014, p.13

▼展覧会紹介：2紙(3回)／2誌(2回)

▼情報掲載：11紙(39回)／8誌(10回)

693

片岡球子 創造の秘密 日本画家のスケッチブックから
KATAOKA Tamako: Japanese Style Paintings and Sketches

日本画家・片岡球子(1905-2008)は、103歳で亡くなるまでのおよそ80年間にわたる制作活動のなかで、多数のスケッチブックを残した。鉛筆、水彩、パステル、フェルトペンなどで描かれたそれらのスケッチは、制作の初期段階で抱いた着想や感情が描き出された素描であり、本画制作の過程が見てとれる下絵である。本展では、作家の創造の源泉そして作品の成立根拠でもあるスケッチブックを紹介し、本画と併せて展示した。

主催：神奈川県立近代美術館

会期：2013年4月6日(土)～5月26日(日)

休館日：月曜日(ただし4月29日、5月6日は開館)

開催日数：46日

出品総点数：49点

総観覧者数：9,469人

担当学芸員：是枝開

関連企画

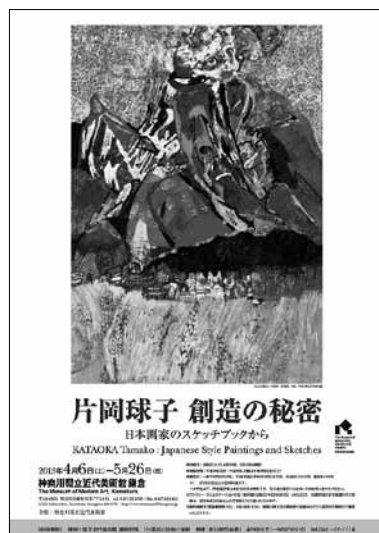
- 1) 担当学芸員によるギャラリー・トーク 4月27日(土)、5月11日(土)
- 2) 先生のための特別鑑賞の時間 5月11日(土)

関連記事

▼展評・解説など：

- ・是枝開「片岡球子さん試行錯誤の跡 彩色写生味わい深く 鎌倉の美術館 スケッチ公開」『北海道新聞』2013年4月6日、31面
- ・石川健次「石川健次 Art Scene 「片岡球子 創造の秘密」」『サンデー毎日』2013年4月28日、p.149
- ・是枝開「風景を血肉化した画家 片岡球子」『月刊 展覧会ガイド』2013年5月、p.28
- ・中村公美「札幌出身の日本画家・片岡球子 至高へ続く線と色 鎌倉でスケッチ展 「面構」「火山」…模索の過程を紹介」『北海道』2013年5月2日夕刊、6面
- ・下野綾「スケッチにみる葛藤 「片岡球子 創造の秘密」展」『神奈川新聞』2013年5月17日、14面

▼情報掲載：12紙(23回)／4誌(8回)



ポスター

694

生誕100年松田正平展 陽だまりの色とかたち

MATSUDA Shohei: A Centennial Retrospective

松田正平(1913-2004)は、大正2年島根県日原町に生まれ、4歳の頃に山口県宇部市の松田家の養子となった。1938年にパリに留学するも第二次世界大戦の勃発により翌年帰国した。1947年から生涯のテーマとなる《周防灘》シリーズを開始した。また、薔薇や犬や魚など身近なものを題材にして味わい深い油絵を制作した。生誕100年を記念した本展では、松田の作品約100点を展示し、個性的な画業を回顧した。

主催：神奈川県立近代美術館

会期：2013年6月8日(土)～9月1日(日)

休館日：月曜日(ただし7月15日は開館)

開催日数：75日

出品総点数：101点

総観覧者数：16,629人

担当学芸員：橋秀文

関連企画

- 1) 担当学芸員によるギャラリー・トーク 7月6日(土)、8月2日(金)
- 2) ゲストトーク 6月23日(日) 講師：原田光氏(岩手県立美術館長)
- 3) ワークショップ「ポータブル・アートミュージアム」7月7日(日)、8月4日(日)
- 4) 先生のための特別鑑賞の時間 8月3日(土)

カタログ

28.0cm×22.1cm、160ページ、販売価格2,200円(税込)

多色151図、単色18図

編集・発行：山口県立美術館、神奈川県立近代美術館

デザイン：野村勝久(野村デザイン制作室)

制作：大村印刷株式会社

目次

ごあいさつ

図版

1. 油絵との出会い
2. 絵の具との格闘
3. 美しい絵はだをもとめて
4. 犬馬難鬼魅易
5. 悠久の周防灘

笑う自画像一作風の変遷をたどって(萬屋健司)

松田正平の生み出した日本独自の油彩画(橋秀文)

参考資料 松田正平のスケッチブック

年譜

参考文献

作品リスト

関連記事

▼展評・解説など：

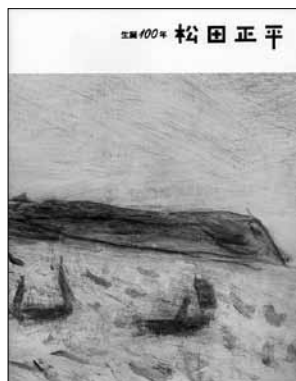
- ・白石知子「美術 生誕100年松田正平展 「油絵職人」絵の具と格闘」『読売新聞』2013年4月25日、36面
- ・藤田一人「美術評 生誕100年松田正平展 日々を生きる確信と希望」『東京新聞』2013年6月14日夕刊、7面
- ・渋谷和彦「美の扉 幸せになる優しく美しい色 生誕100年松田正平展 神奈川県立近代美術館鎌倉」『産経新聞』2013年7月14日、14-15面
- ・山根基世「感じる美術 絵は人。同郷の亡き画家との懐かしい再会 『生誕100年松田正平展 陽だまりの色とかたち』」『家庭画報』第56巻第9号(2013年9月号)、2013年8月1日、p.280
- ・榎木野衣「月評第60回 百年の孤絶「生誕100年松田正平展」」『美術手帖』vol.65 No.989、2013年8月1日、p.176-177
- ・下野綾「温かみある画風へと変化 鎌倉で大規模個展 「松田正平展」」『神奈川新聞』2013年8月5日、22面
- ・西岡一正「美の履歴書317 島は「絵になった」か 「周防灘」 松田正平」『朝日新聞』2013年8月14日夕刊、3面
- ・酒井忠康「顔というものは」『森ノ道』2013年夏季号、2013年8月15日、pp.23-27
- ・無記名「懐かしき周防灘を描き続けた松田正平 神奈川県立近代美術館鎌倉 生誕100年 松田正平展 陽だまりの色とかたち-9/1」『美術の窓』No.380、2013年9月20日、pp.50-51

▼展覧会紹介：2紙(2回)／5誌(5回)

▼情報掲載：15紙(61回)／5誌(12回)



ポスター



カタログ表紙(カバー①)



カタログ表紙(カバー②)

695

加納光於 ^{ルーパー}色身—未だ視ぬ波頭よ 2013

"KANO Mitsuo rūpa" — Crest of the Wave Still Unseen 2013

2000年の愛知県美術館での大規模な回顧展以来、公立美術館での個展としては13年ぶりとなった本展は、1950年代の銅版画からオブジェ、最新作の油彩まで、半世紀以上にわたる加納の制作の精髓を紹介したものである。多様な表現を通して、平面と立体、言葉と造形の間を往還してゆくその独創的なイメージの変容を確認するとともに、本展のタイトル「色身(ルーパー)」という加納の制作の根幹に隠された色彩への問いを、改めて検討した。

主催：神奈川県立近代美術館

企画協力：ギャラリー東京ユマニテ

会期：2013年9月14日(土)～12月1日(日)

休館日：月曜日(ただし9月16日、9月23日、10月14日、11月4日は開館)

開催日数：72日

出品総点数：264点

総観覧者数：7,821人

担当学芸員：朝木由香、長門佐季

関連企画

- 1) 担当学芸員によるギャラリートーク 9月16日(月・祝)、11月30日(土)
- 2) 先生のための特別鑑賞の時間 9月28日(土)
- 3) アーティスト・トーク 10月20日(日) 講師：加納光於氏、聞き手：水沢勉

カタログ

25.1cm×15.5cm、176ページ、販売価格1,850円(税込)

多色211図、単色34図

編集・発行：神奈川県立近代美術館

翻訳：ポリ・バートン

デザイン：川村格夫+河原弘太郎 (ten pieces)

制作：ニューカラー写真印刷株式会社

目次

あいさつ

「小鳥、小鳥、小鳥」(加納光於)

Uccello, uccello, uccello [Kano Mitsuo]

「永遠のいま—加納光於の現在」(水沢勉)

「光の水場にて—加納光於展によせて」(市川政憲)

図版(解説：朝木由香)

加納光於クロニクル(編著：朝木由香)

主要参考文献(編：藤代知子・朝木由香)

展覧会歴/個展・グループ展

年譜

出品リスト

List of Exhibits

関連記事

▼展評・解説など：

- ・藤島俊会「神奈川の文化時評 美術 色彩をつかみ取る手わざ 加納光於 色身—未だ視ぬ波頭よ」『神奈川新聞』2013年10月4日、15面
- ・下野綾「色彩を求め続ける 加納光於 80歳迎え大規模個展 12月1日まで、県立近代美術館鎌倉」『神奈川新聞』2013年10月9日、7面
- ・岸桂子「評 美術 加納光於「色身(ルーパー)—未だ視ぬ波頭よ 2013」展 揺らぎの中の色彩」『毎日新聞』2013年11月6日夕刊、4面
- ・蜂飼耳「ブックマーク 加納光於の眼」『毎日新聞』2013年12月3日夕刊、5面
- ・城戸朱理「創造の意味「加納光於 色身—未だ視ぬ波頭よ 2013」展」『現代詩手帖』第57巻第1号、2014年1月、p.39
- ・森啓輔「寸断される鳥影「加納光於 色身(ルーパー)—未だ視ぬ波頭よ 2013」展」『美術手帖』Vol.66 No.998、2014年1月、pp.234-235
- ・林浩平「加納光於「色身(ルーパー)—未だ視ぬ波頭よ 2013」展」『俳誌白芽』第3号、2014年冬号、pp.52-56

▼展覧会紹介：2誌(2回)

▼情報掲載：10紙(33回)／10誌(18回)



ポスター



カタログ表紙

696

光のある場所 コレクションにみる 近現代美術の現実感

From the Collection: Where There is Light

美術作品を「目に見えるようにする」、実在する外光と、作品の内なる空間を満たす光——色彩と明暗によって構成されるイメージの現われに焦点をあて、高橋由一らにはじまる日本近代洋画や1930年代の版画から、空間そのものを構成要素とする現代美術のインスタレーションやサウンド・アートまで、81点のコレクション(寄託・個人蔵含む)で近現代美術の多様な現実感を再考した展覧会。

主催：神奈川県立近代美術館

会期：2013年12月14日(土)～2014年3月23日(日)

休館日：月曜日(12月23日、1月13日は開館)、12月29日(日)～1月3日(金)

開催日数：81日

出品総点数：81点

総観覧者数：7,294人

担当学芸員：三本松倫代

関連企画

- 1) 担当学芸員によるギャラリー・トーク 2月1日(土)、3月8日(土)
- 2) ワークショップ「光でえがかく場所：色と線でフィルムに直接描く映画制作」 3月9日(日)
講師：石田尚志氏(美術家、映像作家)
- 3) 先生のための特別鑑賞の時間 2月1日(土)

関連記事

▼展評・解説など：

- ・塩見圭「美博ピックアップ 光のある場所 神奈川県立近代美術館鎌倉」『朝日新聞』、2014年1月8日夕刊、5面
- ・大西若人「美の履歴書344 なぜそっぽを向くのか 「トランプ」内田巖」『朝日新聞』2014年2月26日夕刊、3面
- ・下野綾「県立近美鎌倉「光のある場所」展 光と空間、建築との一体感 近現代美術の現実描写 絵画からインスタレーションまで」『神奈川新聞』2014年3月14日、16面

▼展覧会紹介：1紙(1回)／1誌(1回)

▼情報掲載：11紙(50回)／7誌(18回)



ポスター

697

日本画の伝統と革新 併陳：新収蔵作品展

Nihonga: Tradition and Innovation / New Acquisitions of 2012

本展では、高山辰雄や加山又造らの清冽な雰囲気をもった作品から荘司福の新収蔵作品、さらに中島千波の壮年期の野心的な作品など、伝統と革新を併せ持った日本画の名品16点を展示。併陳として、2012年度の新収蔵作品も展示した。

主催：神奈川県立近代美術館

会期：2013年4月6日(土)～5月26日(日)

休館日：月曜日(ただし4月29日、5月6日は開館)

開催日数：46日

出品総点数：55点

総観覧者数：3,794人

担当学芸員：橋秀文

関連企画

1) 担当学芸員によるギャラリー・トーク 4月13日(土)、5月25日(土)

2) 先生のための特別鑑賞の時間 5月11日(土)

関連記事

▼情報掲載：8紙(17回)／4誌(4回)



ポスター

698

野中ユリ展 美しい本とともに
NONAKA Yuri: Those Beautiful Books

2012年に作家より寄贈を受けたことを記念しての展覧会。瀧口修造らに高い評価を受けた1950年代の銅版画から、1990年代を代表する『愛する芸術家たちの肖像』シリーズのコラージュまで約120点を通して、類希なる幻視者、野中ユリの世界を紹介した。

主催：神奈川県立近代美術館
会期：2013年6月8日(土)～9月1日(日)
休館日：月曜日(ただし7月15日は開館)
開催日数：75日
出品総点数：121点
総観覧者数：7,652人
担当学芸員：橋秀文、西澤晴美

関連企画

- 1) 担当学芸員によるギャラリー・トーク 6月22日(土)、8月18日(日)
- 2) コラージュ・ワークショップ 8月25日(日) 講師：薄久保香氏(美術家)
- 3) 先生のための特別鑑賞の時間 6月22日(土)

カタログ

29.6cm×21.2cm、56ページ、販売価格1,000円(税込)
多色52図
編集・発行：神奈川県立近代美術館
制作：ニューカラー写真印刷株式会社

目次

あいざつ(水沢勉)
幻視者野中ユリはわれらの同時代人(橋秀文)
図版
野中ユリのことば
野中ユリ 略年譜
主要参考文献
作品リスト

関連記事

▼展評・解説など：

- ・藤島俊会「神奈川の文化時評 美術 コントロールを超えた世界 内海信彦展 The innscape… 野中ユリ展—美しい本とともに」『神奈川新聞』2013年7月5日、16面
 - ・下野綾「野中ユリ展 幻想的な「夢の世界」 近美鎌倉別館で開催中 銅版画や本など約120点」『神奈川新聞』2013年8月7日、9面
 - ・橋秀文「現代詩画人の冒険 野中ユリの場合」『現代詩手帖』第56巻第8号、2013年8月、pp.56-59
 - ・Jeff Michael Hammond, 'Yuri Nonaka takes viewers on a trip through the imagination', *The Japan Times*, August 15, 2013, p.16
- ▼展覧会紹介：3誌(3回)
▼情報掲載：14紙(30回)／9誌(10回)



ポスター



カタログ表紙

699

西洋版画の流れ—ブリューゲルからピカソまで 特別展示：ジゼル・ツェラン＝レトランジュ
European Prints from Brueghel to Picasso, with a Special Exhibition of Gisèle Celan-Lestrange

16世紀のフランドルで活躍したブリューゲルから、18-19世紀スペインの画家ゴヤ、英国の詩人画家ブレイク、20世紀のピカソやフリードリヒランデルまで、西洋版画の歴史を、銅版画を主として当館のコレクションでたどった展覧会。特別展示として、戦後のパリで活躍した版画家ジゼル・ツェラン＝レトランジュの銅版画を、日本で初めてまとめた展示で紹介した。初期作品から、風景を抽象化した1980年代の作品まで、夫である詩人パウル・ツェランの詩とジゼルの版画による詩画集『息の結晶 (Atemkristall)』を含む25点を展示した。

主催：神奈川県立近代美術館
会期：2013年9月14日(土)～12月1日(日)
休館日：月曜日(ただし9月16日、9月23日、10月14日、11月4日は開館)
開催日数：72日
出品総点数：162点(作品146点、ジゼル関連の資料16点)
総観覧者数：3,974人
担当学芸員：李美那

関連企画

- 1) 担当学芸員によるギャラリー・トーク 10月5日(土)、11月23日(土・祝)
- 2) ゲストトーク「ジゼルとパウル・ツェランをめぐって」 10月19日(土) 講師：飯吉光夫氏(ドイツ文学者)、聞き手：水沢勉
- 3) 先生のための特別鑑賞の時間 9月28日(土)

カタログ

『ジゼル・ツェラン＝レトランジュ』
29cm×22.5cm、32ページ、販売価格820円(税込)
多色59図
編集：李美那
写真：上野則宏
デザイン：梯耕治
制作：ニューカラー写真印刷株式会社
発行：神奈川県立近代美術館

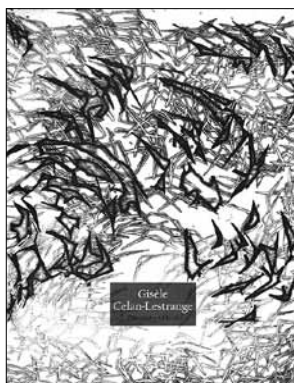
目次：
謝辞、あいさつ、目次
ごあいさつ(水沢勉)
『《息の結晶》—ジゼル・ツェラン＝レトランジュの銅版画』(関口裕昭)
出品作品リスト
ジゼル・ツェラン＝レトランジュ略年譜(関口裕昭 編)
謝辞・奥付

関連記事

- ▼展評・解説など：
 - ・関口裕昭「ジゼル・ツェラン＝レトランジュの銅版画の世界」『みすず』No.620、2013年10月、pp.20-26
 - ・関口裕昭「詩と造形芸術の対話 ジゼル・ツェラン＝レトランジュの銅版画の展示について」『現代詩手帖』第56巻第11号、2013年11月、p.151
- ▼展覧会紹介：1誌(1回)
- ▼情報掲載：8紙(21回)／4誌(5回)



ポスター



カタログ表紙

700

ロダンからはじまる彫刻の近代 特集展示：ズビネック・セカール
Modern Sculptures: Beginning with Rodin/ Featuring Zbyněk Sekal

近代彫刻の父といわれるオーギュスト・ロダンとその弟子エミール・アントワヌ・ブールデル。彼らから影響をうけた高村光太郎、戸張孤雁、中原悌二郎など日本人の作品のほか、アルプ、ジャコモッティ他も展示し、ロダンへの共感と反発も含めて、ロダン以後の20世紀の彫刻の歩みを所蔵品42点で紹介。併せて特集展示として、チェコスロヴァキア出身の彫刻家ズビネック・セカールの作品を、日本の公立美術館では初めてまとまったかたちで展示した。

主催：神奈川県立近代美術館
会期：2013年12月14日(土)～2014年3月23日(日)
休館日：月曜日(ただし12月23日、1月13日は開館)、12月29日(日)～1月3日(金)
開催日数：81日
出品総点数：彫刻の近代42点、セカール26点
総観覧者数：3,388人
担当学芸員：長門佐季

関連企画

- 1) 担当学芸員によるギャラリー・トーク 2月15日(土)、3月15日(土)
- 2) ゲストトーク「ズビネック・セカールと日本」 1月25日(土)
講師：村山治江氏(ギャラリーTOM館長)、聞き手：水沢勉
- 3) 先生のための特別鑑賞の時間 2月1日(土)

カタログ

『神奈川県立近代美術館 コレクション選 彫刻』
29.0cm×22.4cm、71ページ、販売価格1,020円(税込)
多色74図
編集・発行：神奈川県立近代美術館
制作：ニューカラー写真印刷株式会社

目次

「彫刻、過去、現在、未来」(水沢勉)
図版・解説(川野恵子、是枝開、三本松倫代、長島彩音、長門佐季、西澤晴美、橋秀文、水沢勉)
作品リスト

リーフレット

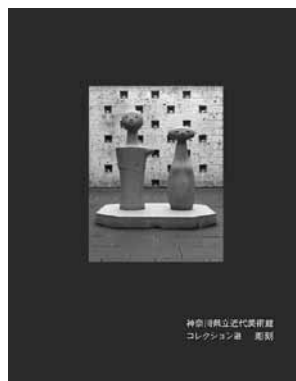
「特集展示 ズビネック・セカール Zbyněk Sekal」
25.7cm×19.9cm、B4二つ折り1枚、無料配布、多色9図、単色1図

関連記事

- ▼展覧会紹介：1紙(1回)／1誌(1回)
- ▼情報掲載：10紙(30回)／6誌(10回)



ポスター



カタログ表紙



リーフレット表紙

教育普及活動

受講・参加プログラム(講演会・ギャラリートーク・学校連携プログラム等)

	事業名	事業内容				受講人数
		テーマまたは内容	講師等	実施日	実施場所	
講演会等	「レービン展」記念講演会	「甦るレービーン—移動派の現代性」	鴻野わか菜氏(千葉大学准教授/ロシア文学・文化)	H25.4.21	葉山館	27人
	「レービン展」講演会	「イリヤ・レービンの絵画の特質について」	榎山昌夫(当館主任学芸員)	H25.5.18	葉山館	72人
	葉山館開館10周年記念座談会「これからの美術館」	「これからの美術館」	福原義春氏(東京都写真美術館長)、草薙奈津子氏(平塚市美術館長)	H25.10.13	葉山館	65人
	「ユートピアを求めて」展オープニング・トーク	当館学芸員によるトーク	榎山昌夫(当館主任学芸員)	H25.10.26	葉山館	35人
	「ユートピアを求めて」展記念講演会	「幸福工場としてのソヴィエト・アヴァンギャルド」	亀山郁夫氏(名古屋外国語大学長)	H25.11.3	葉山館	53人
	「ユートピアを求めて」展講演会	「ロシア/ソヴィエトのポスターの展開 1900-1933」	榎山昌夫(当館主任学芸員)	H25.11.17	葉山館	21人
	「柳瀬正夢」展記念講演会	「(無産階級の画家)柳瀬正夢と(日本のアヴァンギャルド)」	長田謙一氏(名古屋芸術大学大学院教授)	H26.2.11	葉山館	65人
ゲストアーティスト及びギャラリートーク	「レービン展」オープニング・トーク	国立トレチヤコフ美術館キュレーターによるトーク	タチヤナ・カルボワ氏(国立トレチヤコフ美術館キュレーター)	H25.4.6	葉山館	75人
	「松田正平展」ゲストトーク	展示室内でのゲストトーク	原田光氏(岩手県立美術館長)	H25.6.23	葉山館	67人
	「西洋版画の流れ・ジゼル・ツェラン=レトランジュ」展ゲストトーク	「ジゼルとパウル・ツェランをめぐって」	飯吉光夫氏(ドイツ文学者)	H25.10.19	鎌倉別館	46人
	「彫刻の近代・ズビネック・セカール」展ゲストトーク	「ズビネック・セカールと日本」	村山治江氏(ギャラリーTOM館長)	H26.1.25	鎌倉別館	36人
	「加納光於展」アーティスト・トーク	アーティストによる作品解説	加納光於氏(出品作家)	H25.10.20	鎌倉館	95人
ワークショップ	ワークショップ「ポータブル・アートミュージアム」	わくわくゆったりセットノベルティ「ポータブル・アートミュージアム」を活用したプログラム	是枝開(当館主任学芸員)、鈴木智香子(当館学芸員)	H25.7.7	鎌倉館	2人
	ワークショップ「ポータブル・アートミュージアム」	わくわくゆったりセットノベルティ「ポータブル・アートミュージアム」を活用したプログラム	鈴木智香子(当館学芸員)、長島彩音(当館学芸員)	H25.8.4	鎌倉館	20人
	ワークショップ「ポータブル・アートミュージアム」	わくわくゆったりセットノベルティ「ポータブル・アートミュージアム」を活用したプログラム	土居由美(当館学芸員)、松尾子水樹(当館学芸員)、鈴木智香子(当館学芸員)	H25.9.1	葉山館	15人
	コラージュ・ワークショップ	展覧会鑑賞後、コラージュを制作するプログラム	薄久保香氏(美術作家)	H25.8.25	鎌倉館・別館	19人
	中高生のための鑑賞ワークショップ	展覧会鑑賞と、学芸員の仕事について解説	西澤晴美(当館学芸員)、松尾子水樹(当館学芸員)	H25.7.28	葉山館	22人
	中高生のための鑑賞ワークショップ	展覧会鑑賞と、学芸員の仕事について解説	西澤晴美(当館学芸員)、松尾子水樹(当館学芸員)、土居由美(当館学芸員)	H25.8.1	葉山館	14人
	中高生のための鑑賞ワークショップ	展覧会鑑賞と、学芸員の仕事について解説	水沢勉(当館館長)、松尾子水樹(当館学芸員)、土居由美(当館学芸員)	H25.8.22	葉山館	6人
	ワークショップ「ロシア・アヴァンギャルド風—楽しいコラージュ/モンタージュ教室」	ロシア・アヴァンギャルド風のコラージュ/モンタージュを制作するプログラム	飯沢耕太郎氏(写真評論家、コラージュ作家)	H25.11.23	葉山館	16人
	ワークショップ「うつくしさを探る」	館内外でフィールドワークし、特製カードを使って、うつくしさをかきやきを思い考えるワークショップ(デザイナー)	セセントカ[佐々木光氏、佐々木真由子氏]	H26.3.2	葉山館	20人
ワークショップ「光でえがく場所：色と線でフィルムに直接描く映画制作」	展覧会鑑賞後、映画用の16ミリフィルムを用いて色と光による映画を制作するプログラム	石田高志氏(美術家、映像作家)	H26.3.9	鎌倉館	7人	
ギャラリートーク	ギャラリー・トーク「レービン展」	学芸員による作品解説	榎山昌夫(当館主任学芸員)	H25.4.9	葉山館	21人
	ギャラリー・トーク「日本画の伝統と革新・新収蔵作品展」	学芸員による作品解説	橋秀文(当館企画課長兼普及課長)	H25.4.13	鎌倉別館	13人
	ギャラリー・トーク「片岡球子展」	学芸員による作品解説	是枝開(当館主任学芸員)	H25.4.27	鎌倉館	33人
	ギャラリー・トーク「片岡球子展」	学芸員による作品解説	是枝開(当館主任学芸員)	H25.5.11	鎌倉館	9人
	ギャラリー・トーク「レービン展」	学芸員による作品解説	榎山昌夫(当館主任学芸員)	H25.5.19	葉山館	42人
	ギャラリー・トーク「日本画の伝統と革新・新収蔵作品展」	学芸員による作品解説	橋秀文(当館企画課長兼普及課長)	H25.5.25	鎌倉別館	13人
	ギャラリー・トーク「野中ユリ展」	学芸員による作品解説	橋秀文(当館企画課長兼普及課長)	H25.6.22	鎌倉別館	15人
	ギャラリー・トーク「松田正平展」	学芸員による作品解説	橋秀文(当館企画課長兼普及課長)	H25.7.6	鎌倉館	32人
	ギャラリー・トーク「松田正平展」	学芸員による作品解説	橋秀文(当館企画課長兼普及課長)	H25.8.2	鎌倉館	48人
	ギャラリー・トーク「戦争/美術」展	学芸員による作品解説	西澤晴美(当館学芸員)	H25.8.11	葉山館	23人
	ギャラリー・トーク「野中ユリ展」	学芸員による作品解説	橋秀文(当館企画課長兼普及課長)	H25.8.18	鎌倉別館	36人
	ギャラリー・トーク「戦争/美術」展	学芸員による作品解説	長門佐季(当館主任学芸員)	H25.9.8	葉山館	15人
	ギャラリー・トーク「加納光於展」	学芸員による作品解説	朝木由香(当館学芸員)	H25.9.16	鎌倉館	1人
	ギャラリー・トーク「西洋版画の流れ・ジゼル・ツェラン=レトランジュ」展	学芸員による作品解説	水沢勉(当館館長)	H25.10.5	鎌倉別館	7人
	ギャラリー・トーク「西洋版画の流れ・ジゼル・ツェラン=レトランジュ」展	学芸員による作品解説	李美那(当館主任学芸員)	H25.11.23	鎌倉別館	20人
	ギャラリー・トーク「加納光於展」	学芸員による作品解説	加納光於氏(出品作家)、朝木由香(当館学芸員)	H25.11.30	鎌倉館	43人
	ギャラリー・トーク「ユートピアを求めて」展	学芸員による作品解説	榎山昌夫(当館主任学芸員)	H25.12.7	葉山館	22人
	ギャラリー・トーク「ユートピアを求めて」展	学芸員による作品解説	榎山昌夫(当館主任学芸員)	H26.1.19	葉山館	46人
	ギャラリー・トーク「光のある場所」展	学芸員による作品解説	三本松倫代(当館学芸員)	H26.2.1	鎌倉館	22人
	ギャラリー・トーク「彫刻の近代・ズビネック・セカール」展	学芸員による作品解説	長門佐季(当館主任学芸員)	H26.2.15	鎌倉別館	9人
	ギャラリー・トーク「柳瀬正夢展」	学芸員による作品解説	西澤晴美(当館学芸員)	H26.2.22	葉山館	17人
	ギャラリー・トーク「光のある場所」展	学芸員による作品解説	三本松倫代(当館学芸員)	H26.3.8	鎌倉館	7人
ギャラリー・トーク「彫刻の近代・ズビネック・セカール」展	学芸員による作品解説	長門佐季(当館主任学芸員)	H26.3.15	鎌倉別館	15人	
ギャラリー・トーク「柳瀬正夢展」	学芸員による作品解説	西澤晴美(当館学芸員)	H26.3.22	葉山館	52人	

事業名		事業内容				受講人数
		テーマまたは内容	講師等	実施日	実施場所	
県立機関活用講座	「戦争／美術 1940-1950」	講師による講演会	横木野衣氏(美術批評家、多摩美術大学教授)	H25.7.27	葉山館	33人
		「昭和戦中期の日本映画」	古川隆久氏(日本大学文理学部教授)	H25.8.10	葉山館	19人
		「『1940年代美術』を読み解く—いくつかの作品を手がかりとして—」	小沢節子氏(近現代史研究者)	H25.8.24	葉山館	28人
		「戦時下の写真制作 安井仲治とその時代」	光田由里氏(美術評論家)	H25.8.31	葉山館	27人
		「総動員体制の中の詩と芸術」	坪井秀人氏(名古屋大学大学院文学研究科教授)	H25.9.7	葉山館	18人
美術講座	先生のための特別鑑賞の時間「片岡球子展」「日本画の伝統と革新・新取蔵作品展」	学芸員による展覧会解説と美術館利用のガイダンス(入門編)	是枝開(当館主任学芸員、長島彩音(当館学芸員)	H25.5.11	鎌倉館・鎌倉別館	8人
	先生のための特別鑑賞の時間「レービン展」	学芸員による展覧会解説と美術館利用のガイダンス(入門編)	榎山昌夫(当館主任学芸員)、松尾子水樹(当館学芸員)	H25.5.25	葉山館	9人
	先生のための特別鑑賞の時間「野中ユリ展」	学芸員による展覧会解説と美術館利用のガイダンス(入門編)	橋秀文(当館企画課長兼普及課長)、長島彩音(当館学芸員)	H25.6.22	鎌倉別館	17人
	先生のための特別鑑賞の時間「戦争／美術」展	学芸員による展覧会解説と美術館利用のガイダンス(入門編)	西澤晴美(当館学芸員)、鈴木智香子(当館学芸員)	H25.7.13	葉山館	14人
	先生のための特別鑑賞の時間「松田正平展」	学芸員による展覧会解説と美術館利用のガイダンス(入門編)	橋秀文(当館企画課長兼普及課長)、長島彩音(当館学芸員)	H25.8.3	鎌倉館	21人
	先生のための特別鑑賞の時間「加納光於展」「西洋版画の流れ・ジゼル・ツェラン＝レトランジュ」展	学芸員による展覧会解説と美術館利用のガイダンス(入門編)	李美那(当館主任学芸員)、長島彩音(当館学芸員)	H25.9.28	鎌倉館・鎌倉別館	14人
	先生のための特別鑑賞の時間「ユートピアを求めて」展	学芸員による展覧会解説と美術館利用のガイダンス(入門編)	榎山昌夫(当館主任学芸員)、松尾子水樹(当館学芸員)	H25.11.9	葉山館	6人
	先生のための特別鑑賞の時間「光のある場所」展「彫刻の近代・ズビネック・セカール」展	学芸員による展覧会解説と美術館利用のガイダンス(レベルアップ編)	長門佐季(当館主任学芸員)、三本松倫代(当館学芸員)、土居由美(当館学芸員)、長島彩音(当館学芸員)	H26.2.1	鎌倉館・鎌倉別館	20人
	先生のための特別鑑賞の時間「柳瀬正夢展」	学芸員による展覧会解説と美術館利用のガイダンス(レベルアップ編)	西澤晴美(当館学芸員)、松尾子水樹(当館学芸員)、鈴木智香子(当館学芸員)	H26.2.22	葉山館	10人
	ミュージアム・トリップ(鎌倉市立第一中学校連携授業)	展覧会鑑賞及びワークショップ	松尾子水樹(当館学芸員)、鈴木智香子(当館学芸員)	H25.5.30	鎌倉市立第一中学校	14人
	ミュージアム・トリップ(鎌倉市立第一中学校連携授業)「野中ユリ展」	展覧会鑑賞及びワークショップ	松尾子水樹(当館学芸員)、長島彩音(当館学芸員)	H25.6.13	鎌倉館	14人
	ミュージアム・トリップ(鎌倉市立第一中学校連携授業)「松田正平展」	展覧会鑑賞及びワークショップ	長島彩音(当館学芸員)、鈴木智香子(当館学芸員)	H25.7.4	鎌倉館	14人
	ミュージアム・トリップ(鎌倉市立第一中学校連携授業)「戦争／美術」展	展覧会鑑賞及びワークショップ	松尾子水樹(当館学芸員)、鈴木智香子(当館学芸員)	H25.9.5	葉山館	13人
	葉山芸術祭アートツアー(葉山芸術祭連携事業)	学芸員による作品解説	橋秀文(当館企画課長兼普及課長)、榎山昌夫(当館主任学芸員)	H25.4.25	葉山館	10人
	第41回葉山特別見学会(山口蓬春記念館、葉山しおさい公園共催事業)	学芸員による作品解説	榎山昌夫(当館主任学芸員)、鈴木智香子(当館学芸員)	H25.4.25	葉山館	41人
	第42回葉山特別見学会(山口蓬春記念館、葉山しおさい公園共催事業)	学芸員による作品解説	西澤晴美(当館学芸員)、鈴木智香子(当館学芸員)	H26.2.27	葉山館	30人

研修等受入プログラム(実習・研修・団体来館等)

プログラム	受入内容・件数等
博物館学芸員実習	4大学から4名
インターン研修	学芸部門：2名採用、2名に修了証を発行
高校生インターンシップ	4校/延べ2回8名
中学生職業体験	9校/延べ16回30名
教員研修	5校3団体/延べ10回89名
出張授業	中学校:4校/延べ11回856名 小学校:2校/延べ3回331名
「Museum Box 宝箱」貸出	貸出総個数：227個
	貸出先：26校と2団体
	貸出回数：延べ32回
	利用総人数：2221名
	内訳概要：小学校：21校/延べ23回 中学校：3校/延べ3回 大学：3校/延べ4回 その他：2団体/延べ2回
	地域：横浜市10ヶ所、相模原市5ヶ所、葉山町3ヶ所 東京都4ヶ所、藤沢市、逗子市、横須賀市、小田原市、三浦市、高知県各1ヶ所
	幼稚園：2園/延べ2回77名
	小学校：8校/延べ9回568名
	中学校：12校/延べ17回578名
	高校：5校/延べ8回192名
学校教育機関等の団体来館〔注1〕	大学：8校/延べ10回405名 特別支援学校等：1校/延べ1回14名 生涯学習センター等団体：3団体/延べ4回91名 病院・福祉団体：4団体/延べ5回74名 美術予備校等の団体：1団体/延べ2回110名 他美術館からの団体：4団体/延べ4回111名

〔注1〕

- ・団体の受入れについては、観覧前に美術館の紹介や、観覧マナーの説明などを行うようにし、事前に美術館ルールブックを送るなどして、美術館に親しめるようにつとめている。
- ・このデータは事前申込により把握している受入数である。事前申込のない団体もあるため、実数はこの数字を上回る。また、この他に学校教育機関以外の一般の団体来館申込がある。
- ・団体来館受入れ時に、担当学芸員が展覧会紹介や特別ワークショップをおこなった数は、学校教育機関等の団体来館で12校/延べ16回、一般の団体来館で10団体/延べ13回。

2013年度(平成25年度)視察状況

年	月日	来館者	人数(左記来館者を含む)	来館箇所
2013年(平成25年)	4月17日(水)	高知県中土佐町議会議員	8人	葉山館
	4月25日(木)	関東1都9県教育委員	24人	葉山館
	7月19日(金)	神奈川県教育委員会教育局新採用職員研修	23人	葉山館
	9月18日(水)	アジアンキュレーター会議	16人	葉山館
	10月27日(火)	台湾新北市PFI事業視察団	11人	葉山館
	10月28日(水)	神奈川県総務局行政改革課	2人	葉山館
	11月28日(木)	藤沢市生涯学習部長	2人	葉山館
2014年(平成26年)	1月18日(木)	邸園(歴史的建造物)保全活用推進員養成講座	25人	葉山館

美術図書室

1) 資料の収集・整理

- ・蔵書数(システム登録点数 2014年3月末現在) 73,831点
- ・2013年度新規図書・図録・AV資料等登録点数 2,728点
- ・2013年度雑誌新規登録件数 291点

2) 特別コレクション

末松正樹氏旧蔵資料の受入

青木茂氏旧蔵資料の受入

3) 閲覧サービス

- ・年間入室者数 3,931名(開館日1日平均16名)
- ・年間複写枚数 2,012枚(開館日1日平均8枚)
- ・年間レファレンス受付件数366件

・入室者状況

美術図書室の利用では、展覧会別で「戦争／美術」「レーピン展」に入室者が多く、ともに1日平均18名が美術図書室を利用した。なお、展覧会観覧者数に対する美術図書室入室者数の比率は「戦争／美術」が17%、「ユートピアを求めて」が13%と高かった。

・レファレンス状況

レファレンス受付件数では、「戦争／美術」開催期間中が最も多く、148件であった。

当年度のレファレンスとして、「松岡映丘についての資料」「明治美術会報告」に載っている岸田吟香の演説記事「1966年クラコウ国際版画ビエンナーレ展の会期」「ポール・デルヴォーについての資料」「奈良の一刀彫に関する資料」などの事例があった。

4) 展覧会関連資料の展示

美術図書室では、展覧会関連資料を「特集コーナー」としてわかりやすくまとめ、来室者が手にとって閲覧できるようにしている。展覧会を見る前や後に、作家や作品の情報を得たり、更に知りたい内容を深めたりできると、来室者に好評を博している。

なお、展覧会関連資料の展示は鎌倉館・鎌倉別館での展覧会についても行っているが、スペースの関係上、葉山館での展覧会を主としているため、ここでは葉山館の展覧会のみを記す。

・レーピン展 ロシア近代絵画の頂点 国立トレチャコフ美術館所蔵

特集コーナー

木村浩解説『イリヤ・エフィーモヴィチ・レーピン ファブリ世界名画集第89巻』(平凡社、1972)、『ロシア絵画の巨匠 レーピン名作展』(朝日新聞社、1978)といった画集や個展図録をはじめ、所蔵先であるトレチャコフ美術館に焦点をあて、カタログ編集委員会編『ソ連国立美術館近代名画展エルミターージュ プーシキン ロシア トレチャコフ』(日本経済新聞社、1966)、毎日新聞社編『トレチャコフ・プーシキン2大美術館展』(毎日新聞社、1975)、新田喜代見監修『ロシア近代絵画の至宝 トレチャコフ美術館展』(NHK・NHKプロモーション、1993)や『トレチャコフ美術館 作品ガイド』(国立トレチャコフ美術館、2005)などを展示した。

・戦争／美術 1940-1950 モダニズムの連鎖と変容

特集コーナー

美術と戦争に関する資料として、丹尾安典・河田明久『イメージのなかの戦争 日清・日露から冷戦まで 岩波近代日本の美術1』(岩波書店、1996)、丸木位里・丸木俊共同制作『原爆の図 普及版完本』(小峰書店、2000)、小沢節子『アヴァンギャルドの戦争体験』(青木書店、2004)、青木茂『書痴、戦時下の美術書を読む』(平凡社、2006)、針生一郎ほか編著『戦争と美術 1937-1945』(国書刊行会、2007)、飯野正仁『戦時下日本の美術家たち 第1輯』(猫町文庫、2010)などを展示した。

そのほか同時期の美術以外の動向を知る資料として、坪井秀人『声の祝祭 日本近代詩と戦争』(名古屋大学出版会、1997)、古川隆久『戦時下の

日本映画』(吉川弘文館、2003)、その後の動向として、三重県立美術館編『アーティストとクリティック 批評家・土方定一と戦後美術』(三重県立美術館、1992)、ライトアップ展実行委員会編『1953年ライトアップ展』(目黒区美術館・多摩美術大学、1996)、名古屋市美術館編『戦後日本のリアリズム』(戦後日本のリアリズム実行委員会、1998)を展示した。

また、この展覧会では展覧会会場にも美術図書室の蔵書が数多く展示された。矢代幸雄文庫から『ジープン・パジジュバン女性編』(国際観光協会、1943)、仲田定之助文庫から岡本太郎『岡本太郎画文集 アヴァンギャルド』(月曜書房、1948)、青木茂文庫からは約170点の戦時下刊行資料が展示された。これらは利用者の関心を集め、展覧会終了後にあらためて閲覧を希望する声も聞かれた。

- ・ユートピアを求めて ポスターに見るロシア・アヴァンギャルドとソヴェイト・モダニズム 松本瑠樹コレクション

特集コーナー

ロシア・アヴァンギャルドについてまとめられた『ロシア・アヴァンギャルド』1-8(国書刊行会、1988-1995)、Centro Cultural Banco do Brasil [et al.], *Gráfica Utopica: arte gráfica russa 1904-1942*, Centro Cultural Banco do Brasil, 2001. など国内外のロシア・アヴァンギャルドについての資料を展示した。また、西武美術館編『ソビエト映画三大巨匠展 エイゼンシュテイン・ブドフキン・ドヴジェンコと現代』(西武美術館、1977)、東京都庭園美術館編『ロシア・アヴァンギャルド展 ポスター芸術の革命 ステンベルク兄弟を中心に』(アートインプレッション、2001)、エレナ・バルハトヴァほか編『ポスターのユートピア ロシア構成主義のグラフィックデザイン』(アートインプレッション、2003)、東京国立近代美術館フィルムセンター・京都国立近代美術館編『東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵無声時代ソビエト映画ポスター《袋一平コレクション》カタログ』(東京国立近代美術館、2009)など、さまざまなロシア映画ポスターの資料を紹介した。

- ・柳瀬正夢1900-1945 時代の光と影を描く

特集コーナー

朝日新聞社編『柳瀬正夢展 その知られざる青春』(朝日新聞社、1986年)や、柳瀬正夢作品整理委員会編『柳瀬正夢展 ねじ釘の画家 没後四十五年』(武蔵野美術大学美術資料図書館、1990)と、同じ編集委員会が10年後にまとめた『柳瀬正夢資料集成 柳瀬正夢生誕100周年記念』(武蔵野美術大学美術資料図書館、2000)や、愛媛県美術館編『柳瀬正夢展生誕100周年記念』(愛媛県美術館・福岡県立美術館・宮城県美術館、2000)といったこれまで開催された個展の図録、展覧会と同時期に刊行が始まった最新の資料『柳瀬正夢全集』第1巻(三人社、2012)も含めて、柳瀬正夢研究の経過をたどった。

また、柳瀬も手掛けた漫画や装丁の同時代紹介資料として、松原正世編『大正・昭和のブックデザイン』(ピエ・ブックス、2005)、和田博文監修『コレクション・モダン都市文化 39 漫画』(ゆまに書房、2008)、岡崎市美術博物館編『「あら、尖端的ね。」大正末・昭和初期の都市文化と商業美術』(岡崎市美術博物館、2009)を展示した。

(報告：藤代知子)

美術館紹介・広報 掲載実績(展覧会広報を除く)

1) 美術館紹介記事

- ・「存廃で揺れる公立美術館 神奈川近美 28年3月までに閉館」『美術通信』第2100号、2013年4月20日、p.1
 - ・「神奈川の美術館博物館めぐり 古都鎌倉に立つ日本初の公立近代美術館 神奈川県立近代美術館 鎌倉」『美術手帖』vol.65 (No.987)、2013年7月1日、p.24
 - ・木下直之「美術館のはかなさを編む」『現代の眼』600号、2013年6月7日、pp.8-9
 - ・大島健二「水辺の現代建築 ゆらめく光、隠れた水辺の名建築 神奈川県立近代美術館 鎌倉」『散歩の達人』No.209、2013年7月20日、p.53
 - ・「人間のための建築 建築資料にみる坂倉準三」展 神奈川県立近代美術館へ至る足跡とその後の作品群」『新美術新聞』No.1331、2013年12月11日、p.1
- ほか計38誌(40回)

2) 普及活動関連の紹介

- ・「夏は、感動体験しよう! 神奈川県立近代美術館 葉山 「戦争/美術1940-1950 モダニズムの連鎖と変容」「中高生のための鑑賞ワークショップ」『はまかぜ(横須賀・三浦・湘南版)』月刊第747号、2013年7月12日、p.1
- ・「恋するフォーチュンクッキー 神奈川県Ver./AKB48[公式]」の登場スポットを詳しく紹介するパンフレットが完成!! ~動画で気になったあの場所をチェック! 県立近代美術館葉山館」『県のたより』平成25年12月号(No.701)、2013年12月1日、p.4

3) 収蔵作品・作家紹介記事

- ・「美術館名画紹介 松本竣介 立てる像 神奈川県立近代美術館 葉山」『NHK文化センター メンバーズ倶楽部』2013秋(No.65)、2013年8月10日、P.22
- ・「画家の妻 山下菊二夫人・昌子さんに聞く(聞き手 長門佐季)」『あいだ』第206号、2013年8月20日、pp.2-9(ほか4回)
- ・「HISTORY OF JAPAN 松本竣介「立てる像」1942」『現代アートがわかる本』2013年9月5日、P.14
- ・原田光「松本竣介 訪ね歩き 10 どこに立って、《立てる像》を描いたか」『街・もりおか』No.550、2013年10月1日、pp.40-41
- ・松本莞「連載 父の肖像(297,298) 松本竣介(上,下) 記憶のなかの父の声」『かまくら春秋』No.522、2013年10月1日、p.56. No.523、2013年11月1日、p.54
- ・「岸田吟香・劉生・麗子 知られざる精神の系譜」『世田谷文学館ニュース』No.56、2013年12月、裏表紙

4) ホームページ(2013年7月~2014年3月)

総ページ閲覧数 1,797,532
訪問者数 300,259

刊行物

わくわくゆったりセットひきかえ券チラシ

編集・発行：神奈川県立近代美術館
21×29.7cm、無料配布
2013年7月発行



ポータブル・アートミュージアム

編集・発行：神奈川県立近代美術館
企画・デザイン：セセントカ
加工(本体)：福永紙工株式会社
31.8×11cm、無料配布
2013年7月発行



美術館たより『たいせつな風景』19号

特集：保存と修復
編集・発行：神奈川県立近代美術館
制作：美術出版社
デザイン：中村遼一(美術出版社)
20.9×14.5cm、表紙を含め34ページ、無料配布
単色3図、多色33図
2014年3月11日発行

図版 松本竣介《子供二人》／あいさつ(水沢勉)
／素描・版画の修復(山領まり)／文化財建造物彩色の保存一どのように遣し後世へ伝えるかー(山内章)／図版 アントニー・ゴームリー《インサイダーVII》／仕事の手休め(藤原徹)／石巻文化センター被災取蔵作品の修復(伊藤由美)／作家解説 芳賀仞(長門佐季)



『神奈川県立近代美術館コレクション選 彫刻』

編集・発行：神奈川県立近代美術館
制作：ニューカラー写真印刷株式会社
29×22.5cm、71ページ、販売価格1,020円(税込)、
多色74図
2013年12月発行

目次
「彫刻、過去、現在、未来」(水沢勉)
図版・解説(川野恵子、是枝開、三本松倫代、
長島彩音、長門佐季、西澤晴美、橋秀文、水沢勉)
作品リスト



神奈川県立近代美術館 施設案内

編集・発行：神奈川県立近代美術館
制作：リーブル
20.9×10cm、四つ折1枚、無料配布、多色13図
2014年3月発行



2014年度年間スケジュール

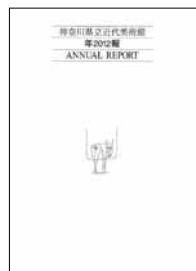
編集・発行：神奈川県立近代美術館
制作：求龍堂
22.5×10cm、三つ折1回二つ折1回1枚、無料配布、
多色18図
2014年3月発行



2012年度年報

編集・発行：神奈川県立近代美術館
制作：印象社
29.7×21cm、64ページ、無料配布、多色1図、単
色88図
2014年3月14日発行

あいさつ／展覧会活動／教育普及活動／作品
蒐集管理活動／調査研究活動／運営・管理報告



2013年度の教育普及活動

橋秀文

2013年度も前年までと同様に、子どもから年配の方々まで幅広い年齢層の人々に美術鑑賞を身近なものとし、美術がもたらす精神的な豊かさを日常生活に結びつけることを目標に、(1)啓発普及事業、(2)地域・学校との連携事業、(3)美術館情報誌等の発行による情報発信事業、を三つの柱として教育普及活動を展開してきた。

(1)の啓発普及事業では、展覧会ごとの学芸員による「ギャラリー・トーク」が活発に行われており、2013年度は回数は25回を数えている。さらに出品作家自身に会場で語っていただく「アーティスト・トーク」を1回、それぞれの展覧会に詳しい専門家や関係者による「ゲストトーク」を4回開催した。また各展覧会の関連企画として講演会や、ワークショップを15回開催した。たとえば葉山館で開催された「ユートピアを求めて」展では、展覧会に合わせて、構成主義的で前衛主義風のタイポグラフィ(活字)を駆使して、作る人が一人一人独自のコラージュを作り上げる「リシツキー先生のアヴァンギャルド入門」工作スペースを展示室内に設置し、多くの来館者でにぎわった。また、鎌倉別館で開催されたコラージュを駆使する芸術家・野中ユリの展覧会「野中ユリ展 美しい本とともに」に合わせて、現代の若い作家薄久保香氏とともにコラージュ・ワークショップを行い、自由な創作活動を満喫し、おおむね好評であった。鎌倉館の「光のある場所」展では、美術家・映像作家の石田尚志氏と「光でえがく場所：色と線でフィルムに直接描く映画制作」というシンプルな映像創作活動を観客とともに共同制作した。その他のゲストトークでは、「レービン展」でトレチャコフ美術館キュレーターのカルボワ氏、「松田正平展」で岩手県立美術館長の原田光氏、「西洋版画の流れ 特別展示：ジゼル・ツェラン＝レトランジュ」展でドイツ文学者の飯吉光夫氏、さらに「彫刻の近代 特集展示：ズビネック・セカール」展でギャラリーTOM館長の村山治江氏にそれぞれお話をいただき有意義な時間をすごした。

これらの展覧会の関連企画は、教育普及という意義のみならず、作家の制作の過程や背景を彷彿とさせ、その世界を広げる内容の企画でもあり、展覧会の一部を補完する重要な役割も担っている。

加えて県立機関活用講座では、「戦争/美術 1940-1950」展の時期に合わせて、それぞれのテーマで戦争と美術の関係について学者や評論家の方々に連続5回の講演をお願いした。戦争という時代の中での美術をとらえ直し、戦後約70年を経て様々な解釈が提議され、深く考えさせられる機会を得た。

(2)の地域・学校との連携事業では、地域や学校による美術館の活用として、団体来館や教員研修、中学生・高校生による職業体験としての美術館の利用など、様々な形で事業を展開している。

2013年度は、アート・ツールとして夏休み企画「ポータブル・アートミュージアム」を制作し、「わくわくゆったりセット」として夏休みの時期に18歳以下の来館者に配布した。また、『Museum Box 宝箱』は、小・中学校のみならず、広く子どものための学習支援を目的とする団体などに、人と美術館を結ぶコミュニケーション・ツールとして大いに活用し続けられている。『宝箱』を使った当館学芸員による出張授業なども活発に行われており、美術館を活用した教員対象の研修の際にも鑑賞学習の方法として、これらのアート・ツールの活用を促している。「先生のための特別鑑賞の時間」は、教員や学校関係者の鑑賞学習での美術館利用を支援するプログラムであるが、各展覧会と連動する形で計9回行い、参加者の所属校との新たな連携につながっている。さらには葉山館における葉山芸術祭との連携や、鎌倉館とその近隣3館(鎌倉市楠木清方記念美術館、鎌倉市川喜多映画記念館、鎌倉国宝館)で行っているスタンプラリーなど、地域と連携した事業も継続している。また近隣地域の学校との連携も継続しており、美術館の学芸員が講師となる鎌倉市立第一中学校との授業「ミュージアム・トリップ」も行われた。当館主催のイベントや学校連携授業以外の、2013年度の出張授業・教員研修・職業体験の受け入れ数は30回で延べ1306名。そのほかに対応した学校教育機関の団体来館数は47回で延べ1834名である。博物館学芸員実

習生、インターン、高校生インターンは延べ14名を受け入れている。それぞれに美術館への期待や要請の高さを示している。

(3)の美術館情報誌の発行による情報発信事業では、A5判の小冊子『たいせつな風景』19号を2014年3月に発行した。内容としては、2013年1月に葉山館で開催された「美は甦る—二枚の西周像」展に関連して行われた県立機関活用講座の「美は甦る—修復の現在」のレジュメ、さらに2011年の東日本大震災で被災した石巻文化センター所蔵の油彩作品13点の修復作業の結果報告などが収録されている。



1.「ユートピアを求めて」展関連企画
展示室内工作スペース「リシツキー先生のアヴァンギャルド入門」



2.「野中ユリ展」関連企画「コラージュワークショップ」
2013年8月26日 鎌倉館および鎌倉別館



3.「ポータブル・アートミュージアム」第3回ワークショップ
2013年9月1日 葉山館



4.「加納光於展」アーティスト・トーク
2013年10月20日 鎌倉館(加納光於氏、水沢勉)

作品蒐集管理活動

購入・寄贈状況 2014(平成26)年3月31日現在

2013年度購入件数	5件
2013年度寄贈件数	788件
2013年度管理換件数	3件
2013年度取得総件数	797件
2013年度末の収蔵総件数	13,013件

寄託状況 2014(平成26)年3月31日現在

2013年度中の解除分	3件
2013年度の新規受入分	5件
2013年度末合計	69件

2013年度 新収蔵作品一覧

- 凡例
 ・寸法について、単位はcmである。版画については、イメージ寸法と支持体寸法を「/」で区切って記載した。
 ・素描のうち、表・裏両面に描かれている場合、タイトル、寸法、署名は「//」で区切って記した。同画面上に複数添付または描かれている場合、「」で区切って寸法を記載した。
 ・署名年記は、書き込みの位置を示して記した。文字が判別できない場合は「□」で補った。

購入

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	署名年記・書込み等	備考
油彩画・アクリル画など								
神祥子	暮方	2013	油絵具、カンヴァス	100.0	80.3			第49回神奈川県美術展
杉野和子	潜	2013	油絵具、色鉛筆、カンヴァス	130.3	162.0			第53回神奈川県女流美術家展
版画								
加納光於	セルペンティネータ	2004	カラー・インタリオ、紙(経文折)	35.0(紙寸)	98.8(最大寸)		PC-I : 左下: 24/50 右下: M.Kano; PC-II : 右下: エンボス[KANO & ATRIUM MITSUO]	2分冊(PC-I, II) カラー・ インタリオ各5点 詩: 平 出隆「断章」 刊: KANO & ATRIUM 50部
ツェラン=レトランジュ、 ジゼル	詩画集『息の結晶』	1963-1964	エッチング、紙(二つ折)	32.3	50.0(最大寸)			エッチング8点 詩: パウ ル・ツェラン 刊: 1965年 Brunidor 限定70部うち 42番 +H.C.15部
彫刻・インスタレーション								
桑山忠明	無題	2004	色鉛筆(青)、マイラー、ガラス、アルミニウム	37.0	35.0	3.0		22点組の1点

管理替え

〈文化課から移管〉

油彩画・アクリル画など

野口彌太郎	映光	1924頃	油絵具、カンヴァス	39.0	79.5		右下: Y.Noguchi	
-------	----	-------	-----------	------	------	--	---------------	--

日本画

加山又造	神奈川	1960年代	紙本着彩	54.5	100.2			
------	-----	--------	------	------	-------	--	--	--

〈大平荘から移管〉

彫刻・インスタレーション

木内克	見つけたポーズ	1954	ブロンズ	56.2	43.5	22.5	後: 克1954	
-----	---------	------	------	------	------	------	----------	--

寄贈

〈青木茂氏寄贈〉

日本画

川上冬崖	花卉図	1870	紙本墨画	100.6	43.8		庚午孟冬 下流写為 藍泉老臺先生雅囑冬崖 生於聴香館	
------	-----	------	------	-------	------	--	----------------------------------	--

素描・水彩画など

木村荘八	木村荘八挿絵画稿(495点)	1943/1944	鉛筆、紙/水彩、鉛筆、紙ほか	約14.3	約16.8			
------	----------------	-----------	----------------	-------	-------	--	--	--

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	署名年記・書込み等	備考
木村莊八	スケッチ[風景](4点)	不詳	鉛筆、紙	132	189			
木村莊八	スケッチ[ふすま](2点)	不詳	鉛筆、紙	132	189			
木村莊八	スケッチ[プロペラ機]	不詳	鉛筆、紙	132	189			
ほか写真資料2点								
島崎翁助	[婦人像]	不詳	鉛筆、インク、ホワイト、紙	360	262		右下: Shimazaki	
版画								
浅井忠	尼(巴里風俗)	不詳	石版、紙	176/21.8	228/24.7			
浅井忠;高橋(柳)源吉	『A Pictorial Museum of Japanese Manners & Customs』	1887	石版、紙	320	236			出版人:小柴英侍
亀井竹二郎	荏野驛 日本武尊御陵(『懐古東海道五十三驛眞景』より)	1891	石版、紙	162/220	233/28.0			発行人:大山周蔵
亀井竹二郎	関驛 地藏堂(『懐古東海道五十三驛眞景』より)	1891	石版、紙	162/221	233/28.2			発行人:大山周蔵
亀井竹二郎	石部驛 蜈蚣山(『懐古東海道五十三驛眞景』より)	1891	石版、紙	162/221	233/28.2			発行人:大山周蔵
亀井竹二郎	石薬師驛 葉師堂(『懐古東海道五十三驛眞景』より)	1891	石版、紙	162/220	233/28.1			発行人:大山周蔵
亀井竹二郎	草津驛 姥ヶ餅屋(『懐古東海道五十三驛眞景』より)	1891	石版、紙	162/221	233/28.0			発行人:大山周蔵
亀井竹二郎	荒井驛 自大日山望遠州洋(『懐古東海道五十三驛眞景』より)	1892	石版、紙	162/221	233/28.2			発行人:大山周蔵
亀井竹二郎	神奈川驛(『懐古東海道五十三驛眞景』より)	1892	石版、紙	163/221	234/28.2			発行人:大山周蔵
亀井竹二郎	赤阪驛(『懐古東海道五十三驛眞景』より)	1892	石版、紙	162/221	233/28.2			発行人:大山周蔵
亀井竹二郎	島田驛(『懐古東海道五十三驛眞景』より)	1892	石版、紙	162/221	234/28.2			発行人:大山周蔵
亀井竹二郎	平塚驛 馬入川(『懐古東海道五十三驛眞景』より)	1892	石版、紙	162/221	233/28.2			発行人:大山周蔵
亀井竹二郎	箱根驛 湖畔舊岡眺望(『懐古東海道五十三驛眞景』より)	1892	石版、紙	162/221	233/28.2			発行人:大山周蔵
亀井竹二郎	江尻驛 自龍華寺望田子ノ浦(『懐古東海道五十三驛眞景』より)	1892	石版、紙	163/221	234/28.2			発行人:大山周蔵
亀井竹二郎	川崎驛 六合川眺望(『懐古東海道五十三驛眞景』より)	1892	石版、紙	162/221	233/28.2			発行人:大山周蔵
亀井竹二郎	小田原驛 自酒香川望諸山(『懐古東海道五十三驛眞景』より)	1892	石版、紙	162/221	233/28.2			発行人:大山周蔵
岸田劉生	春曉	1914	木版、紙	173	125			『藝美』第1年第1号口絵
熊澤喜太郎	洋人銃狭之図	1887	石版、手彩色、紙	272/36.7	360/48.5			出版人:熊澤喜太郎
岡田春燈斎	伊勢古市踊之図	幕末-明治初期	銅版、紙	9.4	15.8			
岡田春燈斎	太秦廣隆寺	幕末-明治初期	銅版、紙	8.8	12.8			
岡田春燈斎	太秦廣隆寺	幕末-明治初期	銅版、紙	8.7	12.8			
岡田春燈斎	永代日出寶鏡	幕末-明治初期	銅版、紙	8.5	13.6			
岡田春燈斎	江戸案内図	幕末-明治初期	銅版、紙	9.4	15.9			
岡田春燈斎	江戸金龍山浅草寺	幕末-明治初期	銅版、紙	9.6	15.8			
岡田春燈斎	神楽岡吉田社	幕末-明治初期	銅版、紙	7.5	12.0			
岡田春燈斎	華頂山知恩院雪中景	幕末-明治初期	銅版、紙	9.1	13.6			
岡田春燈斎	祇園櫻林	幕末-明治初期	銅版、紙	7.3	12.1			
岡田春燈斎	木曾街道六十九駅之風景	幕末-明治初期	銅版、紙	9.6	15.5			
岡田春燈斎	木曾街道六十九駅之風景	幕末-明治初期	銅版、紙	9.5	15.5			
岡田春燈斎	北野天満宮御社之図	幕末-明治初期	銅版、紙	9.5	14.8			
岡田春燈斎	下鴨糺ノ森納涼之景	幕末-明治初期	銅版、紙	8.6	12.5			
岡田春燈斎	下嵯峨虚空蔵法輪寺	幕末-明治初期	銅版、紙	7.3	12.1			
岡田春燈斎	諸国遊所大見立	幕末-明治初期	銅版、紙	9.4	10.8			
岡田春燈斎	新鑄五畿内一覽	幕末-明治初期	銅版、紙	9.9	16.7			
岡田春燈斎	新鑄五畿内一覽道法附	幕末-明治初期	銅版、紙	10.6	17.1			
岡田春燈斎	新鑄三都自慢鏡	幕末-明治初期	銅版、紙	8.6	13.9			
岡田春燈斎	新鑄本朝諸大将勇士武鑑	幕末-明治初期	銅版、紙	9.6	16.1			
岡田春燈斎	都東巡名勝風景	幕末-明治初期	銅版、紙	9.5	15.2			
岡田春燈斎	福神倍増幕	幕末-明治初期	銅版、紙	7.4	11.3			

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	署名年記・書込み等	備考
岡田春燈齋	豊前国田河郡英彦山中嶽略図	幕末-明治 初期	銅版、紙	8.9	14.5			
岡田水月堂(春燈齋)	百人一首 全	幕末-明治 初期	銅版、紙	14.9	9.0			
岡田水月堂(春燈齋)	江戸新吉原春夜之好景	幕末-明治 初期	銅版、紙	9.6	15.5			
岡田水月堂(春燈齋)	大阪案内独巡り	幕末-明治 初期	銅版、紙	9.5	15.6			
岡田春燈齋 // 岡田春燈齋	浪華新町九軒町春迎図 // 能勢八木両妙見巡道中細図	幕末-明治 初期	銅版、紙	8.9//8.6	14.6//14.4			
岡田春燈齋 // 玄々堂	伊勢古市踊之図 // 浪花名所見物独案内鑑	幕末-明治 初期	銅版、紙	8.8//8.5	14.6//14.8			
岡田春燈齋 // 玄々堂	猪の子餅乃由来 // 家内安全之傳	幕末-明治 初期	銅版、紙	9.0//8.7	15.2//14.6			
玄々堂 // 岡田春燈齋	洛東音羽山清水寺春之景 // 皇都八勝景	幕末-明治 初期	銅版、紙	7.2//8.1	11.8//13.2			
玄々堂	不詳	幕末-明治 初期	銅版、紙	16.0	10.1			
玄々堂	伊勢太々御神楽之濫觴	幕末-明治 初期	銅版、紙	9.1	15.1			
玄々堂	御内裏之図	幕末-明治 初期	銅版、紙	9.3	15.6			
玄々堂	神楽岡吉田社齋場所	幕末-明治 初期	銅版、紙	10.4	16.6			
玄々堂	家内安全之傳	幕末-明治 初期	銅版、紙	9.2	15.3			
玄々堂	黒谷金戒光明寺	幕末-明治 初期	銅版、紙	7.9	13.1			
玄々堂	泰平武家並覽	幕末-明治 初期	銅版、紙	13.5	19.7			
玄々堂	大日本豊秋津略全図	幕末-明治 初期	銅版、紙	8.0	14.3			
玄々堂	銅版細見 懷賓花洛名所順覽	幕末-明治 初期	銅版、紙	8.8	15.7			
玄々堂	年中毎日陰晴風雨独考	1862	銅版、紙	8.7	13.5			
玄々堂	大日本名所舊跡数望	幕末-明治 初期	銅版、紙	9.8	15.8			
玄々堂	琵琶湖八勝景	幕末-明治 初期	銅版、紙	9.8	15.2			
玄々堂	名所順覽後	幕末-明治 初期	銅版、紙	9.2	15.6			
玄々堂(松田)保居	洛北金閣寺	幕末-明治 初期	銅版、紙	7.8	12.8			
玄々堂(松田)保居 // 玄々堂(松田)緑山	大仏耳塚 // 紀菟自名草山和歌之浦眺望之図	幕末-明治 初期	銅版、紙	7.3//8.8	12.0//14.5			
玄々堂(松田)保居 // 岡田春燈齋	洛北金閣寺 // 故人長命録	幕末-明治 初期	銅版、紙	7.1//8.7	12.0//14.4			
玄々堂(松田)龍山 // 岡田春燈齋	伏見蘆の森神社 // 新鐫大日本諸国御城之図	不詳/1858	銅版、紙	7.5//9.5	11.2//15.9			
玄々堂(松田)龍山 // 玄々堂	東本願寺風景之図 // 諸国温泉効能鑑	幕末-明治 初期	銅版、紙	8.8//8.5	14.4//14.0			
玄々堂(松田)龍山 // 不詳	東大谷風景図 // 山城国愛宕郡洛東住国歳	幕末-明治 初期	銅版、紙	8.5//8.3	14.5//14.1			
玄々堂(松田)龍山	音羽山清水寺細図	1862	銅版、紙	20.5	16.2			
玄々堂(松田)龍山	勢州巖島之図	幕末-明治 初期	銅版、紙	8.9	15.2			
玄々堂(松田)龍山	ロードス島巨人之図、鷹狩図、異国風景図	幕末-明治 初期	銅版、紙	14.0	9.8			
玄々堂(松田)龍山	ロードス島巨人之図、鷹狩図、異国風景図	幕末-明治 初期	銅版、紙	13.9	19.7			
玄々堂 // 玄々堂(松田)緑山	古市油屋清右衛門 // 弘法大師四目録うらない	幕末-明治 初期	銅版、紙	9.5//8.9	15.8//14.6			
玄々堂(松田)緑山	愛宕山眺望之図	幕末-明治 初期	銅版、紙	8.9	13.6			
玄々堂(松田)緑山	安政二年十一月廿三日奉拜御遷幸之図	1855	銅版、紙	12.8	19.6			
玄々堂(松田)緑山	江碕石光山石山寺細図	幕末-明治 初期	銅版、紙	9.3	15.4			
玄々堂(松田)緑山	江碕石光山石山寺細図	幕末-明治 初期	銅版、紙	11.0	17.0			
玄々堂(松田)緑山	小倉山百人一首 全	幕末-明治 初期	銅版、紙	9.1	15.0			
玄々堂(松田)緑山	参河国	1864	銅版、木版、紙	12.5	16.4			
玄々堂(松田)緑山	駿河町早春	幕末-明治 初期	銅版、紙	9.0	13.7			
玄々堂(松田)緑山	自駿河台水道橋眺望図	幕末-明治 初期	銅版、紙	9.1	13.6			
玄々堂(松田)緑山	上加茂競馬之図	幕末-明治 初期	銅版、紙	7.3	11.8			
玄々堂(松田)緑山	西六條本願寺御堂風景	幕末-明治 初期	銅版、紙	9.5	15.5			

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	署名年記・書込み等	備考
玄々堂(松田)緑山	大日本開闢智勇賢兼備高名集	幕末-明治初期	銅版、紙	9.2	15.6			
玄々堂(松田)緑山	太宰府天満宮御境内之全図	幕末-明治初期	銅版、紙	9.4	15.8			
玄々堂(松田)緑山	太宰府天満宮御境内之全図	幕末-明治初期	銅版、紙	9.5	15.3			
玄々堂(松田)緑山	太宰府天満宮御境内之全図	幕末-明治初期	銅版、紙	10.1	15.9			
玄々堂(松田)緑山	東海道五十三駅並伊勢参宮道中図	幕末-明治初期	銅版、紙	9.6	15.3			
玄々堂(松田)緑山	浪花難波橋夕涼風景	幕末-明治初期	銅版、紙	8.9	14.9			
玄々堂(松田)緑山	浪花難波橋夕涼風景	幕末-明治初期	銅版、紙	9.5	15.3			
玄々堂(松田)緑山	浪華天満聖廟図	幕末-明治初期	銅版、紙	11.1	16.4			
玄々堂(松田)緑山	南都名勝一覽	幕末-明治初期	銅版、紙	9.9	18.0			
玄々堂(松田)緑山	日蓮宗十六本山独案内之図	幕末-明治初期	銅版、紙	9.6	15.5			
玄々堂(松田)緑山	花園妙心寺	幕末-明治初期	銅版、紙	8.0	13.3			
玄々堂(松田)緑山	東本願寺御堂風景	幕末-明治初期	銅版、紙	9.4	15.8			
玄々堂(松田)緑山	洛西御室仁和寺御境内風景并御山八十八ヶ所	幕末-明治初期	銅版、紙	9.1	14.5			
玄々堂(松田)緑山	洛東華頂山細図春之景	幕末-明治初期	銅版、紙	8.6	16.3			
玄々堂(松田)緑山	洛東華頂山細図春之景	幕末-明治初期	銅版、紙	8.8	15.2			
玄々堂(松田)緑山	洛東鳥辺山本寿寺并妙見宮細見図	幕末-明治初期	銅版、紙	9.8	15.7			
玄々堂(松田)緑山	洛東八坂郷祇園大社細図	幕末-明治初期	銅版、紙	9.5	14.7			
玄々堂(松田)緑山	洛東八坂郷祇園大社細図	幕末-明治初期	銅版、紙	10.5	16.5			
玄々堂(松田)緑山	洛北今宮社	幕末-明治初期	銅版、紙	7.8	14.2			
玄々堂(松田)緑山	吉原大門口春之景	幕末-明治初期	銅版、紙	9.0	13.6			
玄々堂(松田)緑山	吉原大門口春之景	幕末-明治初期	銅版、紙	9.2	13.8			
玄々堂(松田)緑山 // 岡田春燈斎	洛北今宮社 // 三都自慢鏡	幕末-明治初期	銅版、紙	7.2//8.6	12.2//14.4			
玄々堂(松田)緑山 // 岡田春燈斎	黒谷金戒光明寺 // 新鑄五畿内一覽道法附	幕末-明治初期	銅版、紙	7.3//9.5	12.0//16.0			
玄々堂(松田)緑山 // 岡田春燈斎	洛東鳥辺山本寿寺并妙見宮細見図 // 日本三勝景	幕末-明治初期	銅版、紙	8.8//8.1	14.3//13.2			
玄々堂(松田)緑山 // 岡田春燈斎	駿河町早春 // 大坂浮瀬	幕末-明治初期	銅版、紙	8.3//8.6	12.2//14.2			
玄々堂(松田)緑山 // 不詳	洛西松之尾大焼神事図 // 新鑄辻占東海道並大阪道	幕末-明治初期	銅版、紙	7.3//8.2	12.0//13.3			
玄々堂(松田)緑山 // 不詳	洛東八坂郷祇園大社細図 // 亀井戸天神	幕末-明治初期	銅版、紙	8.5//5.9	14.2//10.3			
玄々堂(松田)緑山 // 不詳	日蓮宗十六本山独案内之図 // 古今貞女美人鑑	幕末-明治初期	銅版、紙	8.6//8.3	14.4//13.9			
玄々堂(松田)緑山 // 不詳	大仏三十三間堂後堂射前之図 // 新鑄西国三十三番順礼札所觀世音御詠歌風景道法附	幕末-明治初期	銅版、紙	9.0//8.0	15.1//13.1			
玄々堂(松田)緑山 // 不詳	東大御堂風景之図 // 永代日出寶鏡	1862//1861	銅版、紙	9.0//8.1	14.1//13.0			
玄々堂(松田)緑山 // 春泉堂(亭)	江苧竹生嶋全図 // 江戸金澤能見堂徒平臨図	幕末-明治初期	銅版、紙	8.8//8.6	14.6//14.1			
玄々堂 // 春泉堂(亭)	花葉名所記 // 伊勢古市踊之図	幕末-明治初期	銅版、紙	9.4//8.8	15.5//14.3			
春泉堂(亭) // 岡田春燈斎	大坂西照庵庭景 // 芳塾迪風景名所全覽之図	幕末-明治初期	銅版、紙	8.5//8.8	14.2//14.5			
春泉堂(亭)	江戸新吉原	幕末-明治初期	銅版、紙	9.6	14.6			
春泉堂(亭)	江戸日本橋	幕末-明治初期	銅版、紙	9.7	15.4			
春泉堂(亭)	伊勢古市踊之図	幕末-明治初期	銅版、紙	9.6	15.0			
不詳	[地球万国図]	幕末-明治初期	銅版、紙	10.0	16.8			
不詳	都三條大橋眺望図	幕末-明治初期	銅版、紙	9.3	15.1			
不詳	安養寺真景	幕末-明治初期	銅版、紙	7.7	9.9			
不詳	古刀銘盡勳	幕末-明治初期	銅版、紙	9.8	16.1			
不詳	江戸三圃堤花見景色	幕末-明治初期	銅版、紙	8.6	12.9			

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	署名年記・書込み等	備考
不詳	江戸三園堤花見景色	幕末-明治 初期	銅版、紙	8.7	12.8			
不詳	江戸芝愛宕	幕末-明治 初期	銅版、紙	8.6	13.0			
不詳	江戸品川御殿山春之景	幕末-明治 初期	銅版、紙	8.6	13.1			
不詳	手毬調国字解	幕末-明治 初期	銅版、紙	10.0	19.0			
不詳	楠公碑陰	幕末-明治 初期	銅版、紙	10.0	15.2			
不詳	新鐫大日本国諸藩石高萬代集	幕末-明治 初期	銅版、紙	9.7	15.8			
不詳	新版辻占芝居役者紋づ久之	幕末-明治 初期	銅版、紙	8.2	13.1			
不詳	新鐫西国三十三番順礼札所観世音御詠歌風景 道法附	幕末-明治 初期	銅版、紙	19.5	15.3			
不詳	晝算	幕末-明治 初期	銅版、紙	8.9	14.2			
不詳	大日本六之玉河	幕末-明治 初期	銅版、紙	8.7	12.9			
不詳	内裏之図	幕末-明治 初期	銅版、紙	9.5	15.2			
不詳	東海道五十三駅風景	幕末-明治 初期	銅版、紙	8.2	11.8			
不詳	馬山ヨリ東郷池眺望之図	幕末-明治 初期	銅版、紙	7.6	10.0			
不詳	浪華新町九軒町春迎景	幕末-明治 初期	銅版、紙	9.5	15.8			
不詳	浪華新町九軒町春迎景	幕末-明治 初期	銅版、紙	10.2	15.7			
不詳	六十之図	幕末-明治 初期	銅版、紙	10.5	15.7			
不詳	船上山	幕末-明治 初期	銅版、紙	7.7	9.8			
不詳	改正新鐫大日本持丸長者永久鑑	幕末-明治 初期	銅版、紙	9.5	15.5			
不詳	圓山端之寮樓風景	幕末-明治 初期	銅版、紙	7.2	11.6			
不詳	圓山端之寮樓風景	幕末-明治 初期	銅版、紙	7.6	12.0			
不詳	淀川風景一覽之図	幕末-明治 初期	銅版、紙	9.3	15.3			
不詳	参河国 三岳	不詳	銅版、紙	16.4	21.0			
不詳 // 不詳	圓山端之寮樓風景 // 改正新鐫大日本持丸長 者永久鑑	幕末-明治 初期	銅版、紙	7.2//8.8	11.5//14.4			
不詳 // 不詳	本願寺御堂大法會略図 // 三都名所三々九勝 景	1860頃	銅版、紙	8.4//8.3	14.5//13.1			
不詳	浅草寺	不詳	石版、紙	7.2	9.5			
不詳	愛宕山	不詳	石版、紙	7.2	10.4			
不詳	墨田堤	不詳	石版、紙	7.3	9.5			
玄々堂(松田) 緑山ほか	『銅版細画名勝一覽記』	幕末-明治 初期	銅版、紙	15.2	22.8			貼り込み帖 48点
玄々堂(松田) 緑山ほか	『『微塵銅版画集』』	1880	銅版、紙	10.9	15.7			貼り込み帖 23点
玄々堂ほか	『『大日本名勝之内 東京二園、京都名所 十二園』』	1891	銅版、紙	18.0	24.6			貼り込み帖 14点
春泉亭ほか	『『微塵銅版画集』』	明治初期	銅版、紙	8.8	14.3			貼り込み帖 11点
二世五姓田芳柳(原画) ; 新田義興 合田清(版刻)		1897	木口木版、紙	15.0	10.6			『少年世界』(3巻3号2月1 日)原画
二世五姓田芳柳(原画) ; 児島高德 合田清(版刻)		1897	木口木版、紙	15.4	11.0			『少年世界』(10号、5月1 日)原画
二世五姓田芳柳(原画) ; 楠正儀 合田清(版刻)		1897	木口木版、紙	15.4	11.0			『少年世界』(13号、6月15 日)原画
二世五姓田芳柳(原画) ; 村上義光 合田清(版刻)		1897	木口木版、紙	15.5	10.9			『少年世界』(14号、7月1 日)原画
二世五姓田芳柳(原画) ; 北條時宗 合田清(版刻)		1897	木口木版、紙	15.1	10.7			『少年世界』(15号、7月15 日)原画
二世五姓田芳柳(原画) ; 弁内侍 合田清(版刻)		1897	木口木版、紙	15.1	10.6			『少年世界』(16号、8月1 日)原画
二世五姓田芳柳(原画) ; 伊賀局 合田清(版刻)		1897	木口木版、紙	15.4	10.6			『少年世界』(20号、9月15 日)原画
二世五姓田芳柳(原画) ; 宇都宮公綱 合田清(版刻)		1897	木口木版、紙	15.5	10.6			『少年世界』(21号、10月1 日)原画
二世五姓田芳柳(原画) ; 藤原藤房 合田清(版刻)		1897	木口木版、紙	15.3	10.7			『少年世界』(22号、10月15 日)原画
二世五姓田芳柳(原画) ; 北畠顕家 合田清(版刻)		1897	木口木版、紙	15.3	10.7			『少年世界』(23号、11月1 日)原画
二世五姓田芳柳(原画) ; 小山田高家 合田清(版刻)		1897	木口木版、紙	15.4	10.7			『少年世界』(24号、11月15 日)原画
二世五姓田芳柳(原画) ; 桜山茲俊 合田清(版刻)		1897	木口木版、紙	15.1	10.6			『少年世界』(26号、12月15 日)原画

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	署名年記・書込み等	備考
結城正明	HIPPOCRATES	1877	銅版、紙	64.0	47.2			
四方春翠	MECOOT MEOJIS	不詳	銅版、紙	8.5	13.8			
アントワヌ、マリ	七つの美德	17世紀頃	銅版、紙	各約22.0	各約10.8			7点組
渡辺幽香	『寸陰漫稿』一〜八、十〜三〇、三十二〜四〇	1886	石版、紙	27.5	15.7			
不詳	銀細工師(『西洋職人図』より)	不詳	銅版、紙	19.0	14.3			
	あいの人	不詳	木口木版、紙	7.2	9.8			刻：生巧館
その他(資料)								
浅井忠	『新按 小学画手本』第二編〜第六編	1885	石版、紙	14.6	21.8			計7冊(第二、三編は2冊あり)
浅井忠	『小学習画帖』第四編	1885	石版、紙	14.6	21.8			
浅井忠	『中学画手本』第一〜第四	1885	石版、紙	18.0	25.7			計5冊(第四は2冊あり)
浅井忠	『中等教育彩画初歩』第六編	1886	石版、紙	18.2	26.0			
浅井忠	『補訂 中学画手本』第五	1895	石版、紙	18.0	25.7			
浅井忠	『象堂遺芳』	1899	石版、紙	22.5	15.0			
浅井忠	『中学画手本』第二	1900	石版、紙	18.1	26.0			
浅井忠	『中等鉛筆画手本』第八篇	1906	石版、紙	18.1	26.0			
浅井忠	『当世風俗五十番歌合』(上下)	1907	木版、紙	24.7	18.0			計2冊
浅井忠；高橋(柳)源吉	『習画帖』第二編第一巻上 器物	1882	石版、紙	21.8	28.5			6図 出版人：高橋由一
浅井忠；高橋(柳)源吉	『習画帖』第二編第三巻上 樹木	1882	石版、紙	21.2	28.8			5図 出版人：高橋由一
浅井忠；高橋(柳)源吉	『小学習画帖』第三、第四	1885	石版、紙	14.0	21.6			計3冊(第四は2冊あり)
石黒忠愍	『虎烈刺論 完』	1871	印刷、紙	22.9	15.5			活字：鳥霞谷
大槻盤翁(啓漢)	『愛古堂漫稿』	1874	銅版、紙	20.2	13.0			
岡村政子	『普通小学画階梯』前篇四巻、後篇三巻	1885	銅版、紙	15.2	21.5			計2冊
岡村政子	『画学入門』四之巻	1888	銅版、紙	13.2	19.9			
鬼平金四郎	『鬼山名細記』	1881	印刷、紙(石版入り)	18.4	12.4			
鬼平金四郎	『日光山名細記』	1891	銅版、紙	18.7	12.5			
海仙庵	『海仙十八描法』	1859	木版、紙	25.6	17.0			
郭沫若	『毛主席詩調三十七首』	不詳	拓本、紙	27.7	16.0			
蒲原有明	『春鳥集』	1905	印刷、紙(木口木版入り)	19.8	14.2			口絵：青木繁(錯斧)
河野次郎(編)	『画学階梯』初編	1877	石版、紙	18.4	12.4			
小杉放庵(未醒)	『象潟』	1941	印刷、紙	23.5	16.0			大塚巧芸社の肉筆復刻版
小杉放庵(未醒)	新日光絵図		木版、紙	38.0	53.0			袋付
ジュディット・ゴーチエ(訳)	『Poèmes de la libellule(蜻蛉集)』	1885	石版、紙	32.1	25.0			画：山本芳翠 発行：Gillot
小山正太郎	『中等画学臨本』第一篇	1895	石版、紙	19.0	26.3			
小山正太郎	『中等臨画』第一編〜第六編	1900	石版、紙	18.0	26.3			計6冊
小山正太郎	『小学習画帖』	1901	石版、紙	14.8	22.1			
斎藤月岑(編)	『聲曲類纂』巻一下、巻三、巻五	1889	印刷、紙(木版入り)	26.0	17.6			計3冊 画：長谷川雪堤
スコット氏(原書)；跡部素山(校補)	『梅萼餘薫』	1887	印刷、紙(石版入り)	19.5	12.3			発行：春陽堂
木田寛栗(編)	『絵画講習録』第二期	1905-1906	印刷、紙	18.3	25.8			計12冊(所蔵号：1-2,4-5,7-9,15-16,20-21,23-24) 発行：大日本絵画講習会
木田寛栗(編)	『洋画講義論』第二期第三号	1907	印刷、紙(版画入り)	19.0	25.5			計2冊 発行：太平洋画会研究所
高橋(柳)源吉	『陸軍軍人服装図』	1891	石版、紙	24.9	19.0			
高橋(柳)源吉	『高橋由一履歴』	1892	印刷、紙	18.6	13.0			
高橋由一	村田宗清宛葉書	1877	官製葉書に墨	14.0	9.3			
竜川清麿(撰)	『帝都雅景一覽 東山』	1816	印刷、紙(木版入り)	27.4	16.8			画：河文鳳
竜川清麿(撰)	『帝都雅景一覽 西山』	1816	印刷、紙(木版入り)	25.8	16.2			画：河文鳳
竜川清麿(撰)	『帝都雅景一覽 南山』	1816	印刷、紙(木版入り)	27.4	16.5			画：河文鳳
竜川清麿(撰)	『帝都雅景一覽 北山』	1816	印刷、紙(木版入り)	27.8	16.6			画：河文鳳
千葉繁(訳)	『造化機論』 乾・坤	1875	木版、紙(石版入り)	22.5	15.0			計2冊
津久井清影(編)	『聖蹟図志』 神代并諸国部(上)、京都并山城部(下)	1852	印刷、紙(銅版入り)	22.0	15.8			計2冊
西村真琴	『凡人経』	1935	印刷、紙(木版入り)	26.0	19.6			
原田晋	『諸家系図古戦場地図』	1884	印刷、紙(木版入り)	17.6	25.2			
福地桜痴(源一郎)	『葵御紋』	1894	木版、紙(木版入り)	23.0	15.0			
本多錦吉郎	『図画新編 山水之部 第二編』	1895	印刷、紙(石版入り)	18.7	26.2			
本多錦吉郎	『縮景盤図式』	1905	印刷、紙(石版入り)	15.3	23.0			
松原三五郎	『新撰図画 生徒用』第六巻(上下)	1893	印刷、紙	13.8	21.9			計2冊
村井弦齋	『小弓御所』	1896	印刷、紙(木版入り)	22.8	15.0			
山口八九子	『八九子作版画 京名所』	1934	印刷、紙(木版入り)	31.3	23.1			
山下峰吉	『画学規範』	1878	石版、紙	14.6	20.6			
不詳	『木口木版画 従弟試刷書』	不詳	木口木版、紙	21.3	16.9			54図

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	署名年記・書込み等	備考
不詳	「木口木版画 挿絵集(教科書・雑誌)」	不詳	木口木版、紙	21.3	16.9			39図
	『朝陽閣鑑賞錦繍帖』(上下)	不詳	石版、紙	18.9	12.3			計2冊
	『The Illustrated London News』No.1468-vol. LII	1868	印刷、紙	40.0	28.1			発行：イラストレイテド・ロンドン・ニュース・グループ
	「絵入朝野新聞」口付録	明治20年代	木口木版、紙	43.5	31.8			発行：絵入朝野新聞社
	『海外新聞』十一号/十二号/十三号	1871	墨、紙	22.0	15.1			発行：蕃書調所、大学南校
	『貨幣条例 新貨条例改正 全』	1875	活版、紙	22.5	15.6			発行：大阪造幣寮
	『光風』第一年第二号～第四号、第二年第二号、第四号	1905	印刷、紙	約26.5	約19.0			計5冊 発行：白馬会編集部
	『白と黒』第一年 第一号～第五号	1937	木版(機械刷り)、紙	22.2	15.3			計5冊 発行：白と黒社
	『新小説』第七年第三卷	1902	印刷、紙(石版入り)	22.6	15.0			表紙：浅井忠《桜狩》、挿画：浅井忠《觸れ壳》 発行：春陽堂
	『新定書画名家一覽』	1912	印刷、紙(袋付)	袋13.8 本紙54.2	袋10.2 本紙38.7			発行：積善館出版
	「原生土 沖積土」//「土壌生成」	1912	木口木版、紙	21.7	13.7			『新編農業教科書 下巻』より 編纂：信濃教育会
	「噴霧器」	1912	木口木版、紙	21.6	13.2			『新編農業教科書 下巻』より 編纂：信濃教育会
	『世事画法』第一卷(第一号～第三号)、第二卷(第一号～第七号)	1898-1899	印刷、紙(石版入り)	約26.3	約18.7			計10冊 第一卷(第一号、第三号)に浅井忠の石版入り 発行：温古堂編集部
	『東西画集』第六卷第三集		印刷、紙(木版入り)	38.8	25.9			発行：東西画集中央出版
	『日本万歳百撰百笑画』	1894	木版、紙	24.7	18.1			発行：松本平吉 43図
	『明星』	1900-1901	印刷、紙	26.4	18.6			計10冊(所蔵号：7-8、10-17)発行：東京新詩社
	『明星』第2明星	1902	印刷、紙	26.4	18.6			計6冊(所蔵号：1-5,9)出版：東京新詩社
	『明星』明星卯歳	1903	印刷、紙	26.4	18.6			計10冊(所蔵号：2-10,12)発行：東京新詩社
	『明星』明星辰歳第一号～第六号合本	1904	印刷、紙	24.8	17.5			表紙：藤島武二 刊行：1904年1月1日～6月1日 発行：東京新詩社
	『明星』辰歳第七号～第十二号合本	1904	印刷、紙	24.8	17.5			第11号欠 表紙：藤島武二 刊行：1904年7月1日～12月1日 発行：東京新詩社
	『明星』明星巳年第一号～第六号合本	1905	印刷、紙	25.3	18.1			表紙：藤島武二 断ち、書き込みあり 刊行：1905年1月1日～6月1日 発行：東京新詩社
	『明星』明星巳年第七号～第十二号合本	1905	印刷、紙	25.3	18.1			表紙：藤島武二 断ち、書き込みあり 刊行：1905年7月1日～12月1日 発行：東京新詩社
	『明星』牛歳第一号～牛歳第六号合本	1906	印刷、紙	25.6	18.5			表紙：藤島武二 刊行：1906年1月1日～6月1日 発行：東京新詩社
	『明星』牛歳第七号～牛歳第十二号合本	1906	印刷、紙	25.6	18.5			表紙：藤島武二 刊行：1906年7月1日～12月2日 発行：東京新詩社
	『明星』明星未歳	1907	印刷、紙	25.1	18.0			計10冊(所蔵号：1-6、9-12) 発行：東京新詩社
	『明星』申歳	1908	印刷、紙	25.9	18.9			計9冊(表紙：和田英作 所蔵号：1,3-10) 発行：東京新詩社
	『木魚遺響』	1909	印刷、紙(石版、木版入り)	22.3	15.5			編纂：黙語会 発行：山田芸艸堂

ほか関連資料一式

〈井上俊郎氏寄贈〉

油彩画・アクリル画など

井上俊郎	高昌古城と火焔山(中国トルファン)	2012	油絵具、カンヴァス	131.0	163.0		右下：Tos. Inoue 2012
------	-------------------	------	-----------	-------	-------	--	--------------------

〈井上寛子氏寄贈〉

井上信道関連資料一式

〈岩本康子氏寄贈〉

油彩画・アクリル画など

菅野圭介	熊本古城	1956	油絵具、カンヴァス	91.0	72.7		
村山知義	ヘルタ・ハインツェ像	1922-24	油絵具、板	21.0	16.2		右下：1924 TOMOYOSHI MURAYAMA 上部：HERTA HEINZE WIESBADEN

彫刻・インスタレーション

川上邦世	三味線弾き	1920頃	木、着色	22.5	37.2	29.0	
------	-------	-------	------	------	------	------	--

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	署名年記・書込み等	備考
<大野帥郎氏寄贈>								
油彩画・アクリル画など								
サンジョヴァンニ、アッキ ーレ	牛	不詳	油絵具、紙	21.6	30.0			
<奥田真理氏寄贈>								
素描・水彩画など								
高橋力雄	不詳[かたつむり]	1950	油絵具、モノタイプ、紙	15.7/24.7	12.5/19.3			
高橋力雄	不詳[三津海岸よりの富士山]	1950	クレヨン、鉛筆、紙	15.2/19.9	22.3/24.9			右下：三津海岸よりの富士山 '50
高橋力雄	不詳[川奈ゴルフ場]	1952	クレヨン、鉛筆、紙	9.3/25.0	13.2/20.0			右下：川奈ゴルフ場 恩地御夫妻 品川北岡 □□と
高橋力雄	不詳[川奈ゴルフ場]	1952	クレヨン、鉛筆、紙	9.7/24.9	9.3/20.0			右下：川奈ゴルフ場 52.11.11
高橋力雄	幕張風景	1953	鉛筆、水彩絵具、紙	11.0/20.0	26.3/35			右下：幕張風景 '53
高橋力雄	庭の鈴蘭	1954	水彩絵具、インク、紙	24.8	20.0			左下：4.25 '54 庭の鈴蘭
高橋力雄	グラフィックアートと生活 ポスター原画	1956	水彩絵具、鉛筆、紙	10.0/19.3	15.6/24.6			
高橋力雄	不詳[三津浜]	1959	クレヨン、鉛筆、紙	12.8/20.0	18.1/25.0			左下：59 3.19 三津浜
高橋力雄	不詳	1961	クレヨン、鉛筆、紙	14.5/20.2	19.2/25.2			右下：1961
高橋力雄	不詳[Mexico]	1972	鉛筆、紙	29.5	37.0			左下：guadalajara in Mexico City Hall 8/72
高橋力雄	不詳[Trollhättan]	1972	鉛筆、紙	29.5	37.0			左下：Trollhättan 18/72 遺跡公園内のレストランにて ガランヤ家族の招宴を得たがそのレストランを対岸からスケッチした
高橋力雄	不詳[VIENA]	1972	鉛筆、紙	37.0	29.5			右下：VIENA 25/7 '72
高橋力雄	不詳[WIEN]	1972	鉛筆、紙	37.0	29.5			左下：karntnerhof Hotel 附近 25/7 '72
高橋力雄	不詳[胃の切開手術中のぼくの感覚記憶]	1985	色鉛筆、紙	19.4	26.4			左下：85.11.8 右下：巨大な花の中で小さな自分がアワフワ・・・と花弁をベットにしている様な記憶が今でもある。痛みは全くなかった。左下：胃の切開手術中のぼくの感覚記憶
高橋力雄	不詳	不詳	鉛筆、紙	22.9/24.9	13.3/20.1			
高橋力雄	不詳	不詳	水彩絵具、紙	9.3/20.0	14/25.0			
高橋力雄	不詳	不詳	鉛筆、水彩絵具、紙	8.3/25.0	11.7/20.0			
高橋力雄	不詳[花瓶]	不詳	インク、水彩絵具、紙	14.6/25.0	10.3/20.0			
高橋力雄	無題	不詳	鉛筆、水彩絵具、紙	12.5/25.1	16.4/19.9			
版画								
高橋力雄	不詳	1950年代半	木版、紙	14.7	12.3			
高橋力雄	恩地先生逝く	1955	木版、紙	21.1/25.9	16.3/20.5			恩地先生逝く
高橋力雄	FORM	1964	木版、紙	13.0	17.6			左下：FORM Rikio Takahashi 1964 16/100
高橋力雄	Work (I)	1965	木版、紙	23.2	18.2			左下：7/50 中央：WORK (I) Rikio Takahashi
高橋力雄	work (II)	1965	木版、紙	20.0	17.2			左下：5/50 中央：WORK (II) Rikio Takahashi
高橋力雄	Work (III)	1965	木版、紙	20.8	17.6			左下：2/50 中央：WORK (III) Rikio Takahashi
高橋力雄	Pleasure ground	1970	木版、紙	20.7/29.0	20.8/28.6			左下：1970 2/6 中央：Pleasure Ground 右下：Rikio Takahashi
高橋力雄	NIWA (SNOW)	1979	木版、紙	14.2	12.9			左下：NIWA (SNOW) Rikio Takahashi 右下：'79 4/50
高橋力雄	夜明け	1991	木版、紙	23.0	20.0			左下：'91 A.P 中央：夜明け 右下：Rikio Takahashi
高橋力雄	Niwa (wind) 試作	不詳	木版、紙	32.3	30.0			左下：NIWA (Wind) Rikio Takahashi 右下：試作
高橋力雄	work (4)	不詳	木版、紙	23.1	18.0			左下：Artist Proof 中央：Work (4) Rikio Takahashi
高橋力雄	森の声	不詳	木版、油性インク、紙、ビニール	23.8	21.1			
高橋力雄	読書 原画	不詳	木版、紙	14.2/24.6	6.8/19.3			
高橋力雄	白い森	不詳	木版、紙	18.6	9.5			右下：白い森
高橋力雄	不詳	不詳	木版、紙	11.3/25.0	14.5/20.0			
高橋力雄	不詳	不詳	木版、紙	11.4/15.0/25.0	9.5/11.5/20.0			

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	署名年記・書込み等	備考
高橋力雄	不詳	不詳	木版、紙	5.2/24.9	6.3/20.0			
高橋力雄	不詳	不詳	木版、紙	5.9/25.0	4.9/20.0			
高橋力雄	不詳	不詳	木版、紙	9.1/10.2/25.0	7.7/8.6/20.0			
高橋力雄	不詳	不詳	木版、紙	9.4/24.9	7.3/20.0			
高橋力雄	不詳	不詳	木版、紙	45.5	46.8			
高橋力雄	不詳[せみ]	不詳	木版、紙	9.4/25.0	5.0/19.9			
高橋力雄	不詳[黒船屋]	不詳	木版、紙	42.9/57.7	32.8/46.1			
高橋力雄	不詳[風景]	不詳	木版、紙	13.4/25.0	18.2/20.0			
高橋力雄	1950年年賀状	1949	木版、紙	13/18.4	8.2/25.0		左下:RIKIO.T 右下: 1950	
高橋力雄	1955年年賀状	1954	木版、紙	16.2/18.4	21.1/25.5			
高橋力雄	1956年年賀状	1955	木版、紙	表右16.6/表左 16.6 裏右17.5/ 裏左17.4	表右10.4/表左 10.4 裏右10.4/ 裏左10.4		表右:56.12.14.10時 わたしは法隆寺山門の 前にいました。	表2点 裏2点
高橋力雄	1958年年賀状	1957	木版、紙	約14.1	約9.3			計2点
高橋力雄	1961年年賀状	1960	木版、紙	14.0	9.2			
高橋力雄	1967年年賀状	1966	木版、紙	14.7	10.3			
高橋力雄	1968年年賀状	1967	木版、紙	約14.7	約10.0			計7点
高橋力雄	1969年年賀状	1968	木版、紙	約21.7	約12.0			計11点
高橋力雄	1970年年賀状	1969	木版、紙	約9.3	約15.5			計2点
高橋力雄	1971年年賀状	1970	木版、紙	約14.8	約10.0			計5点
高橋力雄	1972年年賀状	1971	木版、紙	14.8	9.8			
高橋力雄	1973年年賀状	1972	木版、紙	約14.8	約10.0			計5点
高橋力雄	1973年年賀状原画	1972	木版、紙	7.0	6.4			
高橋力雄	1974年年賀状	1973	木版、紙	約16.3	約9.4			計6点
高橋力雄	1975年年賀状	1974	木版、紙	14.8	10.0			
高橋力雄	1976年年賀状	1975	木版、紙	14.8	9.9			
高橋力雄	1979年年賀状	1978	木版、紙	19.2	6.5			
高橋力雄	1981年年賀状	1980	木版、紙	9.8	14.5			
高橋力雄	1982年年賀状	1981	木版、紙	約14.9	約10.2			計11点
高橋力雄	1984年年賀状	1983	木版、紙	14.8	10.0			
高橋力雄	1985年年賀状	1984	木版、紙	約14.8	約9.8			計4点
高橋力雄	1986年年賀状	1985	木版、紙	約14.8	約10.2			計2点
高橋力雄	1987年年賀状	1986	木版、紙	15.0	10.2			
高橋力雄	1988年年賀状	1987	木版、紙	約14.7	約10.5			計5点
高橋力雄	1989年年賀状	1988	木版、紙	14.3	10.0			
高橋力雄	1990年年賀状	1989	木版、紙	14.6	10.0			
高橋力雄	1991年年賀状	1990	木版、紙	約14.8	約10.0			計6点
高橋力雄	1992年年賀状	1991	木版、紙	約14.8	約10.0			計2点
高橋力雄	1993年年賀状	1992	木版、紙	14.8	10.0			計2点
高橋力雄	1994年年賀状	1993	木版、紙	約14.7	約9.9			計2点
高橋力雄	1995年年賀状	1994	木版、紙	約14.4	約9.6			計3点
高橋力雄	不詳 刷り違い1/2	1997	木版、紙	26.7	23.9		左下: '97 A.D. 右下: Riki. Taka	
高橋力雄	不詳 刷り違い2/2	1997	木版、紙	26.5	23.8		左下: '97 A.D. 右下: Riki. Taka	
高橋力雄	誕生日カード	1998	木版、紙	18.6	10.1		中央上:幸せとは心の内 にありました。	
高橋力雄	暑中見舞い1953年//年賀状1952年	1952//1951	木版、紙	9.8/10.4//9.2/ 10.4	5.5/8.3//7.7/8.3		右下: RIKI //左下: RIKI 右下: 1952	
高橋力雄	年賀状(1958年刷り違い1/3//1959年)	1957//1958	木版、紙	14.1/25.5// 15.6/25.5	9.3/18.4//10.3/ 18.4			
高橋力雄	1969年(推定)年賀状	1969頃	吹き付け、フロッター ジュ、紙	18.6	8.6			
高橋力雄	1976年(推定)年賀状	1975頃	木版、紙	14.7	10.0			
高橋力雄	誕生日カード	不詳	吹きつけ、紙	19.3	9.2			
高橋力雄	年賀状	不詳	木版、紙/コラージュ、 紙	約10.1	約13.4		右下: Riki Takahashi	計9点
ほか高橋力雄関連資料一式								
〈小熊立夫氏寄贈〉								
素描・水彩画など								
鶴田吾郎	富士山	不詳	パステル、紙	37.6	58.0		左下: G.Tsuruta Aokigahara	
〈加納光於氏寄贈〉								
彫刻・インスタレーション								
加納光於	水夫イシュメール、お前が波頭に視たものを語 れ 1	1997	木(ボプラ、楓)、金属 (真鍮)、釣具、油性塗 料など	207.5	70.5	21.2		

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	署名年記・書込み等	備考
加納光於	水夫イシュメール、お前が波頭に視たものを語れ II	1997	木、金属(真鍮)、アクリル系ニス、油性塗料など	197.5	46.3	27.0		
加納光於	水夫イシュメール、お前が波頭に視たものを語れ III	1997	木、金属(真鍮)、油性塗料など	197.5	46.3	27.0		
加納光於	水夫イシュメール、お前が波頭に視たものを語れ IV	1997	木(ボプラ、楓)、金属、油性塗料など	193.5	31.5	25.5		
加納光於	水夫イシュメール、お前が波頭に視たものを語れ V	1997	木、金属(真鍮)、タイル切り、油性塗料など	198.0	47.5	28.0		
加納光於	水夫イシュメール、お前が波頭に視たものを語れ VI	1998	木、金属(真鍮)、ステンレス・スチール、ガラス、油性塗料など	199.7	48.2	30.5		
加納光於	水夫イシュメール、お前が波頭に視たものを語れ VII	1998	木、金属(真鍮)、ステンレス・スチール、油性塗料など	199.7	47.0	30.9		

〈香山万里恵氏寄贈〉

素描・水彩画など

吉田一穂	『半眼微笑』表紙のための原画	不詳	墨、紙	14.5	10.0			
ほか末松正樹関連資料一式								

〈栗田政裕氏寄贈〉

版画

栗田政裕	『イマジオ&ボエティカ』第40号	2013	木口木版、紙	22.0(表紙)	18.0(表紙)			2点木口木版あり《夢想華》《木の上の家》
栗田政裕	『イマジオ&ボエティカ』第41号	2014	木口木版、紙	21.9(表紙)	18.0(表紙)			2点木口木版あり《天空より》《海淵より》

〈栗田玲子氏寄贈〉

版画

野中ユリ	作品集『彷徨引力』より(1)	1971	オフセット、紙	41.4	29.2			10点組の1点 刊：大門出版 限定200部
野中ユリ	作品集『彷徨引力』より(4)	1971	オフセット、紙	41.4	29.2			同上
野中ユリ	作品集『彷徨引力』より(6)	1971	オフセット、紙	41.4	29.2			同上
野中ユリ	作品集『彷徨引力』より(11)	1971	オフセット、紙	41.4	29.2			同上

〈桑山忠明氏寄贈〉

彫刻・インスタレーション

桑山忠明	無題(10点)	2004	色鉛筆(赤)、マイラー、ガラス、アルミニウム	37.0	35.0	3.0		22点組の10点
桑山忠明	無題(10点)	2004	色鉛筆(青)、マイラー、ガラス、アルミニウム	37.0	35.0	3.0		22点組の10点

〈鹿海信也氏寄贈〉

素描・水彩画など

佐野繁次郎	習作デッサン	不詳	鉛筆、紙/トレーシングペーパーほか	約9.0	約12.5			計62点
ほか佐野繁次郎関連資料一式								

〈下中洋子氏寄贈〉

版画

トゥルーズ＝ロートレック、アンリ・ド	アリスティド・ブリュアン、彼のキャバレーにて	1893頃	リトグラフ、紙	133.0	95.0			
--------------------	------------------------	-------	---------	-------	------	--	--	--

〈須田寛氏寄贈〉

素描・水彩画など

須田国太郎	「書齋」のための草案	1937	コンテ、油絵具、紙	27.8	38.0			
須田国太郎	「校倉(乙)」(下絵)	1943	墨、水彩絵具、紙	38.3	56.1			

スケッチブック

須田国太郎	小型スケッチブック(動物園)	1937	鉛筆、紙	25.5	19.7			
須田国太郎	小型スケッチブック(裸婦習作)	1937	鉛筆、紙	25.5	19.7			

〈竹田滋彦氏寄贈〉

版画

斎藤清	仏(1)	1962	木版、紙	52.7(イメージ寸)	38.4(イメージ寸)		中央：BUDDHA(1) 60/200 1962	
斎藤清	金閣寺、京都	1967	木版、紙	52.3(イメージ寸)	37.8(イメージ寸)		中央：KINKAKU-JI KYOTO 58/100 1967	
斎藤清	雪の室生寺、奈良	1968	木版、紙	60.8(イメージ寸)	45.5(イメージ寸)			

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	署名年記・書込み等	備考
斎藤清	会津の冬(57)	1982	木版、紙	37.6(イメージ寸)	52.0(イメージ寸)		中央：WINTER IN AIZU (57) 1982 8/130	
斎藤清	弥勒像	不詳	木版、紙	53.0	32.0			

その他

斎藤清	[1988年の年賀状(斎藤清から竹田悦堂宛)]	1987	木版、紙	15.3	10.0			
斎藤清	[1989年の年賀状(斎藤清から竹田悦堂宛)]	1988	木版、紙	15.3	10.0			
斎藤清	[1990年の年賀状(斎藤清から竹田悦堂宛)]	1989	水彩、墨、紙	15.3	10.0			
斎藤清	[1993年の年賀状(斎藤清から竹田悦堂宛)]	1992	水彩、墨、紙	15.3	10.0			

〈東郷登代美氏寄贈〉

彫刻・インスタレーション

井上玲子	《カゲボウシ》のためのマケット	1988	アルミニウム	73.0	29.5	29.0		
------	-----------------	------	--------	------	------	------	--	--

〈野中ユリ氏寄贈〉

素描・水彩画など

野中ユリ	バルミジャーノの部屋	1978	コラージュ、紙	75.0	54.6			『妖精たちの森』所収
野中ユリ	青い花	不詳	コラージュ、紙	58.5	77.0			

版画

野中ユリ	口のなかの薔薇	1964	銅版、紙	42.0	36.8			
野中ユリ	火の不浸透 1	1967	エンボス、紙	56.0	76.0		左下：II/X N.Yuri-67	
野中ユリ	火の不浸透 2	1967	エンボス、紙	56.0	76.0		左下：II/X N.Yuri-67	
野中ユリ	火の不浸透 3	1967	エンボス、紙	56.0	76.0		左下：II/X N.Yuri-67	
野中ユリ	火の不浸透 4	1967	エンボス、紙	56.0	76.0		左下：II/X N.Yuri-67	
野中ユリ	火の不浸透 5	1967	エンボス、紙	56.0	76.0		左下：II/X N.Yuri-67	
野中ユリ	火の不浸透 6	1967	エンボス、紙	56.0	76.0		右下：Yuri Nonaka	
野中ユリ	火の不浸透 7	1967	エンボス、紙	56.0	76.0			
野中ユリ	火の不浸透 8	1967	エンボス、紙	56.0	76.0			
野中ユリ	火の不浸透 9	1967	エンボス、紙	56.0	76.0			
野中ユリ	火の不浸透 10	1967	エンボス、紙	56.0	76.0			
野中ユリ	火の不浸透 11	1967	エンボス、紙	56.0	76.0		右下：Yuri Nonaka	
野中ユリ	火の不浸透 12	1967	エンボス、紙	56.0	76.0			
野中ユリ	火の不浸透(2点組)	1967	銅版、紙	41.7; 41.6	53.9; 53.5			
野中ユリ	線内の空II	1968	デカルコマニー、紙	110.3	47.0			
野中ユリ	青と黄のデカルコマニー(8点組)	1983頃	デカルコマニー、紙	3.4; 3.9; 3.7; 4.0; 1.8; 4.4; 4.3; 3.9	3.7; 3.2; 4.3; 3.0; 3.9; 2.7; 2.2; 2.8			
野中ユリ	青と黄のデカルコマニー(9点組)	1983頃	デカルコマニー、紙	4.5; 3.5; 1.7; 4.6; 4.3; 4.5; 3.8; 3.6; 3.6	2.9; 2.4; 4.6; 2.5; 3.3; 2.9; 2.8; 2.3; 1.7			
野中ユリ	デカルコマニー(作品II)	不詳	デカルコマニー、紙	35.7	33.0			
野中ユリ	風の薔薇I	不詳	デカルコマニー、紙	38.4	29.7			
野中ユリ	デカルコマニー	不詳	デカルコマニー、紙	47.0	37.0			
野中ユリ	無題	不詳	パステル、金粉、紙	50.3	66.2			
野中ユリ	無題	不詳	デカルコマニー、紙	75.5	55.9			
野中ユリ	無題	不詳	デカルコマニー、紙	75.5	55.9			
野中ユリ	無題	不詳	デカルコマニー、紙	75.5	55.9			

彫刻・インスタレーション

野中ユリ	澁澤龍彦の祭壇	1987	澁澤龍彦の肖像、水晶、大理石ほか	54.0	66.0	49.3		
------	---------	------	------------------	------	------	------	--	--

ほか野中ユリ関連資料一式

〈橋秀文氏寄贈〉

油彩画・アクリル画など

青山義雄	《家鴨の葬式》のための習作	1925頃	油絵具、カンヴァス	59.3	71.4		裏中央：呈二重作龍夫君昭和十九年 青山義雄 裏右：アヒルの葬式 一九二七年滯佛中習作	
------	---------------	-------	-----------	------	------	--	--	--

〈浜田知明氏寄贈〉

彫刻・インスタレーション

浜田知明	坐像	1983	ブロンズ	13.5	9.5	11.5	裏下：C.H. No.7	
浜田知明	檻	1983	ブロンズ	22.0	15.7	18.5	右奥：C.H. No.10	
浜田知明	やあ!	1984	ブロンズ	18.9	14.8	5.5	裏面：C. H. E. A.	
浜田知明	抱擁	1984	ブロンズ	21.8	7.0	5.3	裏側面下：E. A. Chi.	

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	署名年記・書込み等	備考
浜田知明	鏡	1984	ブロンズ	238	240	6.5	基部奥：C.H.No.4	
浜田知明	情報過多の人間	1984	ブロンズ	335	130	11.5	裏側面：C.H.E.A.	
浜田知明	ボスの座(No.1)	1985	ブロンズ	148	100	6.0	裏面：C.H.E.A.	
浜田知明	ボスの座(No.2)	1985	ブロンズ	200	262	3.7	—	
浜田知明	気になる正体	1985	ブロンズ	21.8	28.3	17.8	側面：C.H.E.A.	
浜田知明	頭像	1985	ブロンズ	230	18.5	130	首後ろ：C.H.No.8	
浜田知明	風景	1986	ブロンズ	170	36.5	18.7	基部左奥：Chi.E.A.	
浜田知明	階段を上がる人	1986	ブロンズ	290	19.5	9.5	基部右手前：Chi.7/7	
浜田知明	異常なし	1987	ブロンズ	15.7	25.8	8.5	上基部右前：E.A.Chi.6/7	
浜田知明	二人立像	1987	ブロンズ	30.7	9.0	6.0	裏側面下：E.A.Chi.	
浜田知明	男坐像	1988	ブロンズ	200	10.5	13.3	基部背面：Chi.4/7	
浜田知明	無聊	1988	ブロンズ	23.5	15.5	17.0	裏面：E.A.Chi	
浜田知明	少年と馬	1989	ブロンズ	36.4	27.0	8.8	左側面下：C.H.5/7	
浜田知明	アレレ・・・	1989	ブロンズ	36.7	12.5	12.0	裏側面下：E.A.Chi	
浜田知明	ボタンを押す人	1990	ブロンズ	28.5	16.7	23.0	裏側面下：E.A.Chi	
浜田知明	ヘルムアフロディテ	1992	ブロンズ	25.0	9.0	11.0	左前：Chi.7/7	
浜田知明	家族	1992	ブロンズ	25.3	16.2	7.3	裏側面下：Chi.E.A.	
浜田知明	誰も知らない	1992	ブロンズ	25.7	29.2	15.0	基部左奥：Chi.6/7	
浜田知明	首を!	1992	ブロンズ	26.5	13.7	11.0	基部左下：Chi.H.C.	
浜田知明	松葉杖の男	1993	ブロンズ	290	16.4	13.5	基部左前：Chi.4/7	
浜田知明	鏡	1993	ブロンズ	320	21.8	28.3	右：Chi	
浜田知明	二人坐像	1994	ブロンズ	21.0	18.0	11.0	基部右奥：Chi.3/7	
浜田知明	ヘルメット	1995	ブロンズ	17.0	9.5	6.8	右側面：Chi.E.A.	
浜田知明	芋虫の兵隊(B)	1995	ブロンズ	29.5	32.2	24.9	左側面：Chi.3/7	
浜田知明	ある画家の像	1995	ブロンズ、ミクストメディア	37.5	37.5	16.7	基部右前：Chi.6/7	
浜田知明	広場	1995	ブロンズ	37.5	24.5	35.9	基部左前：Chi.3/7	
浜田知明	風景	1995	ブロンズ	49.5	24.0	88.0	基部左奥：Chi.7/7	
浜田知明	恐竜とそのひ孫たち	1997	ブロンズ	22.5	43.8	13.5	基部右前側面：Chi.E.A.	
浜田知明	三段腹の人	1997	ブロンズ	24.3	7.5	18.0	基部左奥：Chi.H.2/10	
浜田知明	恐竜はテレビで何を見たか	1997	ブロンズ	24.8	59.3	15.2	基部左奥：Chi.E.A.	
浜田知明	女二人	1997	ブロンズ	27.0	21.0	13.0	基部左前：Chi.E.A.	
浜田知明	風景	1997	ブロンズ	27.0	57.7	81.5		
浜田知明	便所の伝説	1997	ブロンズ	36.0	21.3	11.8	基部左奥：Chi.E.A.	
浜田知明	二羽の鳥のいる樹	1997	ブロンズ	42.8	29.5	18.0	基部上面：Chi.E.A.	
浜田知明	サルタンと寵姫	1998	ブロンズ	22.0	29.3	19.3	右裏：Chi.H.E.	
浜田知明	ヘルメット	1998	ブロンズ	29.2	7.5	43.5	裏：Chi.E.A.	
浜田知明	退屈な時間	1998	ブロンズ	31.5	30.0	49.5	基部左前：Chi.H.E.A.	
浜田知明	老いたる騎士	1998	ブロンズ	46.0	13.5	39.0	馬の尻部裏面：Chi.E.A.	
浜田知明	鳩と大砲	1999	ブロンズ	18.5	26.8	39.5	基部右側面：Chi.E.A.	
浜田知明	イスラム幻想	1999	ブロンズ	26.0	38.5	37.3	基部左前：Chi.E.A.	
浜田知明	詩人	1999	ブロンズ	31.3	12.3	14.0	裏側面下：Chi.E.A.	
浜田知明	晩年	1999(铸造2004)	ブロンズ	320	170	11.5	基部右後：Chi.H.H.c.	
浜田知明	飄々	2002	ブロンズ	31.8	13.8	10.2		
浜田知明	吠える男	2003	ブロンズ	36.8	27.5	42.0		
浜田知明	セルバンの門	2004	ブロンズ	82.0	75.0	42.0		
浜田知明	二人	1983(铸造2004)	ブロンズ	4.0	27.0	12.0	裏：C.H.H.C.	
浜田知明	ボス	1985(铸造2004)	ブロンズ	28.7	11.8	10.5	基部後ろ側面：C.H.H.C.	
浜田知明	人	1992(铸造2004)	ブロンズ	22.5	14.8	17.0	基部左前：Chi.5/7	
浜田知明	日溜り	1992(铸造2004)	ブロンズ	23.4	22.5	15.5	左：Chi	
浜田知明	芋虫の兵隊(A)	1992-1995	ブロンズ	19.4	17.0	55.5	基部左奥：Chi.3/7	
浜田知明	悩ましい夜	2000(铸造2004)	ブロンズ	35.0	49.2	29.8	基部右前：Chi.H.H.c.	

〈平澤弓子氏、堀澄子氏寄贈〉

素描・水彩画など

小泉淳作	かさご	1946	水彩絵具、鉛筆、紙	27.5	38.5		左上：昭和廿一年三月十二日 かさご	
小泉淳作	子浦	1974	鉛筆、紙	37.5	53.0		左下：昭49-11-29 子浦にて	
小泉淳作	称名の滝	1984	色鉛筆、紙	101.4	66.7		左下：昭和五十九年四月二十五日 不動滝(秩父 栃本)	

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	署名年記・書込み等	備考
小泉淳作	鎌倉七里ガ浜付近	不詳	鉛筆、紙	32.2	69.6			
小泉淳作	チンドン屋	不詳	木炭、紙	36.8	26.2			
小泉淳作	箱根駒ヶ岳(1)	1977	鉛筆、色鉛筆、紙	67.5	54.1		右上: 52-12-12 箱根にて	
小泉淳作	箱根駒ヶ岳(2)	不詳	鉛筆、紙	55.0	79.6			
小泉淳作	八幡宮の蓮	1976	鉛筆、色鉛筆、紙	44.5	37.0		中央: 51-8-12 八幡宮	
小泉淳作	鎌倉果樹園	1977	鉛筆、紙	31.8	40.7		左上: 鎌倉果樹園にて 52-7-9	
小泉淳作	寒霞溪	1981	鉛筆、紙	45.2	73.0		右上: 56年3月29日 寒霞溪	
小泉淳作	江の島(1)	不詳	鉛筆、紙	37.8	53.8			
小泉淳作	江の島(2)	1977	鉛筆、紙	38.5	54.0		右下: 52-12-15 江の島にて	
小泉淳作	人物(1)	1963	コンテ、紙	53.7	37.3		左下: 63-120	
小泉淳作	人物(2)	不詳	木炭、紙	53.6	37.3			
小泉淳作	人物(3)	不詳	木炭、紙	62.5	46.0			
小泉淳作	人物(4)	不詳	木炭、紙	64.4	48.2			
小泉淳作	人物(5)	1962	鉛筆、紙	53.6	37.3		右下: 62-1-11	
小泉淳作	人物(6)	1967	木炭、紙	53.6	37.4		左下: 67-4-4	
小泉淳作	人物(7)	不詳	木炭、紙	49.0	32.1			
小泉淳作	人物(8)	不詳	木炭、紙	66.1	50.7			
小泉淳作	南紀十津川	不詳	鉛筆、紙	37.3	45.1		右中央: 3月2日 南紀十津川にて	
小泉淳作	風景(1)	不詳	鉛筆、色鉛筆、紙	48.5	63.6			
小泉淳作	風景(2)	不詳	クレヨン、紙	38.1	53.9			
小泉淳作	風景(3)	1976	鉛筆、紙	39.8	54.9		左下: 51.3.18	
小泉淳作	風景(4)	不詳	木炭、紙	54.0	38.2			
小泉淳作	風景(5)	1969	鉛筆、紙	38.5	54.7		左下: 44.10.26	
小泉淳作	風景(6)	不詳	水彩絵具、鉛筆、紙	39.5	54.3			
小泉淳作	風景(7)	不詳	木炭、紙	39.7	54.7			
小泉淳作	風景(8)	不詳	鉛筆、紙	37.5	45.1			
小泉淳作	風景(9)	不詳	鉛筆、紙	35.5	44.8			
小泉淳作	風景(10)	不詳	鉛筆、紙	37.3	44.8			
小泉淳作	風景(11)	不詳	水彩絵具、鉛筆、紙	37.3	54.0			
小泉淳作	風景(12)	不詳	木炭、紙	31.1	46.0			
小泉淳作	風景(13)	不詳	クレヨン、紙	19.5	34.4			
小泉淳作	風景(14)	不詳	クレヨン、鉛筆、ボード	36.3	51.5			

〈平原なつよ氏寄贈〉

油彩画・アクリル画など

井上長三郎	静物	1953	油絵具、カンヴァス	45.0	33.0			
井上長三郎	ドン・キホーテ	1960年代～70年代	油絵具、カンヴァス	39.5	31.0			
烏海青児	ノートルダム	1950年代～60年代	油絵具、カンヴァス	33.0	24.0			
寺田透	枯れた菊	不詳	油絵具、カンヴァス	33.0	24.0			
寺田透	静物	不詳	油絵具、カンヴァス	50.0	59.5		裏左: 寺田透 裏木枠 右上: 瓶焼物三点	

素描・水彩画など

フォス、ヤン	無題	1985	コラージュ、紙	21.5	26.4			
藤澤友一	女性像	1980	水彩絵具、木炭、紙	32.5	24.8			
藤澤友一	Memoire	1991	岩絵具、紙	15.5	21.3			

版画

藤澤友一	Figure	不詳	木版、紙	15.7	20.2			
フォス、ヤン	無題	1985	木版、紙	29.5(イメージ寸)	42.5(イメージ寸)			

ほか関連資料一式

〈吹田文明氏寄贈〉

版画

吹田文明	群生	1965	木版、紙	91.7	62.0		左下: 35/50 右下: 1965.	
吹田文明	神話	1966	木版、紙	60.8	45.9		左下: 28/50 右下: 66.	
吹田文明	海の星座	1966	木版、紙	60.9	45.5		左下: 18/50 右下: 66.	
吹田文明	美しき季節	1967	木版、紙	60.5	45.3		左下: 18/50 右下: 67.	
吹田文明	座標(黄)	1967	木版、紙	60.5	73.4		左下: 4/30 右下: 67	

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	署名年記・書込み等	備考
吹田文明	祭壇の星	1967	木版、紙	60.8	45.2		左下:32/50 右下:67	
吹田文明	霧と雷	1967	木版、紙	61.0	91.8		左下:8/30 右下:1967	
吹田文明	急げ 急げ	1968	木版、紙	45.3	60.3		左下:8/50 右下:68.	
吹田文明	閉ざれた記憶	1968	木版、紙	60.0	45.0		左下:16/50 右下:68.	
吹田文明	虹色のカット	1968	木版、紙	60.0	72.5		左下:18/50 右下:68.	
吹田文明	風の中の雷	1968	木版、紙	60.5	46.0		左下:16/50 右下:68.	
吹田文明	菊	1968	木版、紙	90.8	61.0		左下:15/50 右下:68.	
吹田文明	美しき伝説	1969	木版、紙	50.8	91.5		左下:14/50 右下:69	
吹田文明	明日の世界	1970	木版、紙	61.2	91.5		左下:a/p 右下:70	
吹田文明	群星	1970	木版、紙	92.0	61.0		左下:2/30 右下:70.	
吹田文明	霧の朝	1970	木版、紙	92.0	61.0		左下:2/30 右下:70.	
吹田文明	2つの世界	1973	木版、紙	91.0	61.0		左下:a/p 右下:73.	
吹田文明	星を抱くB	1975	木版、紙	91.0	61.0		左下:15/30 右下:75.	
吹田文明	円舞曲	1978	木版、紙	92.0	61.0		左下:6/30 右下:78.	
吹田文明	花と花	1979	木版、紙	69.1	59.5		左下:4/50 右下:79_	

〈福島和夫氏寄贈〉

油彩画・アクリル画など

福島秀子	五月の振動 V	1986	アクリル絵具、カンヴァス	162.0	97.0			
------	---------	------	--------------	-------	------	--	--	--

素描・水彩画など

福島秀子	無題	1980年代	アクリル絵具、紙	56.0	76.0			
福島秀子	無題	1980年代	アクリル絵具、紙	56.0	76.0			

〈二見彰一氏寄贈〉

版画

二見彰一	版画集『詩と版画 立原道造、丸山薫、ジョン・キーツ、エミリー・ディキンソンの詩と二見彰一の銅版画十葉』	2013	アクアチント、紙	各20.8	各14.6			10点組
------	---	------	----------	-------	-------	--	--	------

〈室井悦子氏寄贈〉

日本画

室井東志生	邕	1982	紙本着彩	189.0	160.0			
室井東志生	鏡(坂東玉三郎像)	2004	紙本着彩	116.7	90.9			

〈矢萩喜従郎氏寄贈〉

写真・印刷物

矢萩喜従郎	HIDDEN JAPAN-自然に潜む日本	1992	写真、紙	各約57.6	各約72.0			計85点
-------	----------------------	------	------	--------	--------	--	--	------

ほか関連資料一式

〈横田茂氏寄贈〉

版画

池田満寿夫	不詳	1950年代	ドライポイント、紙	12.0/42.5	12.8/29.3		左下: Spingel and Spring	
池田満寿夫	不詳	1950年代	ドライポイント、紙	13.1/42.3	12.0/29.3		左下: Spingel and Spring	

館外貸出作品一覧

開催初日が2013年4月1日から2014年3月31日までの展覧会に限る

件数	点数	作家名(作品名)	「展覧会名」会場(会期)
1	1	勝呂忠《地中海にて》	「第63回モダンアート展・同時開催特別企画展 もう一度見たいあの作家展」東京都美術館・地下3階・ギャラリー(B)(2013年4月2日～4月16日)
	2	勝呂忠《神殿にて(白の階段)》	
2	3	桂ゆき《作品A『『雑記帳』1937年4月号 表紙裏面』》	「桂ゆきーある寓話展」東京都現代美術館(4月6日～6月9日)、下関市立美術館(6月21日～8月4日)
	4	桂ゆき《作品B『『雑記帳』のための原画デッサン』》	
	5	桂ゆき《作品C『『雑記帳』1937年6月号』》	
3	6	岸田劉生《村娘》	「水彩画 みづゑの魅力ー明治から現代まで展」平塚市美術館(4月20日～6月16日)
	7	三岸好太郎《横向きの道化》	
	8	三岸好太郎《海と射光》	
	9	麻生三郎《子供》	
	10	麻生三郎《人-8》	
4	11	麻生三郎《人-20》	「富士の国やまなし国文祭記念事業 望月春江とその時代展」山梨県立美術館(4月27日～6月9日)
	12	望月春江《だりあ》	
5	13	望月春江《地》	「望月春江とその時代展」山梨県立美術館(4月27日～6月9日)
	14	柚木沙弥郎《雉女房(上)》	
6	15	柚木沙弥郎《雉女房(下)》	「柚木沙弥郎 いのちの旗じるし展」世田谷美術館(5月2日～8月18日)
	16	藤田嗣治《二人裸婦》	
7	17	藤田嗣治《横たわる裸婦》	「レオナルド・フジタとパリ1913-1931」熊本県立美術館(7月2日～8月25日)、北九州市立美術館(8月31日～10月20日)
	18	北大路魯山人《信楽灰被大壺》	
8	19	福沢一郎《よき料理人》	「北大路魯山人の美ー日本料理の天才 1883-1959展」フランス国立ギメ美術館(7月3日～9月9日)
9	20	野口彌太郎《カーニユ風景》	「開館10周年記念 シュルレアリスムと高橋節郎展」安曇野高橋節郎記念美術館(7月13日～9月1日)
	21	野口彌太郎《セビラの行列》	
10	22	石垣栄太郎《街》	「特別展 関西学院の美術家ー知られざる神戸モダニズム」神戸市立小磯記念美術館(7月20日～10月6日)
11	23	中川一政《静物(びん・白布)》	「生誕120年記念 石垣栄太郎展」和歌山県立近代美術館(9月3日～10月20日)
	24	中川一政《青山二郎像》	
12	25	三岸好太郎《冬(雪の庭)》	「中川一政生誕120年記念展 中川一政芸術の黎明」白山市立松任中川一政記念美術館(9月14日～11月17日)
	26	三岸好太郎《ニコライ堂遠望》	
13	27	中谷泰《実らぬ船》	「生誕110年記念 三岸好太郎展」北海道立三岸好太郎美術館(9月14日～11月17日)、北海道立函館美術館(11月23日～2014年1月19日)
	28	中谷泰《漁婦》	
14	29	山口蓬春《比良暮雪》	「死後20年 中谷泰展」三重県立美術館(10月12日～12月8日)
	30	山口蓬春《波野 下図》	
15	31	松岡壽《工部大学校風景》	「山口蓬春と風景画ー画家の愛した美しき日本のすがた」山口蓬春記念館(10月25日～12月23日)
	32	五姓田義松《港(横浜風景)》	
16	33	古賀春江《窓外の化粧》	「生誕150年・没後100年記念 空前絶後の岡倉天心展」福井県立美術館(11月1日～12月1日)
	34	古賀春江《サーカスの景》	
17	35	寄託作品(油彩)	「昭和モダン 絵画と文学1926-1936」兵庫県立美術館(11月2日～12月29日)
	36	村山知義《美しき少女等に捧ぐ》	
18	37	資料: クルト・シュヴィッターズ『シュトゥルム画集IV クルト・シュヴィッターズ』	「洲之内徹と現代画廊ー昭和を生きた目と精神ー」宮城県美術館(11月2日～12月23日)、愛媛県立美術館、町立久万美術館(2014年1月25日～3月16日)、新潟市美術館(2014年4月12日～6月8日)
	38～44	寄託資料(7点)	
	45	村山槐多《静物(壺)》	
19	46	村山槐多《風船をつく女》	「アートが絵本と出会うときー美術のバイオニアたちの試み」うらわ美術館(11月16日～2014年1月19日)、下関市立美術館(2014年7月17日～8月31日)
	47	坂倉準三《鎌倉館椅子》	
20	48	資料:坂倉準三《神奈川県立近代美術館 鎌倉館 建築模型》	「槐多の歌へる」その後 山崎省三・村山槐多とその時代」横須賀美術館(11月16日～12月23日)、小杉放電記念日光美術館(2014年1月1日～2月16日)
	49	下村観山《信濃の山路(下図)》	
21	50	中川一政《静物(びん・白布)》	「人間のための建築 建築資料にみる坂倉準三」国立近代建築資料館(11月27日～2014年2月23日)
	51	児玉靖枝《深淵一雨二》	
22	52	児玉靖枝《深淵一雨三》	「岡倉天心生誕150年記念、没後100年記念事業 生誕140年記念 下村観山展」横浜美術館(12月7日～2014年2月11日)
	53	児玉靖枝《深淵一雨四》	
	54	片岡球子《面構 豊太閤と黒田如水》	
23	55	片岡球子《面構 歌川国芳》	「愛・知のリアリズム 宮脇晴の周辺」豊田市美術館(2014年1月7日～4月6日)
	56	岸田劉生《童女図(麗子立像)》	
24	57	岸田劉生《近藤医学博士之像》	「城 つわものどもが夢の跡」姫路市立美術館(2014年1月20日～4月10日)
	58	岸田劉生《野童女》	
	59	岸田劉生《村娘》	
	60	『新版画』第3号(18点)	
25	61	『新版画』第4号(20点)	「日本美術院再興100年 特別展 世紀の日本画」東京都美術館(1月25日～4月1日)
	62	『新版画』第6号(16点)	
	63	『新版画』第7号(16点)	
	64	愛染明王図	
26	65	両界曼荼羅(金剛界)	「東京・ソウル・台北・長春ー官展にみるーそれぞれの近代美術」福岡アジア美術館(2014年2月13日～3月18日)、府中市美術館(2014年5月14日～6月8日)、兵庫県立美術館(2014年6月14日～7月21日)
	66	両界曼荼羅(胎藏界)	
	67	歡喜天曼荼羅	
27	68	草間彌生《きのこ》	「中世密教と(玉体安穩)の祈り」神奈川県立金沢文庫(2014年2月20日～4月20日)
	69	草間彌生《幻の野》	
	70	アンドレ・ドラック『パンタグリュエル挿絵集』より ガルガンチュア	
	71	アンドレ・ドラック『パンタグリュエル挿絵集』より パンタグリュエル	
	72	アンドレ・ドラック『パンタグリュエル挿絵集』より ラ・シャッス	
28	73	アンドレ・ドラック『パンタグリュエル挿絵集』より 無題	「ア・ターブル!ーごはんだよ!食をめぐる美の饗宴ー」三重県立美術館(2014年3月1日～5月6日)
	74	アンドレ・ドラック『パンタグリュエル挿絵集』より 無題	

件数	点数	作家名(作品名)	「展覧会名」会場(会期)
30	74	タケミヤ画廊「集団彫小品展」案内状	「タケミヤからの招待状—TAKEMIYA INVITATIONS」慶應義塾大学アート・センター(2014年3月3日～3月28日)
	75	タケミヤ画廊「ZeRo1年展」案内状	
31	76	下岡蓮杖《琴棋書画》	「没後百年 日本写真の開拓者 下岡蓮杖」東京都写真美術館(2014年3月4日～5月6日)、静岡県立美術館(2014年6月10日～7月21日)
32	77	有島生馬《舞台衣装》	「洋画家たちの青春—白馬会から光風会へ—」東京ステーションギャラリー(2014年3月21日～5月6日)、松坂屋美術館(2014年6月14日～7月6日)
	78	内田巖《イギリスの女A》	
	79	朝井閑右衛門《ロリルの踊り》	

当館を含む巡回展への貸出作品

件数	点数	作家名(作品名)	「展覧会名」会場(会期)
1	1	柳瀬正夢《静物(百合)》	「柳瀬正夢 1900-1945」北九州市立美術館(12月14日～2014年2月2日)、神奈川県立近代美術館 葉山(2014年2月11日～3月23日)、愛媛県美術館(2014年4月5日～5月18日)
	2	雑誌『マヴォ』第3号	
	3～6	寄託資料(4点)	

修復報告—油彩画

神奈川県立近代美術館 伊藤由美

作者：寺田透

作品名：静物

材料：油絵具、カンヴァス

制作年：不詳

寸法 (mm)：修復前503×602 修復後503×602

修復前の所見

以前、個人宅に所蔵されていた作品であり、全体にほこりの付着が著しい。画面周辺の額で隠れていた部分と露出していた部分の汚れの差がはっきりと見られ、全体的にくすんだ画面となっている。右側の褐色の壺のみに、亀裂、絵具層の浮き上がりが広範囲に生じており、剥落も多く見られる。当箇所は絵具層が脆弱であり、地塗り層との固着も非常に悪い。裏面にもほこりの付着が著しい。

施工処置

浮き上がり接着および絵具層の固着強化：絵具層の浮き上がり箇所と固着不良の箇所全体に和紙の上から膠水を含浸させ、鋸で接着した。

裏面の清掃・殺菌：吸引力を弱めた掃除機で、裏面と木枠のほこりを除去し、エタノールで殺菌した。

画面洗浄：画面のほこりを刷毛で除去したあと、絵具層の汚れを薄いアンモニア水で除去した。

充填整形：剥落部分に、炭酸カルシウムと水性接着剤で練った充填剤を詰め、周辺部にはみ出した充填剤を除去し、剥落部周辺の絵具のマチエールに合わせて整形した。

補彩：充填箇所に、可逆性のある溶剤型アクリル絵具で補彩を施した。

修復後の所見

浮き上がり、剥落の多かった右側の壺部分は、非吸収性の地塗りの上に、あまり乾性油を使用せず、テレピンなどの揮発性油の多い溶き油で描かれており、壺全体が固着不良を起こしていた。また、画面、裏面に埃の付着が多い場合は空気中の湿気を吸いやすくなり、作品の劣化に影響する場合もある。絵具層の脆弱な箇所は浮き上がり箇所だけではなく、全体的な固着強化が必要であった。



1. 修復前 表



2. 修復前 裏



3. 絵具層の固着強化



4. 洗浄途中



5. 充填整形



6. 修復後 表



7. 修復後 裏

修復報告—日本画

瑤春堂有限公司 竹内進一、竹内朋世

作者：不詳

作品名：両界曼荼羅図（胎藏界曼荼羅図、金剛界曼荼羅図）

寸法(mm)：修復前

胎藏界曼荼羅図	本紙：(丈)約1015×(巾)約865 掛幅装：(丈)約1868×(巾)約1120
金剛界曼荼羅図	本紙：(丈)約1015×(巾)約855 掛幅装：(丈)約1870×(巾)約1119

修復後

(2幅同寸法)

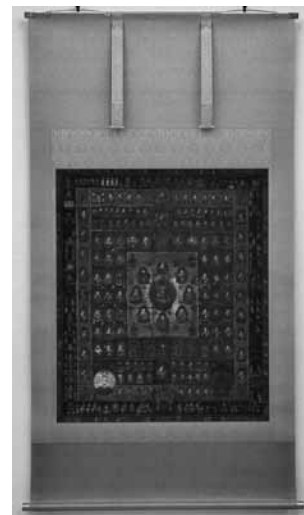
本紙：(丈) 1027×(巾) 862
掛幅装：(丈) 2002×(巾) 1132



1. 胎藏界 修理前(掛幅装)



2. 胎藏界 修理前(掛幅装) 側光線



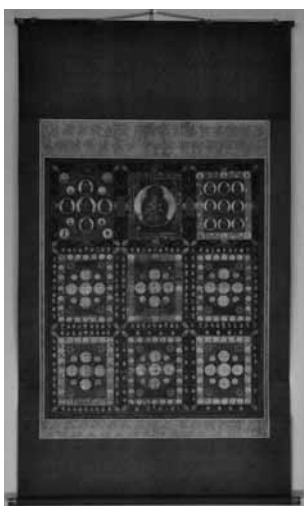
3. 胎藏界 修理後(掛幅装)



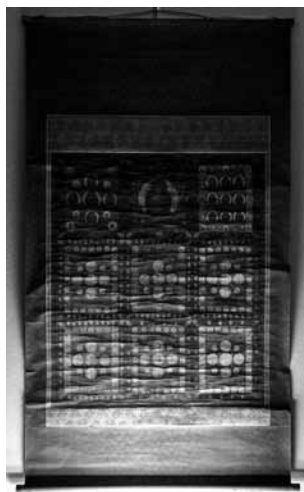
4. 胎藏界 修理前(部分)



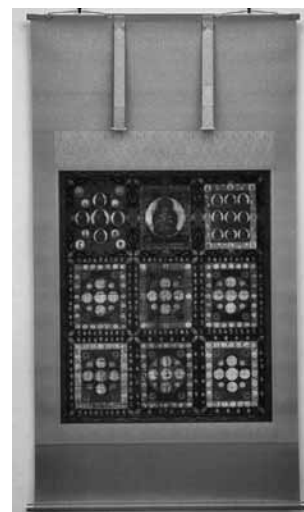
5. 胎藏界 修理後(部分)



6. 金剛界 修理前(掛幅装)



7. 金剛界 修理前(掛幅装) 側光線



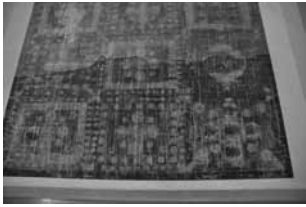
8. 金剛界 修理後(掛幅装)



9. 金剛界 修理前(部分)



10. 金剛界 修理後(部分)



11. 裏打除去(金剛界)



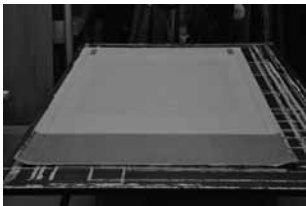
12. 旧肌裏(金剛界)



13. 折伏(金剛界)



14. 仮張り(胎蔵界)



15. 仕上げ前(金剛界)



16. 太巻芯添軸(開いた状態)



17. 太巻芯添軸と掛幅装を巻き上げた状態

修復前の状態

絹本着色、胎蔵界曼荼羅図・金剛界曼荼羅図からなる双幅の掛幅装である。

掛幅装全体が硬く、巻癖が強い状態で、画面全体に折れが生じていた。折れに沿って亀裂や上擦れ、本紙料絹の浮き上がりもみられた。その他にも、本紙料絹の欠損箇所、経年による汚損、表装裂の劣化・脆弱化が確認できた。

施工処置

1. 絵具層の剥落止め：着力が不安定な箇所に膠水溶液を塗布した。
2. 掛幅装の解装：八双・中軸・風帯・座・鏝・端喰金具・表具紐を取り外し、表装裂と本紙を分離した。
3. クリーニング：純水を用いて汚れを吸取紙に移しとった。
4. 旧裏打紙の除去：養生紙で表打ちをして画面を保護し安定させた状態で、旧状の総裏紙(掛幅装の最後の裏打ち)・増裏紙(本紙に直に裏打ちされた肌裏紙以降に裏打ちされた紙)・折伏せ紙を除去した。
5. 裏打ちによる補強：裏箔・裏彩色の状態とこの後の存続を考慮して、再使用とした旧状の肌裏紙に布海苔を塗布した後、薄美濃紙に新糊(小麦粉沈殿糊)と古糊(新糊をおよそ10年間貯蔵した糊)の混合糊を用いて裏打ちを施し、肌裏全体を補強した。次に、美洒紙に古糊を用いて一度目の増裏打ちを施した。
6. 補絹：補修絹にて本紙料絹の欠損箇所を補った。
7. 折伏せ補強と増裏打ち：折れ・亀裂箇所に折伏せ紙による補強をし、美洒紙に古糊を用いた増裏打ちを重ねて厚みを整えた。
8. 表装裂の裏打ち：本紙と同様に肌裏打ち・増裏打ちを行い、本紙との厚み等のバランスを整えた。
9. 付廻：本紙と表装裂を仮張りした後、付廻(本紙の周囲に表装裂を新糊で付ける)を行った。
10. 中裏打ち・総裏打ち：美洒紙に古糊を用いて中裏打ちを、次に上巻絹・宇陀紙に古糊を用いて総裏打ちを行った。
11. 仮張り：表具を仮張りして乾燥させ、平滑な状態にした。
12. 仕上げ：八双・中軸・風帯・座・鏝・端喰金具・表具紐を取り付けて掛幅装の装幀を整え、桐製太巻芯添軸に本体を巻き上げて仕上げた。
*軸先・座・端喰金具は再使用、その他の部材は新調した。

修復後の所見

修復作業の初期段階で絵具層の固着強化を行い、クリーニング・旧状の裏打紙の除去の作業を通して画面を覆っていた煤や汚れが除去されたことで、彩色が鮮やかに明るくなった。

また、裏打ちや折伏を施し、本紙の脆弱な部分を補強したことで、折れや亀裂・本紙料絹の浮き上がりが改善され、全体が安定した状態となった。

本紙の寸法は、修復前は2幅それぞれの寸法だったが、今回の修復では、補絹(施工工程6)の作業で、本紙の歪みを修正するために本紙の四方に付した補修絹の中を、付廻(施工工程9)の際に調節し、2幅が同じ寸法に仕上がるように調整した。

作者名	作品名	寸法(mm) h:高さ	制作年	種別	修復者
不詳	両界曼荼羅図(金剛界)	本紙:1027×862 掛幅装:2002×1132	不詳	日本画	瑤春堂有限公司
不詳	両界曼荼羅図(胎藏界)	本紙:1027×862 掛幅装:2002×1132	不詳	日本画	瑤春堂有限公司
野中ユリ	つましい者の神秘II	274×230	1995-2002	カラージュ	
野中ユリ	デカルコマニー(紺)	930×650	不詳	素描・水彩など	
野中ユリ	薄青のデカルコマニー	560×920	1974	素描・水彩など	
野中ユリ	黒のデカルコマニー(ばらの花のような)	720×530	1964	素描・水彩など	
シャルル・メリヨン	小塔(医学校街22番地)	275×179	1861	版画	
菅野圭介	熊本古城	913×730	1956	油彩	
寺田透	静物	503×602	不詳	油彩	
寺田透	枯れた菊	335×246	不詳	油彩	
河口龍夫	関係-倒れた木のために・種子を宿した枯木	h450×5000×1500	1990	インスタレーション	
原勝郎	風景	480×573	1938	油彩	

調査研究活動

研究・調査報告

野中ユリの現在

橋秀文

はじめに

長らく北鎌倉に居を構えた野中ユリは、1960年代から1990年代にかけて、版画やコラージュの技法を駆使して、シュルレアリスムの手法を手掛かりに、さらに広く深いイメージづくりに専心し、野中ユリならではの不思議な視覚世界を作るに至っていた。そして、神奈川県立近代美術館は、2002年6月から7月にかけて鎌倉館で、現代を代表する幻想作家野中ユリの展覧会を開催した。さらに当館は、2012年に74歳を迎えた作家本人から、手元にある版画やコラージュ作品をはじめ、本人の装幀による書籍類など大量の作品の寄贈を受けた。2013年夏に、その寄贈を記念して当館別館で「野中ユリ展 美しい本とともに」を開催した。その展覧会に接した野中ユリは、さらに追加の寄贈を希望した。

地縁ということもあるが、1960年代から90年代に文学と美術の融合を推し進めた野中ユリの作品群は、当館のコレクションの中で、20世紀後半の精神性の高い幻想美術の領域を埋める意味でもとても価値のあるものといえ、今回の寄贈^(註1)もとても評価されるべきものであった。

ところでこの追加寄贈の作品群のなかには今まであまり知ることのなかった野中ユリの芸術の一面が明らかとなるものが含まれていた。デカルコマニーを制作する際に版として利用される透明なセルロイドの板がそれである。野中のデカルコマニーの解釈について、2013年夏の展覧会カタログで論じた文章について、彼女から後ほど、筆者の解釈に少し誤りがあると指摘してきた。それは、デカルコマニーの制作過程での偶然性を論じたことに対するものであった。筆者は、おそらく版画の刷りと同様に、イメージの表現の結果は、ある程度想像できるものの、刷りを終えて紙をめくり上げるときに初めてその表現結果が制作者によって認められると考えた。デカルコマニーに関しては、版画以上に作者の意図するところは正確に表現できにくいのではないかとさえ思っていた。しかし、野中から言われたのは、デカルコマニーも、版画のように絵具を版に塗りつけそれを紙に写していく手法ではあるが、決してイメージを偶然に委ねているわけではなく、どのようにイメージをなしていくかかなりコントロールができる技法であるという。いわれた時は、もうひとつピンとこなかったが、追加寄贈の中からセルロイドの版を見出した時に彼女の言っている意味がはっきりと理解できた。そして、透明なセルロイドであれば、かなり絵具による操作が容易にコントロール出来て、自在にイメージを生み出すことが可能となる。ただ、その精度を高めることが問題となり、思うように表現できるまでに、たくさん失敗作が生まれることになる。偶然性でデカルコマニーはできるものではないということが理解できたが、そのことと、イメージを容易に作り出すことは別問題であることも理解できたのである。

2014年10月31日、野中ユリと会う機会を得た。21世紀にはいつから、野中ユリはほとんど創作活動をしていない。今年で76歳になる彼女は60歳代に入ってからほとんど制作しなくなったのである。もはや開店休業状態といえる。2012年の神奈川県立近代美術館別館での個展の折も、野中ユリはほとんど作家活動を中止していますねと言った筆者の言葉に対して、彼女は莞爾として受け入れていた。

ところが、この日は違った。板橋区立美術館や青森県立美術館で開催された展覧会のカタログに野中ユリの過去の作品が掲載されているため、それらの図録を彼女に手渡しに行ったのだった。そのカタログを野中ユリは嬉しそうに手にして見ていた。そして別れようとする、実はいずれ見てもらいたいものがあると切り出された。何かと聞くと、最近制作しているオブジェを見てくれというのだ。トランジスタ・ラジオを使ったオブジェだという。さらに、

現在、コラージュを制作中だとも言っていた。

その後12月8日に再び面会した際に、オブジェは完成しており、野中ユリははじめて新作を見せてくれた。そのタイトルは《未来を歌う小さなラジオ装置》という。ここでは、1987年8月5日に59歳で亡くなった澁澤龍彦へのオマージュとして野中が1990年代に制作したオブジェについて解釈しつつ、そののち15年から20年の間をおいて2014年に制作された新作オブジェについて観察してみたい。

《澁澤龍彦の祭壇》

《澁澤龍彦の祭壇》(fig. 1)は、作者寄贈ということで2013年1月に美術館に持ち込まれた。この作品は、オブジェという性格も手伝って、本来幾つかの立体物がケースの中に整然と並べられているものなのだが、寄贈される前に作者のアトリエに作品を確認に行ったとき、この祭壇は2011年3月11日の東日本大震災の影響を受けて、なかの立体物はみな横倒しになった状態だった。その状態を撮影記録し、どこにどのオブジェを置けばいいか検討して、2014年の新収蔵品展での展示で始めて復原が試みられた。まず、この作品は、いつ制作されたのだろうかという疑問がわく。2002年の鎌倉館での「野中ユリ展」では出品されず、2014年の新収蔵品展で初めて公表されたわけである。2014年12月にこと改めて野中ユリに制作年を訊ねると、澁澤龍彦が亡くなって少し経って彼を偲ぶために自発的に制作をしたものだという。澁澤が亡くなったのは1987年であるから少しのちの1990年代前半ということらしい。野中は、咽頭癌に罹った澁澤を見舞った際に口述筆記を通して「自分の装幀・挿画の仕事は(野中に)まかせた」といわれた。その後、亡くなったことはすぐに知った。そして、野中の芸術に大きな影響を与えた澁澤龍彦へのオマージュとしてこの祭壇を制作することを思い立ち、彼女が所有していた様々なものを用いてこのオブジェを制作したのであった。鑑賞者によっては、澁澤と野中との友好関係を思うと制作に用いられたオブジェのなかには、澁澤龍彦愛用の品が含まれているのではないかと思う人がいるかもしれないが、野中はそれに対してきっぱりと否定している。



fig. 1 野中ユリ《澁澤龍彦の祭壇》1990年代 当館蔵

2014年の新収蔵品展で復原展示した展示物を見ながら解説してみる。fig.1の画像の奥中央には野中自身が制作した澁澤龍彦の肖像のコラージュ作品の複製写真が額縁の中に収められている。時計まわりで見えていくと右奥には、水晶玉を頭上に掲げた人形があるが毒味をする菓子や天女だという。その手前には、春丸・秋丸のつもりの二人の人形があり、これらは、前妻の矢川澄子と二度目の妻龍子を示している。さらにその前には、作家澁澤龍彦ということで文人のシンボルである硯と蟬の形をした墨を置いている。中央にはガラス箱が据え付けられ、中には澁澤の愛玩した天空の星座の図像や鉱石などが収められている。ガラス箱の上には澁澤が晩年飼っていた兎のウチャを思っ兎の置物を乗せている。ちなみに澁澤の干支は卯ではなく、辰である。さらに手前には、お皿にお香が掲げられ、下には散華のイメージの花びらが置かれている。その左隣には、筆置きや硯が見える。左手前にはガラスの筒があり、そこに万年筆と兎の飾りのついた鉛筆が差さっている。左奥には、澁澤の愛した天球儀、さらに奥には、翡翠で出来た花束やエキゾチックな人形が置かれている。

こうして見ると野中ユリは、澁澤龍彦の好みを重んじつつ、彼の身の回りの人物やペットなどにも気を配りながら、彼へのオマージュとしての祭壇を

作り上げていった。野中のオブジェの作り方は、コラージュにも共通するのだが、作ろうと思って物を集め始めるのではなく、日頃から様々な置物、飾り物、箱、それ自体オブジェといえるようなものなど様々なものを収集しておき、持っているものの意味を知り尽くした状態から表現したいものを熟考して、彼女自身の辞書ともいえる引き出しからこれぞと思うものを持ち出してくるのである。ゆえに彼女のアトリエは、骨董屋のような様相を呈していた。彼女好みの意味のある品々が自宅の中にひっそりと眠っているのである。そこから必要なものをひっぱり出してきて、単語を並べることで文章を作り上げていくように、澁澤龍彦の祭壇では、澁澤に関わるものを引き出してきて、それらを紡ぎ上げるようにして彼女特有の物語を生み出していったのである。

《未来を歌う小さなラジオ装置》

野中ユリの心の中には、創作活動というものがどれだけ自身にとって大切なものであるか理解できていたはずである。それゆえ2000年になってからなかなか創作ができない日々が続いていた時は、内心気になって仕方がなかったに違いない。作りたくても作る気がわかかなかったのか、実際のところは不明である。ただ、作家にとって展覧会を開催するということは、通常の創作活動以上に気力、体力を消耗するものようだ。2002年の鎌倉館での2人展では、もちろん展覧会を行うことに精力を注ぎ込んだわけだが、その後、創作意欲は戻ることなく、沈黙の日々が続いたのだった。その後、神奈川県立近代美術館への作品寄託、寄贈といったことを経て2013年に鎌倉別館で所蔵品による野中ユリの展覧会が開催されたわけだ。このときも、もちろん新作が出品されることはなかった。あとから作家本人から聞いた話だと、この展覧会の折に筆者が口にした「野中ユリさんは2000年以降創作活動をほとんど行っていない」という一言を耳にして、心に期するものがあつたという。作家にしてみれば、何もしていないということにいらだちを覚えたのだろう。寄託、寄贈を決意した時期に、野中ユリは繰り返し「もう私の創作活動は終わった。あとは、作ってきた作品たちを守ってくれる場所を見つけるだけだ」と繰り返し語っていた。寄贈をするだけならば何の刺激もなく静かに余生を送るのみで、その創作の心を奮い立たせることはない。しかし、展覧会を開いたことで、自身の現状を客観的に見て、これではいけないという気になったようで、これは芸術家にとって創作活動上、制作を行う気にさせる何よりの特效薬であつたというべきだろう。

こうして1年のうちに野中ユリは創作活動を再開する。もちろん、展覧会場での一言だけで創作意欲を取り戻したとは断定できない。板橋や青森の展覧会に自分の旧作が出品されたことで、自信を取り戻したということもあつたに違いない。

思い起こせば寄贈を決意し始めた2012年頃から野中ユリは、日頃何をしても過ごすかしばしば口にするようになっていた。それは一日中、ラジオを聞いて過ごすというものであつた。ニュースを聞き、音楽を聴くのだという。それ以外は何もしない。会うごとにそのことを繰り返し言うようになった。彼女は世間で起こることにとっても関心を抱いているらしかった。世の中と自分が直結していることが安心感を持たせるのであろう。筆者より時事問題に精通していることがあり、びっくりさせられることがあつた。朝起きてから夜寝るまで、ひたすらニュースと特にクラシック音楽を聞き続ける。筆者としては精神的な安定を得て落ち着きを取り戻した野中ユリがいて、創作活動を行わなくなった日常生活を黙々と送っている野中ユリがそこにはいるものと思つてきた。そして、創作意欲に目覚めたのが2014年の秋頃のことであつた。最初に述べたとおり、彼女は、ひそかにオブジェを制作していたのだった。クラシック音楽は精神を安定させるということで、ひたすら聞き続ける理由はすぐにわかるが、ラジオでニュースを聞くというのはなぜか。テレビやコンピュータではだめなのか。本人の説明では、ニュースから世界の現実を知る上でとても有効な手段であるが、テレビなどの映像よりラジオの方が、より詳しく解説してくれるので有意義であると説明してくれた。

《未来を歌う小さなラジオ装置》(fig. 2)の作品を見ると、トランジスタ・ラジオが二つ箱の中に並べられているのが分かる。タイトルはその場で《未来を歌う小さなラジオ装置》と名付けられた。オブジェの素材は簡素である。身の回りにあるものだけで構成されている。トランジスタ・ラジオは、梱包さ



fig. 2 野中ユリ《未来を歌う小さなラジオ装置》2014年 個人蔵

れていた透明なプラスチックの容器にそのまま保管されている。向かって右の容器には、ラジオを取り囲むように貝殻、真珠の指環、単4電池2本、メンソレータムのスティック、さらにボールペン1本が収められ、ラジオの上には、2013年に開催された野中ユリ展のチラシに掲載された《ブルーストと妹》の図版から切り取られた一輪の花が乗せられている。貝殻や真珠の指環は、野中ユリの好む表現材料で、彼女の純粋無垢な世界を表している。もう一方の左のトランジスタ・ラジオの方はどうであろう。やはりラジオを取り囲むように、鉱石が二つ、単4電池が2本、ボールペンが1本取められている。こちらには鉱石の下に紙が1枚敷き詰められており、先ほどと同じチラシから切り取られた花が2輪置かれており、ボールペンでYuri Nonaka 2014と署名年記がなされている。鉱石や貝殻などは、澁澤龍彦の好んだものといっていたが、野中ユリ自身も愛玩していたものであつた。

彼女の新作は、自身が長年培ってきた造形言語を用いながら、現在の自分の立ち位置を十分認識しつつ、本人の生活の宇宙を表現しようと努めているのである。彼女は「ラジオは永遠に音楽を流し、ニュースを伝え続ける。電池を換えれば永遠に続く」という。

野中ユリの生きている生活のなかから世界との結びつきを考えることによりこのオブジェが生み出されることとなった。本人自身の生きることの意味を問うた作品である。

見る側は、作者のメッセージを預言者の言葉として聞くのではなく、創作活動を続けてきた芸術家の孤高の軌跡の過程の一側面を見ているのだとして受け止めるべきである。2000年に入ってから鳴りを潜めていた芸術家が、再び静かに鼓動しはじめた。そこには、芸術家として長年生きてきたことこの先も創作活動を続けて生きていこうとする野中ユリの希望と矜持が入り混じっている。未来を歌う小さなラジオに本人は寄り添って生きていく。そこから彼女の新たな創作活動が始まるのである。

おそらく2000年以前の自宅のアトリエに倉庫のように自分の好みの物物をため込んで、どのようなものを表現しようか引き出してきて彼女自身の造形言語を自在に操るといった行為は、現在の環境のなかではなかなか困難なものようだ。しかし、それだからこそ、制限のある中で何とか表現したいという意欲を持って制作をしようとする姿勢を示している。そうした制限のあることを、逆手にとって、野中ユリはそれまでにみられなかった新しい表現を生み出すことに挑戦しようとしているのではないだろうか。野中ユリの今後の創作活動を注視したい。

註1: これらの寄贈作品については、本年報の38頁を参照のこと。

グラヴリートの検閲番号等から特定されるポスター発行時期とその考察の展開

——旧ソヴィエト連邦における宣伝印刷物の文化学的研究(2)

榎山昌夫

始めに

平成25年10月から平成26年1月に神奈川県立近代美術館 葉山で開催された「松本増樹コレクション ユートピアを求めて ポスターに見るロシア・アヴァンギャルドとソヴィエト・モダニズム」展の図録(以下「図録」)に掲載した「グラヴリートの検閲番号等から特定されるポスター発行時期とその考察——旧ソヴィエト連邦における宣伝印刷物の文化学的研究の一端緒——」(以下「ポスター発行時期とその考察」)で、筆者は欄外に記された検閲番号などを手掛かりに、発行年が明らかでないポスターの発行時期を特定できることを示した。¹⁾ また、同論の考察対象とした164点のポスター以外の資料を分析に加えることができれば、ポスターの発行時期をより正確に特定できることを期待して結びとした。

東京国立近代美術館フィルムセンターの岡田秀則主任研究官は、ソヴィエト映画ポスターの日本国内にあるもうひとつの重要な蒐集である同センター所蔵の袋一平コレクション(以下「袋コレクション」)にこの手法を早速適用し、幾つかのポスターの発行時期を特定された。

本稿では、まず、図録に若干の訂正を加えながら、松本増樹コレクション(以下「松本コレクション」)と袋コレクションのデータを合わせて分析し、「ポスター発行時期とその考察」を改定する。次に、ステンベルク兄弟の最初期の映画ポスターの発行時期について、展覧会開催後に得られた知見を述べる。

1. 「ポスター発行時期とその考察」の改定

松本コレクションの情報を訂正し、袋コレクションと合わせて分析して得られた結果が表1である。G番号はロシア・ソヴィエト連邦社会主義共和国教育人民委員部の文学出版事業管理総局(グラヴリート)の検閲番号、M番号はモスクワ県文学出版事業管理局(モズグブリート)の検閲番号を示し、表中網点が掛かっている欄が改訂部分である。袋一平は1930年5月から7月にかけてソヴィエト連邦に滞在し、ポスターを入手している。²⁾ 袋コレクションには、必然的に同年とその前年のポスターが多く含まれ、それらから1929年と翌年の情報を改定することができた。

表1: 検閲番号(G番号とM番号)とポスター発行年との関係(改訂版)

G番号	[253]	[53233]	[54945]	60849	76467	76874	99258	A4284
M番号								
発行年	1924	1925		1926			1927	

G番号	A4943	[A28875]	A29199	A43157	A53608	A52017	A81270
M番号				43157	63499	515	6269
発行年	1928		1929				1930

G番号	B221	B9864	B16782	B26826	B27384	B31868	B39081
M番号							
発行年	1931		1932		1933		1934

※[]内G番号を持つポスターの発行年は推定

両コレクション中、G番号と発行年が共に記された最初のポスターは、ステンベルク兄弟による《駒の歩み》(1926年、G番号60849、図録II-7)であるが、年記の無いニコライ・プルサコフによる《モスクワ国立カーメルニー劇場第2回ポスター展覧会》(G番号54945、図録II-75)の展覧会開催期間が

1) 神奈川県立近代美術館、世田谷美術館、東京新聞(編)『松本増樹コレクション ユートピアを求めて ポスターに見るロシア・アヴァンギャルドとソヴィエト・モダニズム』東京新聞、2013年、162-165頁。

2) 袋一平のソヴィエト連邦滞在中については、岡田秀則『旅の終わり——袋一平とソビエト映画ポスター』『NFCニューズレター』第82号(2008年12月)7-8頁に詳しい。この論考は東京国立近代美術館フィルムセンター、京都国立近代美術館(編)『東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵 無声時代ソビエト映画ポスター《袋一平コレクション》カタログ』(東京国立近代美術館、2009年)に再録されている。同カタログにはポスターの発行時期についての記載は無く、映画公開時期が判明しているものについてのみ、それが記されている。

1926年2月1日から2月15日であったことから、このポスターも1926年に、しかも《駒の歩み》よりも早い時期に発行された可能性が高い。一方、アレクサンドル・ロトチェンコによる《戦艦ポチョムキン》(G番号53233、図録II-95)が1905年のロシア第一革命二十周年記念映画として、1925年12月21日にモスクワのポリショイ劇場で初上映されたことから、このポスターは、増刷の可能性は排除できないものの、1925年末に発行されたと推定できる。また、アレクサンドル・ロトチェンコによる《キノグラース(映画眼)》(G番号253、図録II-94)も、1924年10月31日に初上映されたことから、同年発行のポスターという定説は妥当である。

両コレクション中、G番号と1926年と共に記された最後のポスターはステンベルク兄弟による《シルヴァンスカヤ公女の犯罪》(G番号76467、図録II-12)、1927年の最初はステンベルク兄弟による《デカプリスト》(G番号76874、図録II-13)、1927年の最後は作者不明の《スカラムーシュ》(G番号A4284、図録II-114)³⁾、1928年の最初はステンベルク兄弟による《結婚の鎖》(G番号A4943、図録II-37)であり、1928年の最後は、映画初上映が1929年1月15日であるものの、年明け間もないことから、「プルサコフ28」と署名された《ガラスの瞳》(G番号A28875、図録II-85)としてよいであろう。これによって、袋コレクションの年記の無いポスター、例えば、グリゴリー・ポリソフとプルサコフによる《キスして、メリー》(資料番号32946-22)がG番号96174から1927年、ビョートル・ジュコフとアレクサンドル・ナウモフによる《らい病の女》(資料番号32956-22)がG番号A9209から1928年の発行と特定される。

「ポスター発行時期とその考察」では、「1929年発行のポスターには、G番号に代わってM番号が記されている。クラークによる《1905年は十月革命への道だ》(cat. no. III-29)が唯一の例外である⁴⁾と述べたが、袋コレクションからは別の結論が導き出される。袋コレクションには、G番号と1929年と共に記されたポスターが12点あるからである。その最初は、L. マルコフによる《マリ・クジェル》(G番号A29199、資料番号32890-20、fig. 1)、最後はステンベルク兄弟による《カメラを持った男》(G番号A43157、資料番号32866-20、fig. 2)である。G番号と1929年と共に記された最後のポスターは、上記の松本コレクションのワレンチーナ・クラークによる《1905年は十月革命への道だ》(G番号A53608、図録III-29)である。これらから、発行年が曖昧であった松本コレクションのアナトリー・ペーリスキーによる《5分間》



fig. 1 L. マルコフ《マリ・クジェル》1929年、106.7×71.8cm、東京国立近代美術館フィルムセンター提供(資料番号32890-20)



fig. 2 ステンベルク兄弟《カメラを持った男》1929年、103.8×72.8cm、東京国立近代美術館フィルムセンター提供(資料番号32866-20)

© Vladimir Stenberg / RAO, Moscow / JASPAR, Tokyo, 2014 E1394

3) 筆者は、G番号は桁数の増加から「A」を付けて再スタートしたと推測している。

4) 162頁。

(G番号A29453、図録II-108)は、1929年の発行と特定できる。

両コレクション中、G番号と1930年が共に記された最初のポスターは、ウラーギナによる『ソヴィエト社会主義共和国連邦の防衛を』(G番号A52107、図録III-28)であるが、G番号は『1905年は十月革命への道だ』よりも若い。その原画は1929年の制作であることから、検閲から発行までの過程で順番が前後したのかもしれない。これ以降のG番号については、「ポスター発行時期とその考察」から変更は無い。

M番号については、図録に訂正を加えた上で、袋コレクションから得られる知見を述べる。

「ポスター発行時期とその考察」では、ステンベルク兄弟の『春』(M番号1793、図録II-56)が1929年と記されたポスターの中で最も若いM番号を持つとしたが、実際には出品作品に発行年の記載はない。⁵⁾ 松本コレクションには、M番号と発行年が共に記されたポスターが20点あり、すべて1929年である。その最初は、ステンベルク兄弟による『アーセナル(武器庫)』(M番号43997、図録II-59)、最後はミハイール・ドルガーチによる『裁判官レイタン』(M番号61699、図録II-105)である。一方、袋コレクションには、M番号と1929年が共に判読できるポスターが31点あり、その最初もまたステンベルク兄弟による『アーセナル(武器庫)』(M番号43997、資料番号32868-20)であり、最後は作者不明の『発明家の道』(M番号63499、資料番号32932-16)である。

ところで、袋コレクションの『カメラを持った男』(G番号A43157、資料番号32866-20)と同じ図様のポスターはモスクワのロシア国立図書館にもあるが、興味深いことに、それにはM番号43157と記されている。⁶⁾ これは、『アーセナル(武器庫)』のM番号よりも若い。

つまり、1929年のポスターには、G番号に代わってM番号が記されたのではなく、G番号記載のポスターと並行してM番号記載のポスターが発行されたことと結論付けられる。

ところで、袋コレクションには、M番号と1930年が共に記されたポスターが3種類4点ある。それらルクレフスキーによる『ギガント』(M番号515、資料番号32872-20/38954-29)と『特別極東軍』(M番号1369、資料番号32934-16)、イサーク・ラビチェフによる『聖ヨルゲンの祝日』(M番号6269、資料番号32881-20)には、1929年のポスターよりも若いM番号が記されているが、その理由は判らない。

これら松本コレクションと袋コレクションのポスターの文字データについては、独立行政法人科学技術振興機構の運用するデータベースresearchmap上で公開したいと考えている。⁷⁾

2. ステンベルク兄弟の最初期の映画ポスターの発行時期

ステンベルク兄弟が手掛けた最初の映画ポスターは、1923年の『愛の眼



fig. 3 ステンベルク兄弟『愛の眼差し』1923年?、70.0×102.2cm, Ruki Matsumoto Collection Board (inv. no. 4254)

© Vladimir Stenberg/ RAO, Moscow / JASPAR, Tokyo, 2014 E1394

5) さらに、図録掲載作品は出品作品と同じ図様の別のポスターであり、M番号を含む下辺の文字情報の一部が失われている。松本瑠樹氏旧蔵のボジ・フィルムには、コレクション以外のボジ・フィルムも含まれており、図録制作時にそれを見過ごしたことをお詫びする。

6) Susan Pack, *Film Posters of the Russian Avant-Garde*, Köln: Taschen, 1995, p. 193に掲載。松本コレクションにも、これらと同じ図様のポスター(図録II-60)があるが、その下辺の文字情報は一切失われている。図録にはロシア国立図書館蔵ポスターの情報から補って記載したが、早計であった。

7) http://researchmap.jp/masao_momiya/

差し) (図録II-1、fig. 3) とされ、1997年のニューヨーク近代美術館におけるステンベルク兄弟の展覧会でもその発行年を採用している。⁸⁾ その根拠は、ウラーギル・ステンベルクが、1978年から亡くなる前年の1981年にかけてインタビューを受け、その中で初期の映画ポスター制作について次のように語っているからである。

僕たちが手掛けた最初のポスターは『愛の眼差し』だった。それは1923年のことだ。僕たちはそれに、自分たちの名字の最初の4文字「ステン(СТЕН)」と記した。なぜなら、それ以上制作することになるかどうか知らなかったからだ。2番目のポスターには「ステンベルク」と、それ以降のポスターには「2、ステンベルク、2」と署名した。⁹⁾

しかし、この制作年には疑問の余地がある。その理由として、まず、ステンベルク兄弟は1923年2月にモスクワ・カーメルニー劇場と共にパリに出発し、その後10ヶ月ほど国外に滞在していたことが挙げられる。¹⁰⁾ また、このポスターの画面には映画タイトルの「愛の眼差し」、7部構成の映画作品、「ソフキノ配給」、署名の「ステン」という文字が組み込まれているが、映画の製作及び配給を行うソフキノ(ソヴィエト映画社)を組織することがロシア共和国人民委員会議で議決されたのは、1924年6月である。そして、ソフキノの定款が決定されたのが1924年12月10日、ソフキノが実際に事業を始め、ゴスキノ(国家映画委員会)から映画配給権のすべてがソフキノに移管されたのが、1925年3月1日である。¹¹⁾ つまり、「ソフキノ配給」と記された『愛の眼差し』は、1924年以降の発行である可能性が高い。

これについては、1924年発行と考えられる前述のロトチェンコによる『キノグラス(映画眼)』(G番号253、図録II-94、fig. 4)からも裏付けが得られる。



fig. 4 アレクサンドル・ロトチェンコ『キノグラス(映画眼)』1924年、92.7×69.9cm, Ruki Matsumoto Collection Board (inv. no. 264)

8) Christopher Mount, "Stenberg Brothers: Constructing a Revolution in Soviet Design," in Christopher Mount et al., *Stenberg Brothers: Constructing a Revolution in Soviet Design*, The Museum of Modern Art, New York, 1997, pp. 11-12.

9) Alma Law, "A Conversation with Vladimir Stenberg," *Art Journal*, 41 (Fall 1981), p. 229.

10) Ibid., p. 233, note 27.

11) 袋一平『露西亞映画史略』往來社、1932年、72-75頁。ソヴィエト映画の日本への紹介に関する袋一平の先駆的重要性については、岡田氏が前掲論考ですでに指摘している。ところで、袋がソヴィエト連邦を訪問した1930年にはスターリン崇拜が強まると共に、第一次五カ年計画の成果を宣伝する国策雑誌『建設のソヴィエト連邦』が創刊されている。当時のソヴィエト連邦の対外宣伝戦略に乗っていたが故に、公式の情報に通じていた袋の『ソヴェト映画の旅』(往來社、1931年)と『露西亞映画史略』の2冊の書籍はとりわけ重要である。当時のソヴィエト映画そのものに加えて、製作会社や制作者についても詳しい前者には、全連邦対外文化連絡協会とソユーズキノ編集部が協力している。その書名の通り、20世紀初頭からのソヴィエト映画史を著した後者には、駐日ソヴィエト連邦大使館一等書記官兼ソヴィエト連邦対外文化連絡協会日本代表のM. ガルコヴィチが序文を寄せている。従って、これら2冊は、当時のソヴィエト連邦本国の資料に勝るとも劣らないソヴィエト映画に関する公式の資料とみなしてよいであろう。

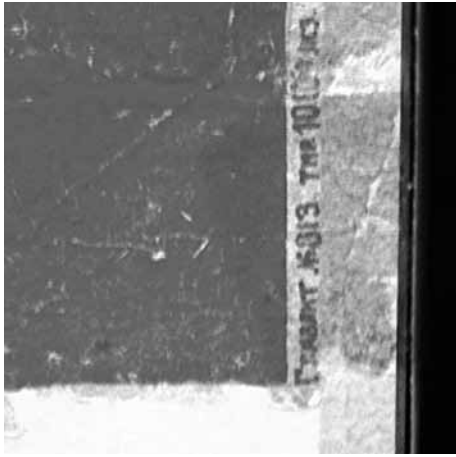


fig. 5 ステンベルク兄弟《愛の眼差し》の右下欄外部分

まず、《愛の眼差し》とは異なり、《キノグラース（映画眼）》には上辺に「ゴスキノ製作」と記されている一方で、「ソフキノ」の記載が無い。¹²⁾そして何よりも、《愛の眼差し》の右下欄外部分 (fig. 5) の文字の一部はG番号813と判読でき、《キノグラース（映画眼）》のG番号よりも後のものである。

ところで、上記のウラジミールの証言と人物表現に残る硬さから、「ステンベルク」と署名された《5時5分前》(図録II-2)が、ステンベルク兄弟による2番目の映画ポスターであることは、ほぼ間違いない。そして、《愛の眼差し》が1924年以降の発行であれば、《5時5分前》も同様である。ところで、展覧会開催後の調査で、《5時5分前》の額に隠された右辺欄外にG番号42034と「ベズボジニク」出版、石版印刷所」と記されていることが判明した。このG番号は、ステンベルク兄弟による《市場の子》(G番号43458、図録II-3)や《大衆の偶像》(G番号45583、図録II-4)や《困難な年月》(G番号50550、図録II-6)に比較的近い番号である。また、印刷所は1925年末に発行されたと推測できるロトチェンコによる《戦艦ポチョムキン》(G番号53233、図録II-95)と同じである。¹³⁾一方、1925年4月には、ステンベルク兄弟が中心となって、最初の映画ポスターの展覧会が組織されたことから、それまでに彼らがある程度の数の映画ポスターを手掛けていたと考えるのが自然であろう。¹⁴⁾

つまり、ステンベルク兄弟の映画ポスターへの関わりが1924年から翌年にかけて一気に深まると共に、彼らのポスター表現の技量も進化したと思われる。それは、とりわけ顔の陰影と髪の毛などの表現が、《市場の子》や《大衆の偶像》や《困難な年月》で繊細になっていったことなどに認められよう。

結びに

「ポスター発行時期とその考察」の結びに期待していた通り、松本コレクションの分析に加えて、袋コレクションの分析を加えることで、とりわけ1929年の検閲番号——とそれが示唆する当時の検閲の状況——について、新しい知見が得られた。つまり、グラヴリートとモズグヴリートは同時期に、分担は不明であるが、G番号とM番号の両方が記載された例がないことから、基本的にはそれぞれ別のポスターを検閲していたと考えられる。また、展覧会開催後の考察の結果、ステンベルク兄弟の初期の映画ポスターの順序については図録から変更する必要はないものの、その発行時期については、ウラジミール・ステンベルクの証言にも関わらず、再考の余地があることが判明した。

最後に、展覧会開催後、ヤーコフ・ルクレフスキーとステンベルク兄弟による8枚接ぎ大判ポスター《十月》が松本コレクションに加えて、サントリーポスターコレクション(大阪新美術館建設準備室寄託)にもあるとの指摘を

受けた。松本コレクションのもの(G番号D149、図録II-36、fig. 6)では、8枚接ぎの左下1枚がその他の7枚と版と材質に違いが見られる。左下以外の7枚の索具などの陰影には細かなハッチングが加えられているのに対して、左下1枚の陰影は砂目のみで比較的白い紙に刷られている。一方、ポジフィルムで確認する限り、サントリーポスターコレクションのもの(fig. 7)には、そのような部分的な差異は認められない。機会があれば、左下部分の欄外に記載されているG番号も含めて是非とも実物を確認したいと思う。尚、これら2点のポジフィルムは、両方のポスターがかつて同じ場所で撮影されたことを示している。

ロシア革命100周年となる2017年を目前に控え、革命十周年記念映画《十月》の貴重な大判ポスターが日本に2点も存在することに、感慨を覚えずにはいられない。



fig. 6 ヤーコフ・ルクレフスキーとステンベルク兄弟《十月》1927年、263.6×206.4cm, Ruki Matsumoto Collection Board (inv. no. 4319) © Vladimir Stenberg/ RAO, Moscow/ JASPAR, Tokyo, 2014 E1394



fig. 7 ヤーコフ・ルクレフスキーとステンベルク兄弟《十月》1927年、261.8×206.3cmサントリーポスターコレクション(大阪新美術館建設準備室寄託) © Vladimir Stenberg/ RAO, Moscow/ JASPAR, Tokyo, 2014 E1394

12) ソフキノが設立されても、1926年8月までゴスキノは「写真・映画生産トラスト」(プロダクション)として機能し続けた。『露西亞映畫史略』76、78頁。

13) 図録では、ステンベルク兄弟の《困難な年月》の制作年を1925年または1926年としたが、アレクサンドル・ラズムニー監督の映画が1924年に公開されていることと、G番号がロトチェンコの《戦艦ポチョムキン》に近く、かつ若いことから、1925年に発行されたと推測する。

14) Susan Pack, p. 307. 『露西亞映畫史略』75頁。

調査研究・執筆等

- 1) 当館開催展覧会に伴う調査研究・発表
展覧会図録への発表：13件（詳細は展覧会活動ページの各展図録内容を参照）
外部の媒体への発表：9件
- 2) 所蔵作品や館内の活動にかかわる調査研究・発表
当館の刊行物（年報・たいせつな風景など）への発表：5件
外部の媒体への発表：4件
- 3) その他の調査研究・発表
外部の媒体への発表：8件

外部資金の活用

- 1) 外部資金を活用した調査研究
科学研究費補助金（独立行政法人 日本学術振興会）
「新出と既知の高橋由一作《西周像》について」研究代表者（長門佐季）
「新出と既知の高橋由一作《西周像》について」研究分担者（伊藤由美）
「旧ソヴィエト連邦における宣伝印刷物の分科学的研究」研究代表者（靱山昌夫）
公益財団法人ポーラ美術振興財団
「2015年度開催を目指す「朝鮮を描く（仮称）」展研究会として、20世紀前半における朝鮮半島と日本をめぐる美術状況についてのデータベース活用推進等を目的に助成を受ける」研究分担者（李美那）
韓国近現代美術史学会
「国際学術大会「二重言語空間内の「彼ら」－在朝鮮日本人たちの美術活動」にて、「李王家所蔵日本美術品について」のタイトルで発表（開催日：2013年10月12日 於：韓国・ソウル ソウル大学校美術館）」研究分担者（李美那）
- 2) 外部資金を活用した展覧会・事業
「国立トレチャコフ美術館所蔵 レーピン展」（文化庁 美術品補償制度）
「松本瑠樹コレクション ユートピアを求めて ポスターに見るロシア・アヴァンギャルドとソヴィエト・モダニズム」（科学研究費補助金 独立行政法人 日本学術振興会）

講師派遣・外部委員等就任

1) 講演会講師等派遣（当館主催の学校連携プログラム以外の講師派遣）

実施日	内容	対象	会場	参加者数	主催	実施者
2013年5月16日	「芸術と社会－ヨーゼフ・ボイスの社会芸術」学外講師	学生	獨協大学	75	獨協大学	三本松倫代
6月26日	美術セミナー	中学2年生	北鎌倉女子学園中学校	62	北鎌倉女子学園中学校	李美那
10月20日	「戦後日本美術」をめぐるシンポジウム コメンテーター	一般	筑波大学東京キャンパス	70	平成25年度科学研究費助成事業	長門佐季
10月30日	講演会「舞台と芸術家－福沢一郎のバレエ美術を一例として」	一般	福沢一郎記念館	50	福沢一郎記念美術財団	西澤晴美
12月17日	「ミュージアム資料論」特別講師	学生	東北芸術工科大学	50	東北芸術工科大学	長門佐季
2014年3月22日	「新しい時代のアートマネジメントを考える」シンポジウム パネリスト	一般	学習院女子大学	160	学習院女子大学	李美那

2) 外部委員等就任

職員名	内 容	
	団体名	職 名
水沢 勉	平塚市	平塚市美術館協議会委員
	群馬県立館林美術館	群馬県立館林美術館作品収集委員会委員
	公益財団法人ボークラ美術振興財団	助成事業選考委員
	福岡市	福岡アジア美術館美術資料収集審査員
	熊本市	熊本市美術品等収集審査委員会委員
	東京国立近代美術館	東京国立近代美術館評議委員会委員
	岡山県立美術館	岡山県立美術館美術品評価委員会委員
	鎌倉市	鎌倉市教育委員会美術工芸作品収集選定委員会委員
	東京藝術大学	客員教授
	広島県立美術館	広島県立美術館評価委員会委員
	京都国立近代美術館	美術作品購入等選考委員会委員
	長野市	長野市野外彫刻賞選考委員
	橋 秀文	平塚市美術館
世田谷区		世田谷区立世田谷美術館美術品等収集委員会委員
東京国立近代美術館		東京国立近代美術館作品評価委員会委員
横浜市		横浜市美術資料価格評価委員会委員
山口蓬春記念館		山口蓬春記念館美術品評価委員
是枝 開	湯河原町	湯河原町美術品等選定委員会委員
	東京藝術大学	非常勤講師
畠山 昌夫	茅ヶ崎市	茅ヶ崎市美術品審査委員会委員

運営・管理報告

概況

(1) 沿革

昭和26年11月17日	神奈川県立近代美術館として開館
昭和41年 3月31日	収蔵庫及び常設展示室並びに附属棟を増設
昭和44年 3月31日	学芸員室を増設
昭和49年 8月 1日	神奈川県立近代美術館組織規則(昭和49年神奈川県教育委員会規則第9号)により、管理課、学芸課の2課を置く。
昭和59年 7月28日	別館を開館
平成 3年10月30日	本館の改修工事完了
平成13年 7月 5日	PFI事業契約の締結
平成15年 6月 1日	神奈川県立近代美術館組織規則の改正により、管理課、企画課、普及課の3課体制となる。
平成15年10月11日	葉山館を開館

(2) 所掌事務

県民の近代美術に対する知識及び教養の向上を図るため、近代美術に関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を実施する。

(3) 施設の状況

ア 土地

県有	(葉山館分)	面積	15,034.8㎡
	※生涯学習課管理		
	(鎌倉別館分)	面積	4,937.0㎡
借用	(鎌倉館分)	面積	4,243.1㎡
	(有償分)		1,547.2㎡
	(無償分)		2,695.8㎡

イ 建物

県有		面積	4,034.0㎡
	(鎌倉館分)		2,435.0㎡
	(鎌倉別館分)		1,599.0㎡

PFI事業の概要

(1) 事業内容

PFI法に基づいて、PFI事業者が葉山館建設やその後の維持管理業務などを実施し、県は提供されたサービスの対価を30年間で事業者を支払う。

PFI事業者が実施する主な業務は次のとおりである。

- ア 葉山館建設業務：葉山館新築工事、バスベイ・歩道整備工事など
- イ 維持管理業務：葉山館 建築物修繕、建築設備保守管理(修理を含む)、清掃、警備、受付・監視など
鎌倉館及び鎌倉別館 建築設備保守管理(修理を含まない)、清掃、警備、受付・監視など
- ウ 美術館支援業務：美術情報システムの整備及び運用支援、独立採算による付帯施設(レストラン、ミュージアムショップ、駐車場)運営
- エ 備品等整備業務：葉山館備品整備、美術作品等移転など

(2) 事業者

株式会社 モマ神奈川パートナーズ
所在地:横浜市神奈川区鶴屋町2-23-2
(落札した企業グループが設立した事業会社)

収入・支出の状況

収入	(千円)	
科目	金額	内訳
行政財産使用料	254	鎌倉館喫茶建物使用料等
使用料	36,271	観覧料収入
立替収入	1,981	レストラン他光熱水費
雑入	18,258	図録販売等
教育受講料収入	123	県立機関活用講座
計	56,887	

支出(人件費含まず)	(千円)	
科目	金額	内訳
維持運営費	66,857	維持管理
美術館事業費	83,455	展覧会開催費
調査研究事業費	360	調査研究資料購入
教育普及事業費	2,274	教育普及事業
美術作品整備事業費	4,424	美術作品購入・修復
特定事業費	409,429	PFI事業費
県立機関活用講座開催事業費	276	
計	567,075	

(趣旨)

第1条 この条例は、神奈川県立近代美術館(以下「美術館」という。)の設置、管理等に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 近代美術に関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を行い、県民の近代美術に対する知識及び教養の向上を図るため、美術館を三浦郡葉山町一色2,208番地の1に設置する。

(職員)

第3条 美術館に、事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

(観覧料の納付)

第4条 美術館に展示している美術館資料を観覧しようとする者は、別表に定める額の観覧料を納めなければならない。ただし、公開の施設に展示している美術館資料の観覧については、この限りでない。

2 前項の規定にかかわらず、特別な企画の展覧会を開催する場合の観覧料は、神奈川県教育委員会(以下「教育委員会」という。)がその都度別に定めることができる。

3 前2項の観覧料は、前納とする。

(観覧料の減免)

第5条 前条第1項本文及び第2項の規定にかかわらず、教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者については、観覧料を減免することができる。

(1) 教育委員会が開催する行事に参加する者

(2) 教育課程に基づく教育活動として入館する高校生(学校教育法(昭和22年法律第26号。別表備考において「法」という。)第1条に規定する高等学校及び中等教育学校の後期課程並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者をいう。別表において同じ。)並びに児童及び生徒の引率者

(3) その他教育委員会が適当と認めた者

(観覧料の不還付)

第6条 既に納付された観覧料は、還付しない。ただし、教育委員会が災害その他特別の事情により還付するのを適当と認めたときは、この限りでない。

(資料の特別利用)

第7条 美術館資料を学術上の研究のため特に利用しようとする者は、教育委員会の承認を受けなければならない。

(利用の制限)

第8条 教育委員会は、美術館の利用者が次の各号のいずれかに該当する場合には、その利用を制限することができる。

(1) この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。

(2) 他の利用者に著しく迷惑をかけるおそれがあると認めるとき。

(3) 施設、美術館資料等を損傷するおそれがあると認めるとき。

(4) その他教育委員会が必要と認めるとき。

(委任)

第9条 この条例に定めるもののほか、美術館の管理等に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

1 この条例は、昭和42年4月1日から施行する。

2 神奈川県立近代美術館条例(昭和26年神奈川県条例第46号)は、廃止する。

附 則(昭和50年12月27日条例第58号抄)

1 この条例は、昭和51年4月1日から施行する。(後略)

附 則(昭和55年12月23日条例第60号抄)

1 この条例は、昭和56年4月1日から施行する。(後略)

附 則(昭和58年12月21日条例第41号抄)

(施行期日)

1 この条例は、昭和59年1月1日から施行する。ただし、(中略)第8条の規定は公布の日から起算して8月を超えない範囲内で神奈川県教育委員会規則で定める日から施行する。

附 則(平成4年12月22日条例第62号)

(施行期日)

1 この条例は、平成5年1月1日から施行する。ただし、第2条及び第5条から第9条までの規定は、同年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 第1条、第3条、第4条及び第10条から第12条までの規定の施行の際現に申込みを受理しているものに係る神奈川県立音楽堂、神奈川県立相模湖漕艇場、神奈川県立体育センター、神奈川県立県央地区体育センター、神奈川県立西湘地区体育センター、神奈川県立武道館、神奈川県立スポーツ会館若しくは神奈川県立相模原球場(以下「神奈川県立音楽堂等」という。)の利用又は平成5年1月1日から同年3月31日までの間の神奈川県立音楽堂等の利用(相模湖漕艇場の艇庫の利用については、平成5年1月1日から同年3月31日までの間にその利用を開始し、かつ、その引き続き利用期間が平成5年4月1日以降にまたがる場合の当該平成5年4月1日以降の期間における利用を含む。)に係る使用料については、これらの規定に規定する各条例のこれらの規定による改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(平成13年3月27日条例第22号)
この条例は、平成13年4月1日から施行する。

附 則(平成15年3月20日条例第43号)
この条例は、公布の日から起算して6月を超えない範囲内において教育委員会規則で定める日から施行する。
(平成15年5月教育委員会規則第10号で、同15年6月1日から施行)

附 則(平成19年1月30日条例第3号)
この条例は、平成19年4月1日から施行する。

附 則(平成20年1月25日条例第1号)
この条例は、公布の日から施行する。

附 則(平成21年3月27日条例第25号)
この条例は、平成21年7月1日から施行する。

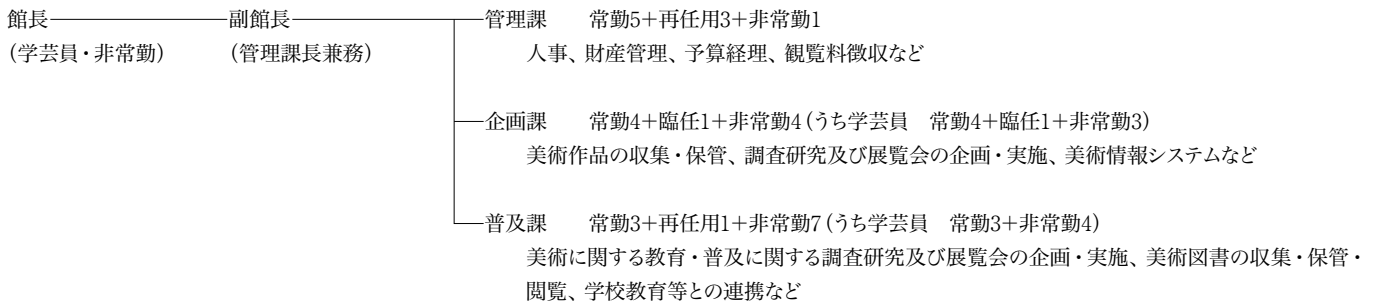
別表(第4条関係)

区 分	個 人	20人以上の団体
20歳以上65歳未満の者(学生及び高校生を除く。)	1人につき 250円	1人につき 150円
20歳未満の者(高校生を除く。) 学生(65歳以上の者を除く。)	同 150円	同 100円
65歳以上の者	同 100円	同 100円
高校生		

備考 1 学生とは、法第1条に規定する大学及び高等専門学校、法第124条に規定する専修学校並びに法第134条第1項に規定する各種学校に在学する者をいう。
2 学齢に達しない者並びに法第1条に規定する小学校、中学校、中等教育学校の前期課程及び特別支援学校並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者は、無料とする。

組織

葉山館の整備による組織の改編を行うため、神奈川県立近代美術館組織規則を改正(平成15年6月1日施行)し、従来の管理課・学芸課の2課体制から、管理課・企画課・普及課の3課体制となった。平成25年4月1日現在の職員配置状況は次のとおり。



職員数合計 31人
常勤13人(うち学芸員7人)、再任用4人、臨任1人(うち学芸員1人)、非常勤13人(うち学芸員8人)

施設別配置状況

葉 山 館 22人(常勤9人(うち学芸員5人)、再任用2人、非常勤11人(うち学芸員5人))
鎌 倉 館 9人(常勤4人(うち学芸員2人)、再任用2人、臨任1人(うち学芸員1人)、非常勤2人(うち学芸員2人))

職員一覧

館長(非常勤) 水沢 勉

副館長 鈴木 豊

管理課	課長(兼)	鈴木 豊	普及課	課長(兼)	橋 秀文
	副主幹	中田 馨		主任学芸員	是枝 開
	副主幹	田中 博		主任学芸員	棚山 昌夫
	主査	野村いく子		学芸員	三本松倫代
	主査	沼田 洋子		非常勤学芸員	土居 由美
	主事	阿部真利子		非常勤学芸員	松尾子水樹
	管理業務専門員	小神 敏行		非常勤学芸員	鈴木智香子
	管理業務専門員	薄井 健一		非常勤学芸員	長島 彩音
	管理業務専門員	小野 和子			
	非常勤事務補助員	篠崎千賀子		[美術図書室]	
企画課	課長	橋 秀文		図書業務主任専門員	市川 雄基
	主任学芸員	李 美那		非常勤司書	藤代 知子
	主任学芸員	長門 佐季		非常勤司書	小川さよ子
	学芸員	西澤 晴美		非常勤司書	上田木綿子
	臨時学芸員	朝木 由香			
	非常勤研究員	伊藤 由美			
	非常勤学芸員	酒井 一有			
	非常勤学芸員	川野 恵子			
	非常勤事務嘱託	浦 日出夫(5月1日から)			

年報 2013 (平成25) 年度

発行日：2015年3月20日

編集・発行：神奈川県立近代美術館

葉山 〒240-0111 三浦郡葉山町一色2208-1 電話 046-875-2800

鎌倉 〒248-0005 鎌倉市雪ノ下2-1-53 電話 0467-22-5000

鎌倉別館 〒248-0005 鎌倉市雪ノ下2-8-1 電話 0467-22-7718

<http://www.moma.pref.kanagawa.jp>

製作：求龍堂

ANNUAL REPORT 2013

Edited and published by The Museum of Modern Art, Kamakura & Hayama, 2015

Produced by Kyuryudo

© The Museum of Modern Art, Kamakura & Hayama, 2015

